

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔酒〕（経営者）	・現在の売上は新型コロナウイルス新規感染者数の増減と反比例している。このまま沈静化が進んでいけば売上は確実に増加することになる。様々なイベントや会合も再開されており、今後に期待を持てる状況になってきた。
		高級レストラン（スタッフ）	・観光シーズンを控えて、観光関連施設の予約が上向いている。外国人観光客の受入れも再開され、道民割に加えて全国旅行支援も予定されているため、今後の景気は良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・北海道や各市町村において、道民割等が実施されていることから、これまで抑制されてきた観光需要、旅行需要などが夏場の繁忙期を迎えて北海道に集中することを期待している。また、この2年間就航のなかった国際線が7月から復便する計画であることから、インバウンドがようやく回復の途に就くことになり、回復基調を後押しすることも期待できる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症が収束することになれば、景気は少しずつ回復することになる。
		商店街（代表者）	・3か月後は当地の夏祭りの翌月となるが、新型コロナウイルスの感染状況が低水準を維持していれば、客足は伸びることになる。また、これから道民割等の効果が現れ、当地を訪れる道内外からの観光客も増加することも期待できる。これらのことから、宿泊、交通、コンビニなどでの売上アップが見込まれる。
		商店街（代表者）	・6月に入り、観光客が順調に回復している。ただ、いまだに外国人観光客はゼロであり、新型コロナウイルス発生前の6割にも満たない水準にとどまっていることから、観光客回復に向けた支援が必要である。北海道の観光閑散期である冬に入る前に実施できるよう対応を急いでほしい。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症による外出自粛などがなくなったことから、観光客が増えている。ただ、外国人観光客が戻ってこなければ、経営が成り立つような状況にはならない。外国人観光客がコロナ禍以前のように来日できるように、政府にも対応をお願いしたい。
		百貨店（販売促進担当）	・今後も新型コロナウイルス新規感染者数や重症者数などの減少に伴って、来客数が回復し、売上も拡大していくことが見込まれる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症による規制が徐々に緩和されつつあり、様々なイベントなどが開催されるようになっていく。客の動きも活発になっており、今後の景気はやや良くなる。
		スーパー（店長）	・過去2年にわたって中止されていた各種のイベントが再開される予定となっており、それに伴う需要の復活が期待できる。
		スーパー（役員）	・食品の値上げに伴って消費額が増えており、景気が良くなる方向に進んでいる。
		コンビニ（エリア担当）	・夏場に向けて、世の中の流れは確実に上向いている。しっかりと準備して夏本番を迎えることで、来期にもつながることを期待している。
		衣料品専門店（店長）	・在宅勤務明け、転職と人の流れが出ていることで、ビジネスアイテムの需要が活性化している。
		家電量販店（経営者）	・エアコンを中心に夏物商材の売上増が期待できる。
	乗用車販売店（従業員）	・今後については、電子部品の供給不足など、海外のロックダウンの影響も大分緩和されると見込めるため、納期の遅れも多少は改善することになる。9月決算という当社の事情もあり、乗用車の売行きは今よりも良くなる。	
	自動車備品販売店（店長）	・今まで抑えられてきた人流が回復傾向にあるため、今後、消費が活発になるとみられる。ただ、物価上昇によって回復傾向にある消費が再び落ち込む懸念もある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔造花〕（店長）	・新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に落ち着くことで、人出が増加し、それに伴って景気も回復することになる。
		高級レストラン（スタッフ）	・団体客など、観光客に動きが出ていることから、今後の景気はやや良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・全国旅行支援への期待が大きいことが予約の動きからうかがえる。客からの問合せも多いなど、関心の高さを感じられることから、今後の景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・人の動きが出始めたことから、今後の景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・夏休み時期となるため、景気が良くなることを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・規制の緩和などが進んでいる現状から、今後、旅行者が一層増加することが期待できる。
		タクシー運転手	・イベント関係や夜型飲食店を利用した客の利用が目立つようになってきていることから、今後の景気もやや良くなる。
		タクシー運転手	・夏祭りなどを控えて、人の動きが活発になるとみられることから、今後の景気はやや良くなる。
		観光名所（従業員）	・国内観光客による利用が、徐々に新型コロナウイルス発生前の水準に近づいている。今後は外国人観光客の増加も見込まれるため、景気はやや良くなると期待している。
		観光名所（職員）	・新型コロナウイルス発生前の水準には程遠いものの、国内観光客が動き始めたことで、来場者数も徐々に回復している。今後は国内観光需要の一層の喚起とインバウンドの復活も期待できるため、景気はやや良くなる。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況について、6月のような状況が継続すれば、今後の売上は順調に伸びることになる。
		美容室（経営者）	・物価高は気掛かりだが、新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見られるようになってきたことから、このままの状況が続けば、景気も多少は良くなる。
		商店街（代表者）	・参議院選挙の真ただ中であり、選挙の結果次第で世の中の流れが変化することになる。
		商店街（代表者）	・空梅雨の影響で野菜や果物に高温障害が起きることが心配される。
		百貨店（売場主任）	・前年の7～8月は新型コロナウイルス感染症、猛暑、北京オリンピックの交通規制による来客数の減少がみられたため、今年は前年比プラスで推移するとみられるが、直近の大きなプラス要因はないため、景気は変わらない。ただ、今後、外国人観光客の来道が増えれば、プラス要因となり得る。
		百貨店（営業販促担当）	・目的買いの来客数は引き続き増えるとみられるが、全般的な物価の値上がり傾向が全体の回復を遅らせることになる。
		百貨店（マネージャー）	・気温の上昇とともに衣料品の動きが上向いているが、これから高額商材を中心に物価高の影響が出てくるとみられるため、今後も景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・観光客の動きが上向いているが、前年のような好天が続くかどうかははっきりしないため、今後も景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・商材の価格が上がっていることで、短期的にみると売上は増えているが、来客数が鈍化しているため、経営環境が良くなるとは限らない。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響は大幅小さくなっているが、前年は夏場の気温が高く、そのことが売上にも寄与していたため、今年は天候要因でのマイナスが懸念される。
		家電量販店（店員）	・7月が猛暑になることで、夏物家電の売行きが上向くことを期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・観光関連の景気は回復しているが、他の業界は今の状態が続くとみられるため、大きな変化は見込めない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の導入が予定されているが、販売台数を大きく押し上げることは見込めない。また、注文があっても登録されるまで売上が立たないため、納車までに時間が掛かる状況を考慮すると、今後も景気は変わらない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今後もこのまま景気が低迷し、価格の安さなどを求める客とサービスの質などを求める客の差が広がっていくことが見込まれる。相談対応している薬局にとっては厳しい状況となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・今後については、低予算で利用できる店を中心に飲食店の利用客が増えるとみられる。ただ、客単価が上がらないなか、仕入価格が上昇することで、利益を圧迫することが懸念される。客足が戻ってきた飲食店については、そろそろ第三者認証での認証基準を見直し、座席数を以前の状態に戻せるようにしてほしい。
		スナック（経営者）	・6月に入っても余り変わりがないため、7月以降も景気は変わらない。
		タクシー運転手	・人出が少しずつ戻っているため、タクシーの利用も増えるとみられるが、乗務員不足がなかなか解消されないことから、これから高齢ドライバーの退職が増えても補充できないことが懸念される。そのため、全体のタクシー稼働はますます少なくなる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の収束がみえてこない限り、本格的な景気回復には至らない。当地の新規感染者数は大分減りつつあるが、油断できない状況がまだ続くと思われるため、今後も景気は変わらない。
		通信会社（企画担当）	・当面は旧端末での他社との価格合戦が継続することになる。他の要因が新たに生じないとみられることから、今後も景気は変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後については、全国旅行支援も予定されていることから、このまま好調な状況が持続する。
		スーパー（店長）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響に加えて、物価上昇や新型コロナウイルス感染症などのマイナス要因も懸念されるため、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・光熱費、消費財、食品について、これから値上げが本格化するとみられ、それに伴って買い控えなどの生活防衛的な消費行動が顕著になると見込まれる。今後の消費環境は一段と厳しくなる。
		スーパー（企画担当）	・これから小麦高騰の影響による価格転嫁が本格化すること、農作物や畜産物の価格に肥料価格高騰の影響が反映されてくることから、先行きのみえない状況にある。
		コンビニ（店長）	・光熱費の値上がりによって家計がひっ迫し、し好みや食料品の節約が進むことが懸念される。スーパーより価格設定の高いコンビニにとっては不利な状況となる。
		乗用車販売店（従業員）	・販売量が相変わらず落ち込んで推移しているなか、様々な物が値上がりし始めており、会社の経費が膨らんでいる。利益がますます上がらなくなっていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・このまま多くの物の値上がりが進むと、価格を上げなくてはいけなくなる。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向が鈍ってきている。また、円安やウッドショックの影響により、輸入品や原材料の価格が上昇しており、それに伴って住宅着工数も段々と落ち込んでいる。これらのことから、3か月先の景気は厳しい状況となる。
		住宅販売会社（経営者）	・インフレで建築資材の高騰が続いており、分譲マンションの建築コストも高くなっている。客の所得が増加しない限り、分譲マンション市場においては供給価格の上昇に伴って、需要が徐々に減少することになる。
	×	スーパー（従業員）	・食料品の価格上昇が継続することで、需要の低迷が懸念される。人件費と光熱費などの経費増もあり、収益悪化が見込まれる。経費節減や投資抑制の傾向が続くことも懸念される。
	×	観光型ホテル（経営者）	・全国旅行支援の実施予定がはっきりしていないことに加えて、物価高などによる仕入価格の上昇、過剰な新型コロナウイルス感染症対策のまん延などの影響もあり、先が見通せない状況にある。
	×	タクシー運転手	・これまで新型コロナウイルス感染症による消費行動抑制は可処分所得に余り影響していなかったが、ウクライナ情勢、原油高、円安などの影響は消費者の可処分所得の減少につながっている。今後については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けなかった産業にも消費抑制が波及することが懸念され、景気はますます下向くことになる。
企業		*	*

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連 (北海道)		建設業（経営者）	・今後については、工事の受注が進み、土木、建築共に持ち直し工事が増え、稼働率が上がることになる。一方、観光関係の需要が徐々に戻りつつあることから、街中の景気も上向くことになる。ただ、例年のことだが、秋口からは人手不足が顕在化するともみられるほか、エネルギー関係や資材の高騰、納期の遅れなども懸念され、原価、工程への影響がどの程度になるかを心配している。
		建設業（役員）	・当面は現場配置可能な技術員のフル稼働状態が続き、年度前半の好調な推移が見込まれる。ただ、燃料や建設資材の価格高騰と品不足が工事原価や工期に影響を及ぼす懸念が増しつつある。
		金融業（従業員）	・インバウンドの受入れ再開によって、道内景気が徐々に押し上げられることが見込まれる。個人消費はコロナ禍の影響が和らぐ一方、消費者物価の上昇が持ち直しペースを緩やかなものにとどめる懸念がある。米国や中国などの海外経済が下振れする影響も懸念されるものの、全体的には3か月後の道内経済はやや良くなる。
		司法書士	・新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に収まりつつあり、規制や自粛が解除されることによって、景気の回復が見込める。ただ、ロシアのウクライナ侵攻などの要因による原材料不足、ガソリンや資材の価格高騰が今後も続くようであれば、景気が下向く懸念もある。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・民間設備投資が好調なことに加えて、公共事業の発注も遅ればせながら進むとみられる。政府の景気浮揚策も積極的に発せられていることから、今後については、景気回復に拍車がかかることになる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・案件は増えているが、人手不足の状態が変わらないため、受注に結び付かない状況となっており、今後も景気は変わらない。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・鉄骨関連企業では夏以降の仕事量が増えるようだが、全般的にまだ動きが鈍く、メーカーの値上げや欠品などの影響もみられるようになっていることから、今後も景気は変わらない。
		食料品製造業（従業員）	・商材の値上げが進んだとしても、それ以上に、原材料や燃料、エネルギー、輸送費が上昇していくため、利益の出ない状況となっていくことが見込まれる。
		金属製品製造業（従業員）	・1～4月までの新築住宅確認申請戸数が前年比で20%ダウンしている。今後も回復する気配がないため、9月以降の受注はかなりの落ち込みが見込まれる。
		建設業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の影響による民間の発注控えに加えて、官庁からの発注件数も半減している。さらに、コスト高による発注控えが追い打ちをかけている。今後については、かなり厳しい状況となりそうだ。
		輸送業（支店長）	・燃料費を始めとして全ての経費が値上がり傾向にある。すぐに価格転嫁できる訳ではないため、今後の景気は徐々に下向くことになる。
		通信業（営業担当）	・通信・IT業界において、半導体不足による通信、サーバー機器などの納期遅れがみられ始めている。今後、業績への影響がますます大きくなるとみられることから、先々の景況感はやや悪くなる。
		司法書士	・現状、円安の影響が大きくなっている。今後2～3か月でロシアのウクライナ侵攻が終結する見通しも立たないため、景気は低迷したまま悪化することになる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・物価高や納期の遅れが続くとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	・円安や物価高はあるものの、求人分野では業種を問わず人手不足が顕在化していることから、景気は足踏みしながらも少しずつ良くなる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・3年ぶりに開催される大規模イベントが多く、今後の消費活動が期待できることから、それに伴って景気もやや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は1年2か月連続で前年を上回っており、全体としては回復の兆しがみられる。ただ、産業や業種によってその度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、経済活動や消費行動の状況が先を見通せない状態になることも懸念される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・これまで採用を手控えていた業界において、採用活動が再開されるなど、好感感がうかがえることから、今後の景気はやや良くなる。
		人材派遣会社（社員）	・売手市場のなか、企業の採用意欲が落ち込むような状況はみられず、企業が人材確保の手を緩めていないことがうかがえる。労働市場では、求職者の辞退も多いが、求人企業は諦めずに採用活動を継続することになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・今後、新型コロナウイルス新規感染者数が増えたとしても、過度な警戒感や引締めにはつながらないとみられることから、今後、徐々に経済が通常モードとなる。ただし、物価高が回復にブレーキを掛ける可能性があり、求人を様子見する業界が出てくるのが懸念される。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・経済活動活性化への期待が高まっている一方で、物価高によるマイナスの影響が出てくる可能性がある。今後の利率率の低下や個人消費の落ち込みが懸念される。
		職業安定所（職員）	・コロナ禍による事業環境の変化が進むなか、原油や原材料の価格高騰など、事業環境の悪化を招く要因は多いものの、業況が堅調な事業所からの求人がみられることから、今のところ新規求人数は増加傾向にある。また、これまで転職を控えていた人が求職活動を開始していること、高齢を理由に離職した人が増加していることなどで、新規求職者数も増加している。
		職業安定所（職員）	・国際情勢が先行き不透明なこと、いまだに新型コロナウイルス感染症が収束しないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	x	*	*

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		-	-
(東北)		商店街（代表者）	・夏のイベントや祭りの再開が予定され、県外からの旅行者や帰省客が見込まれる。夏場に向けて人の動きが活発になる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況に収束感がある。
		商店街（代表者）	・祭り開催への機運が高まっていく。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・祭りや観光客が増えるため、販売量は増えると予想される。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況は変わらず注視していかなければならないが、現状が続けば良い方向に向かっていくとみている。ただし、急激な物価上昇が不安要素としてあり、注意深く見ていかなければならない。
		コンビニ（経営者）	・コロナ禍のなかでも客単価と買上点数は堅調に推移してきたが、人の動きもようやく出始めてきた。今後も規制の緩和が見込まれ、更に土日や夜間の人の動きが見込める状況になってきている。また、特に夕方の飲酒対策ドリンクなどの動きが顕著になってきている。
		コンビニ（経営者）	・大きな祭りが3年ぶりに開催される。多少の規制はあるが、間違いなく売上は上がる。冬の地獄を乗り越えるためにも夏場ががっちり稼ぎたい。
		コンビニ（経営者）	・来客数の不安は拭えないが、当面は販売量、単価の増加が来客数の減少をカバーできると推測される。
		コンビニ（経営者）	・夏に向けて人の動きが良くなってきている。
		コンビニ（エリア担当）	・盛夏以降もコロナ禍収束による更なる人流増加が見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・気温上昇により人の動きが活発になれば、来客数の改善が進むとみられる。また、夏祭り等の開催も通常に戻ることが予想されるため、来客数の改善が進むことを期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・イベントも多く開催されるため、それに伴って人の動きが増加するとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・例年どおりの天規模な祭りなどが開催され、人出は順調である。今後も更なる経済効果を期待したい。
		衣料品専門店（店長）	・コロナ禍で止まっていたものが動き始めている。動き始めると、我々の商品のような服を着る機会が増え、消費が回復してくる。ただし、円安や物価高により商品にも価格転嫁をしなければならないといった局面になれば、足を引っ張られてしまう懸念はある。しかし、足元の景気をみていると景気はどんどん回復していくのではないかとみている。
		衣料品専門店（総務担当）	・自粛されていたイベント、大会等が再開される状況になっているため期待したい。
		家電量販店（従業員）	・ボーナスの支給額が増えている企業が多い状況のなかで、下見の客が増えてきていることから、来月以降はより多くの売上が見込めると予測している。
		乗用車販売店（従業員）	・新規来客数も微増だが増えてきている。新型車の発表から全体の商談件数も増加にあり、納期は半年先だが徐々に回復傾向にある。
		乗用車販売店（店長）	・新車納車が進むにつれ下取車が続々と入荷しているため、点検整備が追いつかない状況にある。中古車の在庫確保に光が差している。
		住関連専門店（経営者）	・お盆とお彼岸が絡んでくるため、売上に結び付くと期待している。新型コロナウイルス新規感染者数の減少も期待していることである。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・自治体の飲食業向けのキャンペーンの活用により、外出回数が増えることで来客数の増加が期待できる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスの感染状況や物価高といった不安要素はあるものの、現在の景気の上昇傾向は続くともみている。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスをこれまで気にしていた高齢者の来店が増えている。テレビでも新型コロナウイルス関連の放送が少なくなってきているため、今後も順調に増えていくとみている。ただし、物価も上がってきているので、金を使ってくれるかどうかの懸念もある。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数次第である。今のまま新規感染者数が増えなければ、段々と良くなっていくとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・県民割が全国に拡大され、Go To キャンペーンに代わる全国旅行支援が開始される予定である。
		観光型旅館（経営者）	・大きな出来事もなく、新型コロナウイルス感染症の各種制限などが緩んでいけば、徐々に回復に向かうとみている。
		旅行代理店（従業員）	・県民割の延長に加え、全国旅行支援も予定されており、良くなると期待している。
		旅行代理店（従業員）	・県民割が全国旅行支援に拡大することで業界全体が盛り上がるのが予想される。
		タクシー運転手	・現在はまだ新型コロナウイルス感染症を警戒している人たちも多くいるが、新規感染者数も減少傾向にあることから、景気は上向きになるとみている。ただし、ロシアのウクライナ侵攻が早期に終了すればという条件付である。
		テーマパーク（職員）	・夏休みと秋の行楽シーズンで客が戻ってくるとみている。
		観光名所（職員）	・客単価は順調に上がっているが、Go To Travel のときのようなクーポンを利用した買物はない。現状にクーポンを利用した買物が加わると、客単価が更に上がることが予想される。
		競艇場（職員）	・7～8月は夏のイベント開催が来場促進につながるとみている。固定客に加え新規客を獲得できれば売上も期待できる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・今後の全国旅行支援の開始に期待している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束し、旅行者が多くなれば街はにぎわうが、物価が上がっている状態では客は買物に非常に慎重になるため、現在のやや悪い状況とほとんど変わらないとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・暑くなっていくのでそれに関連した商品が出れば良くなる。しかし、物価高が押し寄せてきているため、先行きは不透明である。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないなか、ますます進む物価高で客も物欲が落ちているようである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経営者）	・一時的には、早期の梅雨明けによりセール商戦を中心に活発に動くものとみているが、夏商戦後半には元々の生産量を抑えている影響で、店頭商品の欠品が予測され、苦戦するのではないかと懸念している。
		百貨店（売場担当）	・今後更に物価高への関心が高まれば、物価高に対し何らかの策がとられない限り、状況に変化はないとみている。
		百貨店（催事担当）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、イベントや旅行等の再開により需要拡大が期待される一方で、食料品を始め、各種生活必需品の値上げが消費回復の妨げになることが懸念される。
		スーパー（店長）	・来客数、単価、販売点数、全てがマイナス傾向である。多くの商品が値上げになっている影響もあるが、ガソリン価格の高騰も少なからず影響している様子で、節約志向が続いている。
		スーパー（企画担当）	・食品小売業に関しては新型コロナウイルス特需ももうほぼ終わっている。今は物価上昇による客の買い控えが進み、なかなか売上を伸ばすことができないでいる。この状態は今年一杯は続くのではないかとみている。
		スーパー（営業担当）	・コロナ禍3年目の夏で人流は増え、帰省も増えると予測するが、値上げラッシュ、原油価格の高騰などが生活を直撃し、節約ムードが高まるとみている。
		コンビニ（経営者）	・なかなか景気が上向かないなか、物価の上昇具合が大きいいため、客の動きがあっても購買数量や購買意欲が上がってこない。
		コンビニ（経営者）	・今年は3年ぶりに夏祭りの開催が決定し、日常生活が徐々に正常化していくとみている。しかし、新型コロナウイルス発生前の売上や利益に戻るのにはもう少し先とみている。
		衣料品専門店（経営者）	・お中元商戦に向かっているが、価格上昇により数量が落ち込むとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が変わらなければ、秋物の立ち上がりに期待できるが、物価の上昇による影響も懸念される。
		衣料品専門店（店長）	・一般客の動向をみていると、円安による物価高に対して、消費に慎重になっている人が増えているようである。
		家電量販店（店長）	・季節商材は猛暑の影響で売上が上がる傾向がうかがえる。しかし、買換え需要の商品以外、新しい商品カテゴリーのものなどは伸びる要素が見当たらない。
		家電量販店（店長）	・先行きは不透明である。
		乗用車販売店（従業員）	・半導体不足の影響でなかなか新車が入荷にならず、購入を諦めている人が多い。
		乗用車販売店（従業員）	・あらゆるものの価格が高騰している感覚がある。生活に直結する商品に重さが置かれ、自動車購入は後回しになるとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・半導体不足の解消には至らないとみている。
		自動車備品販売店（経営者）	・ようやく人の移動がチラホラ出てきているが、当業種においてその結果が目に見えてくるのは1年又は2年後の車検時になる。
		その他専門店 [白衣・ユニフォーム]（経営者）	・今年の秋口からほとんどのメーカーで値上げを予定している。値上げ前に購入する企業もあるが、結果として購入量を減らすことが予想される。また、価格見直しによる見合わせで単価の安いものへと移行することもあるとみている。値上げのサイクルが非常に短く、値上げ直後に再値上げをするメーカーもあり、今後の対応が苦慮される。
		その他専門店 [食品]（経営者）	・ウィズコロナで人の流れは戻りつつあるが、消費行動へ移るかという不確かである。毎月のように一般消費財の値上げがあり、財布のひもが固くなるとみている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	・現行の高値も補助金による緩和措置後の価格であり、今後原油コストが低減しても価格水準は変わらないとみている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	・夏季期間は灯油の販売は低迷する。レギュラーガソリン店頭販売も高価格のため、伸びは見込めないとみている。
		高級レストラン（経営者）	・世の中全体に少しずつ動きが出始めているため、景気も上向いているとみられるが、実際にいるいるなものが回復してくるのは夏以降である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（スタッフ）	・物価の上昇はしばらく続くともみている。
		観光型旅館（スタッフ）	・現状良くなっているのは、結局のところ県民割等によるところが大きい。感染状況が現状維持のままの場合、県民割等も継続となり、変わらないともみている。
		旅行代理店（従業員）	・個人、団体共に増加傾向であり、国内マーケットでの需要拡大は期待できる。現在よりも良くなるためには海外及び団体の回復が必要で、それがなければ現状維持が想定される。ただし、新型コロナウイルス感染症の制限解除が維持されているという条件付である。
		通信会社（経営者）	・7～8月にかけて加入促進キャンペーンの実施や営業スタッフの増員などを行って細かく営業展開をするため、若干の加入者数の増加を期待している。ただし、競合他社との客の奪い合いも続いているため、純増数では大きな変化はみられないともみている。
		通信会社（営業担当）	・好転する材料もないため、やや悪くなる可能性も残すが、変わらないともみている。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響もまだあり、観光に出掛ける人も余りいないようである。
		住宅販売会社（経営者）	・客が慎重で受注までの時間が長い。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器はエアコンの需要期に入り問合せが増えるともみている。リフォームは資材、商品の納品遅れの影響が続くとみている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・ウッドショックなどの影響から住宅購入費用が高騰し、4月から住宅購入を考える人の動きは鈍化している。数か月は同様の状況が続くとみている。
		商店街（代表者）	・6月は景気回復期の一時的な現象で多少の客が戻っている。しかし、この先の予約状況をみると現在の戻りは一過性で、景気、売上はやや悪くなるのではないかと予想している。
		商店街（代表者）	・景況感が悪くなるだけでなく、大幅で大量の値上がりにより消費が減るとみている。
		百貨店（計画担当）	・参議院選挙の後だが経済政策の影響は短期的には好転せず、物価や光熱費の高騰で消費マインドは厳しくなる見通しである。
		スーパー（経営者）	・電気料金や食料品の値上げにより、買上点数が減少している。円安やウクライナ情勢が好転し、これらのマイナス要因が解消されない限り、回復は厳しいともみている。
		スーパー（営業担当）	・値上げ、青果物の生育状況の悪化などにより、生活防衛意識が高くなるとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・物価上昇により、お盆明け以降、消費が減少するとみている。
		コンビニ（店長）	・街中は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことにより、県外から人が入ってきており、前年と比べればそれほど悪くない。しかし、工事関係、建設関係の仕事が減っているせいで、郊外の街道筋の店は来客数の数字をかなり下げている状況である。原油価格がどれくらいで落ち着くのか、選挙が終わって上がったりはしないかという不安もあり、消費を控えている状況になっているともみている。
		衣料品専門店（店長）	・物価上昇により景気が低迷すると、また買い控えが増えることが予想される。
		住関連専門店（経営者）	・受注残が減少してくるため、今月よりも販売量は少なくなる。現在営業活動で受注を増やす施策を考えているが急激には増えない。よって、やや悪くなる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、このままマイナス要素がなければ希望が持てたが、新型コロナウイルス感染症よりもウクライナ情勢の影響が大きくなっており、様々な物価上昇が非常に厳しいものになっている。今後値上げが続いた場合、市場全体で売上減少の可能性があるかと危惧している。
		一般レストラン（経営者）	・物価が上がっており、購買意欲も低下してくることが予想される。レストランの経営に当たっても、材料価格が高騰しており、商品の値上げを断行せざるを得ない状況になっている。また、新型コロナウイルスにプラスして、選挙が始まると景気が動かなくなることもあることから、今後も厳しい状況が続くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・物価の上昇がかなり激しく、食材によっては倍くらいの値段になっており、電気料金も上がっている。いまだ客の戻りが完璧ではないため、景気はやや悪くなるのではないかとみている。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス発生以降、一般消費者は消費意欲が欠けている。消費意欲を盛り上げる施策がないと景気は良くなる見込みがない。
		通信会社（営業担当）	・ウクライナ侵攻によるロシア経済の衰退の影響が徐々に出てきている。それによる物価高や、自然災害による農産物の供給減少の可能性があるため、やや悪くなるとみている。
		通信会社（営業担当）	・各業種において今後更なる値上げが予定されており、一部に値上げ前の駆け込み需要があるものの、景気が上向きには至らず、今後景気は更に悪くなるとみている。
		通信会社（営業担当）	・ますます物価が上昇し、客の要求も厳しくなることが予想される。
		遊園地（経営者）	・物価上昇を価格に転嫁できるか、家計の影響はどうかと考えると、弱含みで推移していくとみている。
		美容室（経営者）	・美容業界も材料の仕入価格が軒並み上がってきている。商品関係も来月から上がってくるが、それをなかなか販売価格に転嫁できないこともあり、内情的には厳しくなるとみている。
		設計事務所（経営者）	・資材価格の上昇や品薄による工期の延長が発生しているが、変動が大きすぎて判断が難しい。復興需要も落ち着き、建設投資も一段落しており、下降状況には変わらない。
	×	一般小売店〔書籍〕（経営者）	・出版社の出版点数が非常に落ち込んでいるため、商品力が大変厳しくなってきている。しばらくはこの状態が続くとみている。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・客の来店頻度や購買姿勢にかつてなかったような異変がある。新型コロナウイルス感染症対策で施行された経済対策の効果が息切れしているところに、物価上昇、世界的な株価下落と景気低迷が重なる等、大きな地殻変動が発生している。
	×	スーパー（経営者）	・これから更に、各メーカーの製造原価、仕入原価、卸の輸入原価、輸送・配送費、そして電気料金等インフラ費用の急激な増大と人件費の増加が続くことが見込まれるため、消費に悪影響を与える状況が続くとみている。今後しばらくは、消費環境が一層悪化することも覚悟しなければならない。
	×	スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が続き、ウクライナ情勢も収束のめどが立たないなか、気候変動という大きな課題に直面し、マインドが上向き要素がない。
	×	スーパー（店長）	・旅行、外食需要が高まっており、スーパーから足が遠のいている。
	×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症による行動制限はなくなったが、平日は来客数が50～100人減っている。これから気温が上がってもなかなか増えてこないとみている。
	×	一般レストラン（経営者）	・円安の影響が出てくる。それにより、コロナ禍によって減退していた消費意欲が更に減退するため、当面消費活動は停滞するとみている。
企業 動向 関連 (東北)		建設業（企画担当）	・客との対応、業務上で接している環境に鑑みて、周りでいわれているほど悪さを感じていない。
		食料品製造業（製造担当）	・イベント開催等により県外からの人流が多くなると予測される。ただし、労働人口不足や円安等、新型コロナウイルス発生前のような体制が整っていないため、やや良くなるにとどまる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況の収束に伴い、イベント等の再開による印刷、広告が増えることが期待できる。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・まだ不安定要素はあるものの、良い状況となりつつある。一部事業の伸びも出てきており、今後につながる動きになってきている。
		建設業（従業員）	・現在金額交渉中、契約協議中の案件の契約が進捗してくる見通しである。
		金融業（広報担当）	・地域の景気動向に大きな作用をもたらす夏祭りが、今年は従来どおりとはいかないまでも開催されることが大きい。夏の観光ニーズ取り込みに関連する諸業界の期待は高く、開催時期に向けて経済的な動きは顕著になるものと予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		公認会計士	・小売、飲食、サービス業は新型コロナウイルス感染症対策としての県民割サービスの利用などが進み、今よりも業績回復が進むとみている。また、円安の影響がはっきりしないが製造業、建設業も現状程度の業績を維持すると予想され、景気はやや良くなると判断している。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・夏休みシーズンに入り、人の往来が更に活性化することで、業務用を中心に回復が見込める。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・原材料のみならず、電気、ガス、燃料費の高騰による価格の引上げ依頼は沈静化するどころか、新たな取引先、メーカーからも引上げ交渉の相談をされる有様である。
		金属製品製造業（経営者）	・ウクライナ情勢や半導体不足などの懸念材料はあるものの、足元の受注状況は好調である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・取引先においては、今後も継続して事後保全での対応と想定している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・継続的な需要は期待できるが、各種部材の枯渇、納期遅れが広がりをみせており、景気上昇の抑制リスクになるとみている。
		建設業（従業員）	・受注量は増えているが、資材価格の動向には注視していく必要がある。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が景気動向に与える影響は薄れ、人流は少しずつ増えていくのではないかとみている。問題はウクライナ情勢である。原油価格のみならず、多品目にわたり価格が高騰している。原油価格が下がらない限り、業界の景況感は良くなるとみている。
		通信業（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響で、客はまだ消極的な感じがある。辛抱強く客との接点を探り続けるのみである。
		広告業協会（役員）	・夏のイベントは新型コロナウイルス発生前の規模で実施されるなど回復傾向にあるが、広告業界全体としては、経済環境の悪化で企業の販促活動も依然低調のままと予想しており、今一つ上昇気運に乗れない状況である。
		経営コンサルタント	・参議院選挙後の景気刺激策に期待している。
		コピーサービス業（従業員）	・仕入先からの値上げの通知もほぼ落ち着くとみしており、ここが底ではないかと楽観的に考えている。販売価格を上げるために丁寧な説明をしていくしかない。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・夏のにぎわいに期待しているものの、先行きは不透明である。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・受注案件、受注量共に激変等はみられない。原材料費等の高騰はまだまだ続くことが予想され、収益の圧迫は避けられそうにない。
		農林水産業（従業者）	・今年の梅雨明けは例年より2～3週間早まる予想なので上質な果物を期待するが、販売面で資材分を上乗せして売れるか心配である。
		農林水産業（従業者）	・エネルギー資源価格の上昇や円安が燃料費や資材費を押し上げ、コスト増となる。
		食料品製造業（経営者）	・秋口から製品の値上げを実施するが、消費のダウンが怖い。秋の値上げだけではコストを吸収し切れない。円安の影響でまだまだ原材料も値上がりしそうである。
		食料品製造業（営業担当）	・原材料価格の高騰による製品の値上げを予定しており、売上に悪影響があることは確実とみている。ここ2～3年のコロナ禍より厳しい状況になることも考えられる。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響等により、資材価格の高騰や物価上昇に歯止めがきかない状況であり、経営的に収益の悪化が懸念される。
		通信業（営業担当）	・物価上昇の影響で、客の購買意欲が下がっている。先が見えないため、慎重になっている。
		司法書士	・客である戸建て住宅建築会社の建物着工数が減少傾向にある。
	×	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・2～3か月後も小麦粉関係やドリンクの値上げが発表されているなど、全体的に値上げが続くとみているが、そうなれば購買力が低くなることが予想される。
雇用関連		*	*
(東北)		人材派遣会社（社員）	・状況に大きな変化はないとみられ、このまま順調に推移していくとみている。
		人材派遣会社（社員）	・現状推移でいけば回復の見込みは十分ある。ただし、ウクライナ情勢の影響が第3四半期以降にどう響くかという懸念がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		アウトソーシング企業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きを見せており、ウィズコロナの流れになってきているようであり、会議なども平常化するのではないかとみている。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・夏祭りが3年ぶりに復活する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・夏祭りの復活は地域に明るい話題であり、経済活動の回復に期待が持てる。
		職業安定所（職員）	・求人数が求職者数を上回る状況が続いている。
		民間職業紹介機関（職員）	・10月以降の採用についての相談等が増えてきている。
		人材派遣会社（経営者）	・飲食業、旅館業、サービス業、物流倉庫の求人数は相変わらずあるが、新型コロナウイルスの感染状況、ウクライナ情勢、円安により先行き不透明な状況が続くとみている。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が大分収束してきたため景気回復を期待していたが、消費者の行動はまだ慎重である。また、燃料価格の高騰や物価高が顕著であり、消費行動はますます慎重になってきているため、改善が見込めない。
		職業安定所（職員）	・ウクライナ情勢による燃料の価格高騰に加え、光熱費、工業資材、農業肥料、食料油、食料品の価格高騰が日々顕著になっており、求人数増加の好況感を打ち消している。また、事業所からは物価高などで収益幅が小さくなっているという声が多く、数か月先の景気は変わらないとみている。
		その他雇用の動向を把握できる者	・新型コロナウイルス感染症が拡大しない限り、企業の募集が活発な現在の傾向は続くとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数は人手不足から堅調に推移しているようであるが、インフレによる物価高で家計圧迫、需要後退の懸念がある。結果的に企業業績が悪化し、失業率が上がることを不安視している。
		職業安定所（職員）	・物価高に対して賃金が上がらず、有効な経済対策もされていないため、消費は冷え込むことが予想される。
		学校〔専門学校〕	・新型コロナウイルス感染症による行動制限はなくなったものの、ウクライナ情勢等による物価上昇が購買行動に与える影響が大きくなることが予想される。
	x	-	-

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北関東)		百貨店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が現状維持であることが前提だが、客の外出機会の増加やマスク着用の緩和等で、更に来客数が増加し、ファッション関連商材の購入拡大が進み、段階的ではあるが、売上の堅調な回復が図られていくと考えられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊は、新型コロナウイルス禍前の2018～2019年の水準に戻ってきている。レストランもランチタイムの来客数は、2019年と遜色ない。宴会や講演会等の件数も増えてきている。ただし、1件当たりの人数を平均すると、新型コロナウイルス禍前より10人程度少ないので、この人数が増えてくれれば、もう少し見通しは明るくなりそうである。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今後増えない限り、改善傾向が続く。また、海外旅行者の受入れが増えれば、更なる回復傾向が見込める。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・前月に比べて、外国人観光客の姿が多くみられるようになっている。また、国内旅行者も徐々に増えてきているので、新型コロナウイルスの感染状況がこのままで推移すれば、観光地の景気も良くなっていくのではないかとみている。ただし、飲食店等では、新型コロナウイルスの感染対策で間隔を空けて座ってもらうために収容人数が減少しているため、新型コロナウイルス発生前の売上水準に戻るには、まだ時間が掛かる。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、現状が続けば、売上の回復傾向は継続すると考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・毎日暑い日が続き、7月は季節要因もあるので、売上は伸びていく。また、新型コロナウイルスの感染状況も一段落したと世の中の的には感じている様子で、人の動きは活発になっているため、売上増につながるだろう。一番の懸念材料は、物価高騰による営業経費の増加である。特に、電気代は前年比135%と跳ね上がり、利益を圧迫している。
		コンビニ（経営者）	・現状の外的要因に変化が起きる見込みがないので、やや良くなるのではないかと。
		衣料品専門店（統括）	・例年だと2～3か月後の秋から冬に向かって、客の動きが良くなり売上も増えてくるが、今年はどうなるか分からないと心配している。
		家電量販店（店員）	・長期予想で猛暑が期待できれば、季節商材を中心に需要が伸びる。中国上海のロックダウン解除で物流改善の結果が出て、商材供給が潤沢になれば、景気は上向くかもしれない。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型コロナウイルスの行動制限緩和で、良くなると思う。7～8月の夏休みに入ると、恐らく観光客はかなり増えてくる。当地は観光地なので、ホテル関係が良くなれば、我々一般企業にもお金が回ってくると思うので、多少良くなると期待したい。
		旅行代理店（所長）	・夏季シーズンを迎えるが、全国旅行支援により、効果の拡大に期待したい。
		旅行代理店（従業員）	・海外からの入国が増えた際の新型コロナウイルスの感染拡大に注意しなくてはならないが、客の旅行意欲は高まっていると感じる。
		タクシー（経営者）	・6月も動きが良く、夜の動きが少し良くなってきたので、この先も良くなるのではないかと。
		テーマパーク（職員）	・早い梅雨明けによる猛暑の夏になることが心配だが、新型コロナウイルス禍からの回復とともに、県民割等により、個人客も増加してくるのではないかと。
		設計事務所（所長）	・一時に比べると、飲食旅客業界の客足も良くなってきており、今後は旅行も増え、景気は上向くのではないかと。
		設計事務所（所長）	・各地の入出は多くなっているようなので、多少であっても景気は回復する。
		住宅販売会社（経営者）	・今まで新型コロナウイルスの影響が大きかったが、ここに来てやっと収束しつつあり、多少動きが出てきたところである。
		商店街（代表者）	・祭りやイベントの開催等で、新型コロナウイルス禍以前に戻りつつあり、更に夏に向けたレジャーを楽しむ人も増えてきている。一方で、食品や家庭用品等の値上がりで、一段と財布のひもは固いようである。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・各種イベント、七夕、納涼祭、花火大会等の規模を縮小して開催するというような話が出てきている。良い方向になると思うので、客も安心できるのではないかと。しかし、物価は上昇したまま品不足なので、懸念材料である。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・今の流れのまま、消費者は物価上昇の様子をうかがうのではないかと。
		百貨店（営業担当）	・行動制限やマスク着用の緩和により、人流の増加が見込まれる。ただし、足元ではエネルギーや食料品など生活に密着した物の価格上昇が、生活防衛意識を拡大させており、今後の状況も不透明なため、本格的な景況改善には至らない。
		家電量販店（営業担当）	・国が景気対策を進めているものの、時間が掛かるため、中小企業は大変である。
		乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーは、相変わらず、新型コロナウイルス禍以前の生産量の70%程度で、今一つ活気に乏しい。ただし、週末夕方からの街にはにぎわいが見え始めたことが救いかもかもしれない。
		自動車備品販売店（経営者）	・非常に客の動きが悪く、購買意欲も低い。また、単価の低い物を買う傾向も変わっていない。この現象は2年前の新型コロナウイルスの問題が大きくなった時期と非常に似ている。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	・新型コロナウイルス禍からの回復がこのまま続くと良いと思っている。しかし、今月から値上げが続き、どのように客が反応するか、また一つの課題ができてしまっている。さらに、大手メーカーの生産の圧縮の影響が秋から静かに店に出てくると感じている。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・社会情勢が大幅に変わらなければ、夏に向けてこのままの流れで行くと予想する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（支配人）	・新型コロナウイルス新規感染者が再び増えてきていることもあり、この先はまだ読めない。
		都市型ホテル（総支配人）	・宿泊は、自粛の反動や県民割等の影響がしばらくは続く。料飲部門も予約状況等を見ると、宿泊ほどではないものの、回復傾向にあると判断できる。
		タクシー運転手	・まだしばらくは利用客が増えそうにない。新型コロナウイルス新規感染者数は、高止まりのままである。
		通信会社（経営者）	・地方の通信会社がそう簡単に回復する兆しは見えず、他業種への参入を検討中である。
		通信会社（社員）	・大手企業の業績が回復している一方で、我が国を支えている中小企業の業績は、一部の好調な企業を除いて回復していない。全体的には変わらないと回答したが、中小企業に焦点を当てるとやや悪くなるという回答がふさわしいかもしれない。
		通信会社（局長）	・地域のイベント等は新型コロナウイルス発生前に戻りつつあり、住民の活気も出てきていると感じる。食品、電力、ガソリン等の値上げが安定しないと、景気が良くなったと実感できるとは思えない。
		ゴルフ場（従業員）	・新型コロナウイルスや原材料価格高騰の状況次第なので、変わらない。
		競輪場（職員）	・現在、新型コロナウイルス新規感染者数は減少しつつあるが、今後、外国人観光客の受入れが始まり、夏に向かって人の動きも活発になると、感染者が増加する予測もあり、物価が上昇していることも考えると、良くなるとは思えない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・今後も原材料価格の上昇が見込まれ、客に理解をしてもらう必要がある。また、商談時の見積提示から、なるべく早い段階での返事を依頼して、成約につなげたい。
		商店街（代表者）	・円安、物価高騰、新型コロナウイルス感染症の影響以外に、予想していなかった酷暑が加わっている。商店街は誰も歩いていない。
		百貨店（営業担当）	・円安、物価高、不透明な世界情勢等、売上や消費マインドにプラスに働く要素がみえない。
		スーパー（総務担当）	・商材の値上げが続くため、やや悪くなる。
		スーパー（商品部担当）	・生活必需品の値上げによる買い控え傾向は続きそうで、良い方向に向かう感じがしない。今後は、天候不順による影響も有り得る。
		コンビニ（店長）	・客の買上点数が減少している。この傾向は更に続くともっている。
		衣料品専門店（販売担当）	・当店の顧客が高齢者ということもあり、天候のせいにはしたくないが、これだけ猛暑が続くと高齢の方は出てこなくなる。まして、新型コロナウイルス禍という環境のなかに置かれているので、かなり来客数が減ってくるというか、今でもゼロ行進のような状況だが、本当に光が見えない状況で、悪い。
		乗用車販売店（従業員）	・車両の納期遅延は少し解消されてきているものの、依然として続いている。来店数が減少しており、受注は大きく減少傾向になっている。
		住関連専門店（店長）	・現状が当分続くと予想される。
		住関連専門店（仕入担当）	・値上げ、節電の夏を迎え、消費マインドを上向かせる要素が余りにも乏しい。生活用品は節約傾向で、数年ぶりの行動制限のない夏に向け、レジャー等への支出に回ると予測されるため、厳しい夏商戦になる。
		一般レストラン（経営者）	・物価が高騰し続けるが給与等の収入が増えないので、どこかでしわ寄せは来るだろう。猛暑予想なので、クーラーなどの電気代が大きいのかかるし、当店も値上げをしないと追いつかない状況である。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・事業所給食部門では、食材費や経費の上昇傾向の状況に加えて、最低賃金の上昇や求人難に伴い、人件費の上昇が見込まれるので、更に負担が重くなってくる。機械化や調理方法の見直しによる省力化には時間が掛かることから、当面収益面の厳しい状況が続く。
		通信会社（総務担当）	・3か月先では、まだ乗換え需要の下げ止まりが来ないと思われる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・物価上昇で、やや悪くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・物価高が継続すれば工事関連は停滞し、状況は悪化する。現状から悪くなる要因が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔家電〕 (経営者)	・物価、燃料費、電気代等の高騰は、国民にとって死活問題であるが、政府は何もしてくれない。このまま行ったら、庶民は野垂れ死ぬしかないのだろうか。こんな状況なので、商売にしても苦しいのは当たり前である。
	×	コンビニ(経営者)	・特に夜になると、客が来ない。隣のファミリーレストランが葬儀屋になってしまったこともある。
	×	その他飲食〔ファーストフード〕(経営者)	・ロシア、ウクライナ戦争がまだ終わらず、円安も止まらない。これらの影響に伴う急激な物価上昇に対し、賃金が追いつかないため、まだ当分買い控えが続く。
	×	都市型ホテル(経営者)	・新型コロナウイルスの感染症レベルがインフルエンザ並みに下がらない限り、何も変わらない。
	×	通信会社(経営者)	・過度な円安で、先行きの見通しが立てられない。
	×	美容室(経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きをみせ、消費マインドが上向いてはきている。ただし、本当に必要な物にしかな購入の手が伸びていない。
企業 動向 関連 (北関東)	-	-	-
		一般機械器具製造業 (経営者)	・世界的な半導体不足も少しずつ改善されつつあり、末端の当社にも仕事が回ってくる気配がある。
		輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・現在、受注はあるものの生産できない状態なので、半導体不足が解消されれば、生産は戻っていると思う。
		その他サービス業〔情報サービス〕(経営者)	・受注残の状況からみても、収益は改善される。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	・単価を変えているわけではないのに、出荷量が増えている。この先も単価を変えなくても、数量はコンスタントに出ると思っている。今はいろいろな物が値上がりしているが、価格に左右されないということは良いことだと思っている。
		金属製品製造業(経営者)	・急激に良くなるとの情報はないが、新型コロナウイルス禍からの回復もあり、現在と変わらないと予想する。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・自動車の組立ラインが通常に戻るには、まだ時間が掛かる。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・当社とは直接関係ないが、自動車等様々な製造メーカーがラインを停止していたり、物が動かなくなっている。その分、社員の給料も余り上がらなくなっているのではないかと。更に物価高騰もあり、取引先は住宅関連が多いので、やや厳しい。
		輸送用機械器具製造業 (経営者)	・取引先の様子も受注量等も余り変化はないが、2～3か月先のことは分からない。
		その他製造業〔消防用品〕(営業担当)	・しばらくはまた新型コロナウイルス感染症の影響が残ると考える。
		輸送業(営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いてくると思う。夏休みも近く、レジャー用品、テント、椅子、バーベキュー用品、園芸用品等の物量が増える予定である。相変わらず、燃料高や輸送コストの高騰も続きそう、厳しさはしばらく続きそうである。
		経営コンサルタント	・ウクライナ戦争と中国上海のロックダウンが原因となって、世界的な物価高騰とサプライチェーンの断裂による品不足でインフレ傾向が強まり、消費活動は抑えられると予想する。その一方で、猛暑による夏季需要も増加すると考えられるので、これらの綱引きで、地域経済は神経質な調整が続く。
		司法書士	・人口の減っている過疎地に属しているため、微増とほんのわずかに減ることを繰り返していきと考えている。
		化学工業(管理担当)	・諸物価の高騰に歯止めがかからず、見込みが立たない。
	窯業・土石製品製造業 (総務担当)	・夏場に向かい、売上等は落ち込むと思われる。	
	建設業(総務担当)	・とにかく発注量が少なく、このままでは先行きも不透明で怖い。	
	不動産業(管理担当)	・取引先に物価高騰分の値上げ額で見積りを提示し、値上げた金額で受注できるように理解をしてもらっている。ただし、戦争や円安がいつまで続くか読めないため、今後も資材や燃料の値上げが続く恐れもあり、下振れする可能性の方が高い。	
	社会保険労務士	・今後、相次ぐ各種商材の値上げに対する消費者の反応は、どんどん厳しくなっていく。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	食料品製造業（経営者）	・物価上昇への対策もなく、税金が上がる一方で、先行きに不安ばかりが感じられる。このまま経済全体が縮小していく様子しか感じられない。
	×	建設業（開発担当）	・今期の公共工事は新型コロナウイルスの影響もあり、発注は前年比35%減少、当社受注も前期比10%減少と、厳しい決算になる。
雇用 関連 (北関東)		人材派遣会社（社員）	・取引先の宿泊施設関係は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことや県民割が好調で、稼働率も大分上がってきている。当社は派遣業なので仕事の依頼を受け、人を出して業務を行っているが、依頼数もかなり増えてきている。ただし、人手不足が深刻で、仕事があっても断っているような状況である。
		職業安定所（職員）	・新規求人は、ここ1年、前年同月比増加で推移している。引き続き、新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響やウクライナ情勢の影響等には注意を要するが、雇用情勢は持ち直しの動きが広がりつつある。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・外国人の来日が増加しており、今後はインバウンドによる経済効果が期待できる。
		人材派遣会社（経営者）	・公共工事は、道路関係が主体だが、護岸工事等も含めて向上している。夏の暑さもあり、食品、飲料、衣料品等の伸びもある。公共料金、ガソリン価格等は若干落ち着いてきているが、いつ値上がりするかという不安感のなかで、購買力は良い方である。
		人材派遣会社（経営者）	・新規の派遣依頼もあるが終了するところもあるため、変わらない。
		人材派遣会社（社員）	・主に製造業の取引先では、原材料費の高騰や納期遅延が続いていることから、人手不足でも採用コストは抑制傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請が解除されたことで、小売業や物流業からの派遣依頼が増えている。
		人材派遣会社（管理担当）	・コンビニ向けの麺類製造派遣が、例年どおり増加している。自動車部品製造は不安定なもの、現状を維持している。今後も同様に推移すると考える。
		職業安定所（職員）	・求人数は増加しているが、それに対応する求職者がなかなかいない。人手不足の産業があるので、求人数が伸びていても、景気が良くなってはいかない。
	×	-	-
		*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症からのリカバリー傾向は引き続き強く出るであろう空気を感じる。それは、イベント開催熱をみれば明らかである。この先、新型コロナウイルス感染再拡大や異常気象などのマイナス要因が出れば別だが、順調に推移すれば回復基調は続く（東京都）。
		一般小売店〔生花〕（店員）	・9月はお彼岸があるので、もともと花がよく売れる時期である。全国的にお彼岸なので、良くなる（東京都）。
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、クリアランス、お中元ギフトと、繁忙期を迎えて少しずつではあるが外国からの富裕層の戻りがみられるなか、更なるインバウンドの上乗せが期待できる（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・梅雨明けが例年より早く、猛暑傾向にあるので、飲料を中心とした売上の伸びが期待できそうである。全体的な値上げがあると、コンビニだけ高いということもなくなるので、相対的に選ばれやすくなるのではないかと（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かいつつあるなか、海外からのインバウンド客の解禁、あるいは屋外でのマスク着用緩和など、いろいろな面で緩和が進むにつれて回復していくと確信している。あとは宴会が戻ってくれば、秋以降は新型コロナウイルス感染症の収束という形で完全に戻ってくるものと期待している。
		旅行代理店（従業員）	・夏の旅行シーズンであり、かつ全国旅行支援が始まる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・国内線に限らず、国際線においても、海外への渡航緩和により、外国籍の客の来航が増加している（東京都）。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・家電製品でも、エアコンなどの設置工事が必要な物は、インターネットではなく実店舗で購入したいという客もいるので、これから売れていくのではないかと。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・夏本番を迎え、イベント等が復活している。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・日本人、外国人を問わず、緩やかではあるものの観光客が増加傾向にあり、やや単価の高い商材の購入やまとめ買いなどが増えてきている。近隣のイベントで3年ぶりに開催されるものもあり、来街者及び当店への来客数増加に期待している（東京都）。
		一般小売店〔傘〕（店長）	・数年間自粛していたため必要としなかった日傘などの新規購入が期待できる。
		百貨店（広報担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第という条件付にはなるが、今後しばらくは社会活動の正常化に向けた動きにブレーキが掛かる要素が見当たらない（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・ゴールデンウィーク前後からの回復基調が依然として継続しており、夏場の実需も期待できる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・インバウンド復活の兆しが見られる。新型コロナウイルスの感染状況が気になるところだが、安定していれば、大きな伸びを期待できる。一部ラグジュアリーブランドで値上がり前の駆け込み需要もみられたが、値上がり後の反動は少ないのではないかと。また、外出、帰省、旅行などでの購買が見込まれる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・レストラン街の混雑などを見ても、来客数の水準は新型コロナウイルス発生前に戻りつつある。加えて、メーカーの生産回復に伴い、購入価格帯の向上につながれば、更なる改善が見込める（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	・物価高が止まらないなか、それに対応する政策が不明確である。
		コンビニ（経営者）	・梅雨明けが早く、気温も上昇しているため、ソフトドリンクや冷たい物の販売が伸びる。
		コンビニ（経営者）	・猛暑という予報も出ており、2年ぶりに近隣のプールも営業する予定なので、期待したい。
		コンビニ（経営者）	・前年よりも1か月くらい早く梅雨明けしたということだが、我々小売業にとっては、天候はかなり影響する。加えて、新型コロナウイルスの感染状況が収まっている。これで客がかなり動いているので、これから良くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・梅雨明けが早くなりそうで、暑い期間が長い分だけ期待が持てるが、一方で水不足が心配である（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・今年の夏は、前年も開催されなかった祭りが行われる。多くの人でにぎわう祭りは来客数の動きに大きく影響する。街中にあるコンビニでは、祭りの途中で飲物や食べ物を買うことも増える。大きなイベントが売上に影響を及ぼすため、今年の夏は前年よりも来客数の増加に期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況も気にならなくなった。県民割等で動きが活発になる。衣料品はまだまだデフレ傾向が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	・不確定要素は多いが、身の回りのイベントなどが広がり、今まで買い控えていた分、新たな買物につながる事が考えられる。消費者が解放感から財布のひもを緩めることに期待している（東京都）。
		衣料品専門店（店長）	・これからバーゲンセールが始まることで、買い控えをしていた消費者の購入が見込まれる（東京都）。
		家電量販店（店長）	・インバウンドの回復を願っている（東京都）。
		家電量販店（経営企画担当）	・夏のボーナス支給額の上昇、ウイズコロナの定着、ロシアのウクライナ侵攻のこう着状態による消費者心理の改善、少しずつインバウンド需要が回復することで、業界需要が好転することを期待している（東京都）。
		家電量販店（従業員）	・マスクはまだ完全に外せないが、出かける人は増えているので、今後に期待したい。
		乗用車販売店（経営者）	・ある程度状況把握ができてきているので、生活ペースの基準等が定まっている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・全国旅行支援などもあり、8～9月と更に景気好転を予測している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（営業担当）	・新型コロナウイルス禍を踏まえ、これまで「会食なし」、「会食のみ」であった個人利用が、徐々にではあるが「会食あり」に変わっている。今後、ある程度は法人需要の回復も見込める（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・新型コロナウイルス感染者数の減少による消費マインドの向上、全国旅行支援等の後押しもあり、改善する半面、物価の高騰で余暇関連の伸び率が鈍いことも考えられるため、総合的には若干の回復にとどまるのではないかと（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先は、今の売上に加えて、少しずつケータリングも入ってくると思うので、今よりは少し良くなる。大きいパーティーが何件か入ってきているので、1～2割程度は伸びるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大状況にもよるが、夏に向けて徐々に客がお金を使えるようになってきているので、今より新規感染者数が増えなければ、やや良くなる可能性が高い（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・今のペースでいけば良くなることを期待したいが、円安により不景気になる可能性を考えると、必ずしも良くなるとは言えない。
		一般レストラン（経営者）	・物価高騰の要因が単純にロシアのウクライナ侵攻の影響であれば、どこかのタイミングで不景気に転落しないかと不安である（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況により大きく変動することは間違いない。このままの状態が続けば良くなるが、円安による輸入品、ガソリン価格の高騰に伴う流通の価格上昇も気になり、どのように変化していくのか不安材料はある。当社はコーヒー豆製造もしているため、価格の高止まりが分からない。値上げもしたばかりで、原料の高騰はかなり厳しい状況ではある。少し良くなると回答したものの、正直分からない（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今後の新型コロナウイルス感染状況と政府の対応、感染経路上の分類の変更、あとはマスク着用についての政府からの指示、そういったものがもう少し明確に出てくれば、必ず良くなっていく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・世間がウィズコロナの傾向にあるため、新型コロナウイルス感染者数が大幅に増えなければ、例年並みとはいかないまでも、売上は良くなる。今までの悪過ぎたので、景気が良くならなければ、業界全体の厳しい状況は改善されない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染者数が収束することは考えにくいですが、このままいけば夏季の客足は現状より増加する。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス禍以降は新規受注、新型コロナウイルス感染症のまん延、旅行中止、というサイクルから抜け出せなかった。しかし、徐々に実施案件も発生し、安定してきている。新型コロナウイルスの感染状況が現状のままで推移していけばという条件付だが、秋に向けて景気が良くなっていくことを期待する。
		旅行代理店（販売促進担当）	・国内の個人旅行は、全国旅行支援が始まるので、8月以降は伸びると予想している。9月は教育旅行の予約も順調に入っている。インバウンドも本格的にツアーが入ってくるので、加味しての判断である（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・9月頃にはGo To Travelキャンペーンが再開されるということなので、前年同時期と比較すれば、急激に売上が伸びるだろうと期待している。
		タクシー運転手	・年末までには、海外からの入国者数、インバウンド需要の回復が見込まれるので、多少良くなる（東京都）。
		タクシー運転手	・降雨がやや少ないようで、本来の梅雨の忙しさではないが、それなりに仕事はできている。週末は非常に忙しく、ロングの客もあり、やっと本来の仕事に戻ってきている。
		タクシー運転手	・飽くまで、物価の上昇がどこまで影響するかによるが、少なくとも新型コロナウイルス感染症の影響はなくなってきて、人の動き、流れが大きくみられるので、期待したい（東京都）。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス禍からやや元に戻りつつある。この仕事は景気によって客が増減するが、今は急激な気温上昇により客がかなり増えている。涼しくなる秋口から、本当の景気が分かる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー（団体役員）	・ウクライナ情勢の影響で、今後の燃料費高騰などの不安要素もあるが、多少持ち直している。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況も収束に向かい、自粛生活から解放され、商店街、街中に繰り出す機会が増えて、消費を押し上げる（東京都）。
		通信会社（社員）	・他事業者の要因により、申込件数が若干良くなる（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・案件の動きが活性化することを期待している（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・新型コロナウイルス感染者数が落ち着いていることと、それに伴う経済の活性化などにより、新たなビジネスも生まれてきていることから、徐々に良くなる方向へ推移する（東京都）。
		観光名所（職員）	・来客数の増加率から判断している（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	・新型コロナウイルス感染者数の下げ止まりやウクライナ情勢、円安の影響を受け諸物価が上がってきており、まだ先行きに対する不透明感が拭えないが、参議院議員選挙後の政府の景気対策に期待する意味も込め、良くなっていく。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・予約の入り方、学生の動向、街中の様子、近辺の渋滞など全てを見て総合的に判断している（東京都）。
		その他レジャー施設 [総合]（広報担当）	・新型コロナウイルスの感染者数がなかなか減らないのが心配だが、今の傾向から見て、来場者数は増えていくと予測している（東京都）。
		その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	・ロシアのウクライナ侵攻が終結すれば、やや良くなる（東京都）。
		その他サービス[福祉 輸送]（経営者）	・いまだに自動車のサプライチェーンの問題は改善されていないが、これから徐々に進む各メーカーの新車発表次第である（東京都）。
		その他サービス [フィットネスクラブ]（エリア統括）	・マスク着用の緩和や、政府の景気対策から、徐々に上向きに転じると予想している（東京都）。
		設計事務所（経営者）	・民間の設計業務は、様子見で、余り増えないような感じがする。客への訪問回数を増やしたり、連絡を取ったりなどしているが、早晚良くなる雰囲気はない。行政の指名入札などは多少プラスになっているので、社員共々頑張っていきたい。
		住宅販売会社（従業員）	・今月から、ウッドショック、アイアンショックに伴う販売価格の値上げを行ったが、価格を抑えた新商品を発売することが決まった。その新商品による販売量の増加と、販売量が悪過ぎた今月よりは回復するだろうと見込んでいる。
		住宅販売会社（従業員）	・商談数が少し増えている。
		その他住宅[住宅資 材]（営業）	・建築関係では、今年に入って資材価格の高騰が続いているが、物件を延期や中止にはできないことから、エンドユーザーに価格転嫁する形が常態化して受注していく予定で、仕事量を確保できる見込みである（東京都）。
		商店街（代表者）	・商店街を歩いている客は、前よりは少し増えている。ただし、店の前を歩く人のうち、店内に入って買物をする客の数が少なく、少しは良くなっているとはいえ、まだまだである。新型コロナウイルスの感染者数がまた若干増えてきているが、今後落ち着いた段階で、人の動きがもっと良くなれば、売上も少し改善してくるのではないかと期待している。
		商店街（代表者）	・商店街ににぎわいが戻りつつある。8月の祭りは規模を縮小し、各種の規制をクリアして開催するので、苦勞が報われると良い。
		一般小売店[家電] （経理担当）	・以前から決まっていた工事があがるが、その他は、商材の手配が間に合うかどうか問題である。
		一般小売店[家具] （経営者）	・景気は悪い状況のまま変わらない。ボーナスなどがやや多くなるというニュースもあるが、景気に結び付くことはない。この状況が続くのではないかと（東京都）。
		一般小売店[印章] （経営者）	・7月1日から、プレミアム付商品券が再度発売される。期待はしているものの、いつも肩透かしで終わっているのが残念である。7月1日から応募受付、12月1日から使用可能ということなので、多少なりとも期待を持って進んでいきたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔米穀〕 (経営者)	・ウクライナ情勢の影響で燃料価格が高騰しており、食料品等の値上げも見えているので、消費購買が慎重になる(東京都)。
		一般小売店〔眼鏡〕 (経営者)	・良くなってほしいと願っているが、なかなか厳しい。
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・これから文具だけでなく、スチール家具、その他の商材についても値上げの予告が多くある。そのため、売上は一時的には上がる。ただし、客によっては、値上げをしたことによる買い控えも起きるのではないかと予想される。そうしたことから、最終的には変わらないのではないかと。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	・販売量が伸びていないので、今年のボーナスは期待できない(東京都)。
		一般小売店〔書店〕 (営業担当)	・しばらくは円安の影響が続き、輸入商材の販売量が抑えられる(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・厳しい暑さが予想され、消費に対する慎重な姿勢が継続することが予想される。
		百貨店(総務担当)	・景気に悪影響を与えられとされる様々な要因について、はっきりとした明るい方向性が見えないなかでは、何となく良くなっている程度で、明らかな上昇傾向は感じられない。今後の成り行き次第では、良くも悪くも、どちらにでも転じてしまうことはあり得る(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・新型コロナウイルスの感染状況は収束しておらず、また、海外情勢により物価高が進んでいる。この先、消費に対して慎重な行動をとることが予想される(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・値上げ品目が増え続ける状況で、生活者も購買には慎重であり、継続して売上が伸長するかについては不安である(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・テナントとの家賃などの契約内容で業績が決まる。出店している小規模のテナントは、新型コロナウイルス禍で相当傷んでおり、契約終了時にもなかなか条件交渉をすることが難しい状況にあるため、結果としてメジャーではない小～中型の店舗は厳しい状況にある(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・中国はゼロコロナ政策を継続しており、インバウンド需要が新型コロナウイルス発生前まで回復するには、まだ時間が掛かる(東京都)。
		百貨店(経営企画担当)	・ウクライナ情勢に伴う輸出入制限等による円安、原油高の影響により、一般消費者の財布のひもは固くなりそうである。食料品の値上げについても、購入回数を控えるなど、食料品に対する支出は限られていることから、大きく伸びることはないと推測しており、しばらくは厳しい状況が続く(東京都)。
		百貨店(店長)	・県民割などの効果で更に人流が増加する一方で、お金の使い方として、海外旅行など一部に違う需要が出てくると思われる。全体としては、世界情勢や円安、インフレなど様々な影響から、購買自体を控える動向も懸念される(東京都)。
		百貨店(管理担当)	・物価の上昇や先行き不安などがあり、一旦は回復がみられた消費行動も、再び縮小し始めているようである(東京都)。
		百貨店(店長)	・各種値上げの動きは継続しており、消費者は引き締めるところと使うところにメリハリをつけている。夏の需要が落ち着いた後は、秋の行楽シーズンを踏まえても、現状から更に大きく改善することは難しいとみている。
		スーパー(経営者)	・ロシアのウクライナ侵攻や円安が落ち着くまでは変わらない。もう企業の努力うんぬんではない気がする。
		スーパー(経営者)	・1品単価は上がっているが、その分買上点数が落ちているため、じりじりと悪くなっているような感じがしている。いろいろな物の値上がりが続いていることで、どうしても客が買い控え、節約志向になっていて、非常に難しい状況である。粗利を上げて経費やロスの削減をしっかりとやっていくしかない。
		スーパー(店長)	・客の買い方を見ていると、疲れてしまうのではないかと感じる。客の購買動機が価格の安い店となると、3か月後は今よりも悪くなると予想されるが、今の段階では近所のスーパーを見て安い物を買って回るという様子なので、3か月後も恐らく今と変わらない形で推移するのではないかと(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・商材の値上げがまだ続くため、売行きへの影響が懸念される。
		スーパー（営業担当）	・内食化傾向も落ち着いてきており、周囲の社会情勢から、単価の上昇が更に続いていくとみている。それに合わせて販売量並びに来客数の落ち込みも続く予想である（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・価格上昇は今後も続く見通しであり、メディアでは物価上昇は収まる気配がないと連日報道されている。また、将来の年金受給額も物価変動で下がっているため、危機感を持っている。
		コンビニ（経営者）	・コンビニにとって大切な夜間、深夜の売上増加は全く見込めないため、現状維持が精一杯である。
		家電量販店（店長）	・現状を踏まえると、今後も生活必需品を中心に消費は落ちない。ただし、嗜好性の高い商材に関しては景気に影響されやすいので、景気次第である（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。客の購買意欲はあるものの、半導体不足で生産が間に合わず、新車を注文しても納期が半年くらい掛かるため、購買意欲がなくなっているような気がする。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の売上の減少分をサービス部門で補う状態が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・客の反応が悪く、購買意欲が感じられない。
		乗用車販売店（販売担当）	・ロシアのウクライナ侵攻が終結し、食料、燃料などの価格が下がってこない、やはり企業やユーザーはお金に対してシビアになってきて、なかなか物を買ってくれない、若しくは単価に対して注文を付けて少しでも安く買おうと交渉する様子が見受けられる。したがって、ここ2～3か月については、今のやや悪い状態のままで変わらない（東京都）。
		乗用車販売店（店長）	・納期遅延が解消しないとうまくいかない。
		乗用車販売店（総務担当）	・現状が続くことが予想される。また、サービス需要も悪化する。
		乗用車販売店（渉外担当）	・自動車の生産体制正常化のめどが立たない。
		乗用車販売店（営業担当）	・これといって影響があるような出来事がない（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	・半導体不足と新型コロナウイルス感染症の影響がある（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・猛暑でかつ電力不足なので、夏物商材が例年以上に動く可能性がある。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・当店では、大体一定して同じ商材を1年中売っているため、販売量は年中ほぼ変わらず、普通に出ている。
		その他専門店〔雑貨〕（営業担当）	・全国旅行支援などにより、国内の人流は更に大きく回復し、旅行やサービス業などは復調の兆しだが、雑貨や食品を取り扱う業界においては、値上げの影響から実質的には横ばいが続く（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・夏のボーナス支給も景気の良い話も聞こえているが、恩恵は一部の方なのか、期待はできない（東京都）。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・この先、天候不順の影響などが懸念され、良くなる要素は見いだせない（東京都）。
		高級レストラン（経営者）	・予約数が増えない。
		高級レストラン（役員）	・現状としては回復基調にあるが、直近の新型コロナウイルス感染者数の増加傾向と、円安、ウクライナ情勢、エネルギー関連などによる物価上昇もあり、この夏で消費者の消費傾向がどうなるかは不透明である。相殺すると、現状維持程度になる可能性もある（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・テイクアウト部門の数は少し伸びているが、イートインに関しては、新型コロナウイルス発生前の来客数にはいまだ及ばない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染対策の規制がほとんど解除されても、客の戻りはまだまだ厳しい。また、円安やロシアのウクライナ侵攻による仕入コストや経費全般の高騰で、より一層厳しくなっている。新型コロナウイルス感染者数の減少、インパウンドの規制緩和がより進み、早く営業利益が出るようにならないと、会社が持たない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・同業者の都内の飲食店でも、きちんとした客を取っている店は、やはり夜の客が戻ってきていないところがまだ多いようである。一見さんや単価の安い客を取っている地域や店などには、それなりに客が戻ってきているだろうが、そういう少々怪しい店だけでは、飲食業界は成り立っていかない。
		一般レストラン（スタッフ）	・特に国からの対策があるわけではないので変わらない。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染防止の規制が解除されたことにより、来客数は増えてきているが、インフレによる値上げの影響が心配されるため、プラスマイナスゼロで変わらない（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・外食部門に限ると、新型コロナウイルス発生前に戻るためには感染状況がもう少し落ち着く必要がある。したがって、これから3か月程度は急激な変化はないものとみている（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・円安でホテル等の地上費の原価に影響が出ており、旅行代金も高めに設定せざるを得ない。せっかく2年ぶりの海外旅行再開なのに円安となり、タイミングが悪い（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・全国旅行支援が充実すれば、需要が増える（東京都）。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者数が減少しきっていないことから、やはりまだ不安が大きい。これからお盆休みに入り、行動が自由になってくると、再び感染者数が増えてくるかもしれないので、慎重に動いて、様子を見ながらの生活になりそうである。
		通信会社（経営者）	・通信機器の枯渇状態が解消されない限り、当面現状が続く（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・転居に伴う人の動きが新型コロナウイルス発生前まで急激に回復する見込みは薄く、現状がニューノーマルとなる可能性がある。
		通信会社（局長）	・新電力会社の倒産、サービス停止が相次ぐなか、当社のメリットはあるが、若年層を中心としたテレビ離れの傾向は顕著であり、トータルグロスは余り変わらない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思える材料が全くない。
		通信会社（経理担当）	・売れないわけではないが、利益率が低下しているので、景気は何ともいえない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が終息するまでは悪いままが続く。これ以上悪くなりようがない。
		設計事務所（経営者）	・来月辺りで終わる案件があるが、その代わりに入ってくる案件は今のところない。
		設計事務所（経営者）	・民間、官庁共に新規受注は厳しい状況が続くと思うので、しばらくはこのまま推移する。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束し、ロシアのウクライナ侵攻が終結しない限りは、景気は良くなるらない。早く落ち着くことを願っている。円安もかなり続いている。政府には景気対策を期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・このまま地価及び資材価格の高騰が続くと厳しくなりそうである。そのなかで、工夫をして賃料を上げられる物件を検討していく予定である。今後も景気は大きく変化しない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・仕事の性質上、決定するまでに時間が掛かるため、すぐには回復しない。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・この先まだまだ値上げが続きそうなことと、新型コロナウイルスの感染者数が再び増加に転じていることがやや懸念される。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・状況が変わらないため、好転への期待が持てない。
		百貨店（販売促進担当）	・ウクライナ情勢に端を発した燃料費、食品等の値上げが拡大しており、さらに、電力不足等、今後に対して不安を感じる事柄が多くなっていることから、消費には消極的になるとみられ、景気はやや悪くなる。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことにより、外出機会の増加に伴う消費の回復に期待したいが、猛暑予想の夏に向けて不安も感じる。
		百貨店（財務担当）	・物価上昇等が徐々に消費にマイナス影響となる懸念がある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・ガソリン価格の高止まりや、電気代、ガス代の値上げなどに加え、売場に出ている商材の多くがこれから値上げされていく。客は値上げに対してシビアな買い方や買い控えをする予想されるので、やや悪くなっていくのではないかと（東京都）。
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、円安や原油高による商材の値上げの影響がかなり大きく家計にのし掛かるので、より一層節約志向にシフトしていく（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルス感染者数は下げ止まり、インフルエンザの流行も見込まれている。また、大多数の商材が値上げになるが、実質賃金が上がっているという感覚がないなかでの値上げとなり、客の買い控えがあるのではないかと。新型コロナウイルスの感染状況が収束していないとはいえ、県民割等を含めたコト消費が増えているので、モノ消費はなかなか大きく伸びない。小売業としては厳しい。
		スーパー（総務担当）	・物価も電気料金も上がっている。
		スーパー（仕入担当）	・ウクライナ情勢、新型コロナウイルス感染症の問題、円安と懸念材料が多く、生活不安から消費はますます冷え込んでいく。
		コンビニ（経営者）	・物価の高騰で経費が増加する（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・来客数に加えて売上も、いろいろな商品群、特に食品系でかなり落ちている。
		コンビニ（経営者）	・商材の値上げにより、売上が減少傾向にある。売上は夏季が一番伸びるため、猛暑が続けば持ち直すのではないかと期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・原材料の値上げが厳しい。繊維関連の仕事だが、輸入系の価格が上がっており、当然販売価格も上がるので、そういう意味で今後どうなるか不安がある。イベントが増えてきて、人の流れが出てきているが、まだ安心というわけにはいかないで、その辺りを総合的に判断すると、やや悪くなる。
		衣料品専門店（統括）	・夏物需要が終わり、衣料品業界としては閑散期に入る。
		衣料品専門店（役員）	・物価高の影響が一番受けるのは衣料品関係である。ロシアのウクライナ侵攻が終わるまでは厳しそうである。
		家電量販店（店長）	・物価高の影響が日を追うごとに出てくる。消費者は今までより優先順位を考えてお金を使うようになり、景気が良くなる環境ではない。
		住関連専門店（統括）	・新型コロナウイルス禍でまだまだ客を動員できないので、今しばらくこの状態が続くのではないだろうか。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・このまま物価上昇だけが続くと、消費全体が落ち込み、景気は徐々に悪くなる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後もウクライナ情勢等や円安等、社会情勢の影響で、まだまだ値上げは続く。所得を上げないといけないのだが、アルバイト等の扶養の限度額130万円などを撤廃するか、200万円、300万円に上げないと、一向に良くなる気がしない。その辺りは政府の考え次第である。
		一般レストラン（経営者）	・今月はかなり予約が入ったので良かったが、7～8月の予約表を見ると、暑さもあり、今月よりも数が少なくなると見込んでいる（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	・遠くへ出かける客からぼつぼつ声がかかっている。家族でそろってどこかへ出掛けて、日帰り温泉でも入ってこようかなという話になっているので、多少は良くなっているが、まだまだ企画のみや、日帰り旅行等のみである。
		旅行代理店（従業員）	・物価上昇に伴い、旅行を控えるような動きになるのではないかと（東京都）。
		タクシー（経営者）	・原油高に端を発する値上げラッシュが続き、その影響が出る。
		通信会社（社員）	・前年度はイベント事業の復活もあり、明るい兆しがあった。今年度はそれを上回る様子がない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・物価高騰や円安に対して効果的な対応策を見つけれないままでは、景気は大きく失速していく可能性が高い。
		通信会社（営業担当）	・当面、物価の高騰が続くと予想されるので、娯楽要素の多いものが削減対象となり、当社の景気も厳しくなっていく（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・物価高傾向により、客の支出が減る傾向になるのではないかと危惧している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（管理担当）	・インフラの稼働に必要な電気料金など維持費用の高騰、半導体供給の乱れに伴う宅内設置機器の調達への影響が懸念される。加えて、これまで減少してきた新型コロナウイルス感染者数が増加に転じていることも、客との接点の減少につながると考えられ、景気は悪化基調と判断する（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・通常どおりの生活に戻り始めているので、ゴルフ以外のレジャーに人が分散することもあり、来場者数、売上共にやや減少する。また、今年の夏は猛暑が予想されていることから、屋外のレジャーは足が遠のくのではないかと懸念している。
		その他レジャー施設 [映画]（営業担当）	・景気が良くなる要素が出てきそうにない（東京都）。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が早く収束してほしい。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	・夏期講習も外部生の入りが非常に少なく、料金を重ねて聞く親はとて多いため、これから悪くなる。
		その他サービス[保険代理店]（経営者）	・いまだに新型コロナウイルス禍にあり、購買意欲に乏しい。世の中に不安感や疑念がある。
		設計事務所（所長）	・ここに来て、また建設資材価格の値上がりが見られるため、全く先の単価が読めず、また資材調達の不安もあり、先が見通せない。景気が上がる気配は感じられない（東京都）。
		設計事務所（所長）	・新型コロナウイルス感染症に続き、ロシアのウクライナ侵攻により、先行きが非常に不透明な状況が続いていることから、物価高騰と同時に仕事量も激減するのではないかと懸念でいっぱいである。
		設計事務所（職員）	・景気が上向き傾向や動きが出てくる可能性は小さい（東京都）。
		住宅販売会社（総務担当）	・資材価格高騰の影響が顕著に表れる。
	×	商店街（代表者）	・原因が分からない。
	×	一般小売店[家電]（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響がまだ続いているせいもあるが、客の購買意欲というか、設備投資などの話も今は止まっている状態である。品物が入ってこないことにはということもあるのかもしれない（東京都）。
	×	一般小売店[食料雑貨]（経営者）	・人件費、原材料費、水道光熱費等の高騰に対し、価格競争があるために相応分の値上げができない小売店の業績は悪くなり、携わっている従業員の給料も上がらなくなる。
	×	スーパー（経営者）	・加工食品だけでなく、生鮮食品の仕入価格も上がっている。当社の製造商品はまだ値上げしていないが、売行きは良くない。この先値上げしたら、どうなるか分からない。
	×	スーパー（ネット宅配担当）	・円安の影響で仕入原価の高騰が更に進んでいる。また、電気やガスなどのコスト上昇もあり、経費が大幅に増えている。価格への転嫁を急ぎ対応するが、今後かなり消費が冷え込むのではないかと懸念している。
	×	衣料品専門店（店長）	・ロシアのウクライナ侵攻による素材不足、中国上海のロックダウンの影響で物資の手配が難しくなっており、必然的に物価上昇による買い控えが顕著に起きている。
	×	衣料品専門店（従業員）	・世界情勢の悪化や円安等による材料価格の高騰に伴い、製品価格が上がり、それがますます転嫁できなくなるため、非常に困難な状態になる。
	×	通信会社（管理担当）	・物価上昇により買い控えが増加する。
	×	ゴルフ場（経営者）	・海外との金利差から円安が進み、今後も物価が高騰し続ける。
	×	ゴルフ場（従業員）	・賃上げと最低賃金の引上げは全体的には正比例ではない。企業全体として人件費は増やせず、最低賃金が上がるとしたら、企業内の賃金バランスが崩れ、景気回復にはつながらない。新型コロナウイルス感染症、物価の上昇、電力不足、地球温暖化など、景気回復の兆しが見えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	ゴルフ場（経理担当）	・円安下での原材料や資源エネルギー価格の高騰により、固定費が膨張している。特に、メンテナンス上必要な肥料薬剤の多くは輸入品である上、素材価格高により調達価格が高騰し、納期に遅れもみられる。今後も物価上昇圧力が一段と加速する可能性が高く、景気改善に重大な痛手となることは不可避と考えられる。近年の猛暑により散布肥料薬剤や光熱費負担が増加する上に、夏期の来場者数減少期を迎え、収益性は極めて厳しい状況に置かれることが予想される。設備の維持管理上で必要な設備投資にも着工遅れがみられ、既に2022年内の着工が困難な案件も見受けられ、BCPに影響を及ぼしている。
	x	競輪場（職員）	・事業自体の検討が必要になっている。10月からの下期に向けて運用を検討中である。
企業 動向 関連 (南関東)		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・受注量が増えている。6月にボーナスが支給され、7月の昇給も決定している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在、手持ちの受注残が若干増えてきている。したがって、2～3か月先は今よりもやや良くなる（東京都）。
		建設業（従業員）	・取引先の様子で、物件が決まりつつあるという感じがする。
		輸送業（経営者）	・荷主の新たな配送網が7月から始動し、現状の改善が見込まれるため、少しではあるが、状況が好転する可能性がある（東京都）。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かう（東京都）。
		金融業（従業員）	・今後は夏季休暇があり、遠方への外出機会から消費が増える。しかし、電力供給量の低下等により規制が厳しくなると、景気が停滞することもあり得る。
		不動産業（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることにより、人流も増えているので、今後は店舗の売上が増えていきそうな手ごたえを感じている（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・外国人観光客の受入れで、少し物が動くのではないかと（東京都）。
		化学工業（従業員）	・8～10月にかけて輸送費の値上げ要請が来ており、良くなる要因が見つからない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症や諸物価の上昇の影響が出てくると思うが、基本的には今後それほど大きく変わることはない。
		金属製品製造業（経営者）	・仕事が動き出したようなので、大口狙いの営業に力を入れるよう努力する。大企業は新規事業が動き出したとのことなので、期待している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・国際的な物の流れ、資材の供給状況を含む世界情勢を見ると、楽観視できない要素が多いので、取引量の改善は一時的なもののみている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・日本国内の新型コロナウイルス感染症の影響はかなり落ち着きつつあるものの、海外ではいまだに余波が残っている。自動車メーカーは海外での部品調達が安定しないと、年度当初の計画まで生産を伸ばすことは困難である。まだ景気回復には程遠い。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷は低迷し続けている。また、輸出量は全くない。今後も現状が続くと予想している。
		通信業（広報担当）	・新型コロナウイルス禍や半導体不足の影響も徐々に薄れ、当面は回復の動きが続くと見込んでいる（東京都）。
		金融業（従業員）	・長引く原材料価格高騰への対策として、一部の事業者では、仕入先と価格交渉を行うことで収益への影響を抑えようと努力をしているようである。一方、最近の急速な円安進行については、どこまで影響が出るのか見通しが立たず、不安に感じるとい声が多く聞かれる（東京都）。
		不動産業（経営者）	・在宅ワークの定着が進み、新築、賃貸に限らず間取りの広い物件への要望はしばらく続く。
		不動産業（従業員）	・引き続き不動産価格は高値をキープすると予想している（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・良いか悪いかでいえば、良いとはいえない。新型コロナウイルス禍からの回復基調に陰りが見えるのは、ウクライナ情勢、値上げラッシュ、円安などが影響している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		税理士	・米中の景気に日本は大きく左右される。現在の国内は、やはりウクライナ情勢、食糧危機、エネルギー危機、円安の影響から物価高になっており、先行きも変わらない。ウクライナ情勢の影響によるエネルギー危機等が解消されないと、状況は変わらないのではないかと。景気は余り良くない方向にいつている（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・工場稼働率が回復しつつある取引先もある一方で、廃業等に踏み切るところもあり、変わらない状態が続くものと予想される。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・このまま数か月は変わらない。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・簡易な撮影などが普及したため、ビジネス形態が変化し、今の状況は変わりそうにない（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・原材料、包装資材の値上げが止まらず、悪影響しかない。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・資材の値上げが段階的に行われそうで、終わりが見えない。理解してくれるクライアントとそうでないところがあり、対応に苦慮している。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・外売りとっても、FAXなりメールで注文をもらって、そのまま郵便で送るという形であるが、やや落ちてきているような感覚である。梅雨であったこと、新型コロナウイルス禍ということ、ここにきての気温上昇で客が外出を控えていることから、店頭での現金取引は激減している。これからも暑さは続くので、店売りが非常に厳しくなるとの見通しを立てており、やや悪くなると予想している（東京都）。
		化学工業（総務担当）	・原材料費の高騰が続き、販売価格に転嫁したいが、値上げにより需要家が安価な材料へと動くことが心配である。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・医療品容器の受注は落ち着いてきているが、化粧品容器の受注は上昇機運が見られない。さらに、材料の値上げが続き、経営環境は厳しい。
		金属製品製造業（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻などの不安要因があるなかで、世界的に景気が下がっていく。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・周囲に話を聞いても、また、社会的にも、景気が良くなるような話は飛び込んでこない。良くなる理由が今のところ見つかからない。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・物価上昇により消費者の購買意欲が低下している（東京都）。
		建設業（経営者）	・いろいろな段階においての景気対策がうまく連携されておらず、余りすぐに景気が良くなることは考えられない。
		金融業（従業員）	・ウクライナ情勢を発端とするエネルギー環境の変化や円安の影響により、物価が上昇している。物価の上昇は想像以上に国民生活に大きな影響を与え、実生活に重くのし掛かっており、景気の後退が懸念される。
		金融業（総務担当）	・食品等の値上げや、ガソリン価格の高騰が徐々に消費者に影響してきており、小売業やサービス業の売上にも影響が出てくると思われる。新型コロナウイルス感染者数が増加傾向にあるので、今後、飲食業等にも影響が出てくるのではないかと。不動産業では、資材の高騰や設備機器の品不足により販売価格が上がり、販売に影響が出てくる。全体的にはやや景気は悪くなる（東京都）。
		不動産業（経営者）	・月末になって、新型コロナウイルスの感染者数が、若干ではあるものの増えてきているようである。インフルエンザも発生し、学級閉鎖のところも出てきている。会合等も少しずつ増えてきているが、感染者数が増えないことを祈っている（東京都）。
		広告代理店（経営者）	・円安の影響がある（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・主要取引先では、半導体等の納期遅れにより商材自体の納入が遅れており、その影響で宣伝PR等の自粛傾向が見受けられる。
		経営コンサルタント	・円安による物価高などが見込まれる。
		税理士	・参議院議員選挙での野党の言い分である最低賃金の全国一律などあり得ないし、地方の企業が倒れてしまう。与党の政策も今までと変わりがなく、これで景気が回復するとは思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(経営者)	・人件費が上がっているため、既存契約の値上げができないと厳しくなる(東京都)。
		その他サービス業〔ソフト開発〕(経営者)	・諸物価の高騰が問題である(東京都)。
		その他サービス業〔情報サービス〕(従業員)	・円安や半導体不足からの脱却のめどが立たない。
	×	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・7月以降はより受注量の減少が見込まれる(東京都)。
	×	精密機械器具製造業(経営者)	・金属部品加工製造業は受注量、営業利益率共にマイナス方向で非常に厳しくなっているなかで、最終取引先でもある大手自動車メーカーの原価低減が始まるので、最悪である。
	×	建設業(経営者)	・せめて新型コロナウイルスの感染症法上の取扱を早く5類に下げしてほしい。
	×	建設業(経営者)	・材料の高騰や納期不明で発注者側も困惑している。見積案件も激減している。
	×	建設業(営業担当)	・9月以降の資材値上げ連絡が相次いでおり、ますます新築着工件数が減ることが予想される。
	×	経営コンサルタント	・国は補助金配付ばかりで、火事場に水を掛けているだけである。類焼しないような近隣への水掛けや、さらには燃えない建物造りなどへの大きな投資などはしていない(東京都)。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社(営業担当)	・引き続き求職者数の増加を見込んでいる(東京都)。
		人材派遣会社(経理担当)	・新型コロナウイルス感染症の影響は大分落ち着いてきている。各企業共に派遣求人数が増加傾向にあり、求人数、求職者数共に増加するとみている(東京都)。
		人材派遣会社(営業担当)	・県内の国際空港を例にとると、観光、エアライン系の求人が徐々に戻りつつある。夏以降来春にかけて、少しずつ減便していた路線も戻る傾向にあるとのことである。それゆえ消費意欲も高まり、景気回復傾向にシフトしていくのではないかと。
		求人情報誌制作会社(営業)	・現在の人出の多さ、消費の多さが2~3か月先の景気を表していることもある。今は人出が大分戻ってきて、以前よりも経済が回ってきている。このまま求人数が多くなることは、景気の上向きを表す。少し先の景気が良くなることを願いながら、今を頑張るといった気持ちが大切ではないかと。
		求人情報誌制作会社(広報担当)	・企業の採用者数が増え、賃金が上がっていけば、消費が増えて景気も良くなっていくのではないかと(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	・円安の状況が気にはなるが、企業の求人はこれまでと変わらず採用を控えることはないかとみている。
		人材派遣会社(社員)	・緩やかになってきてはいるものの、求人数や派遣社員の長期就業者数は依然として堅調であるため、今後もこのトレンドは継続する(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	・需給のひっ迫に耐えきれず、なし崩し的な採用が年末に向けて加速する(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	・求人動向に変化がなく、3か月先においても大きな案件が入る見込みがない。
		人材派遣会社(支店長)	・急激な円安、原油高などにより企業業績に悪影響が出始めており、人材需要も低下する懸念が強い(東京都)。
		人材派遣会社(営業担当)	・自動車産業においては、まだEV化やDX推進は道半ばであり、今後も継続すると予測している(東京都)。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	・お盆明けの計画や予約は結構もらっているが、倒産、廃業が止まらないので、プラスマイナスゼロでほとんど変わらない。
		職業安定所(職員)	・求人数が若干増加傾向にあり、景気は上向きかと思いつつ、ここ最近、新型コロナウイルス感染者数が前週に比べて増え続けてきているため、先が読めない状態となっている。
		職業安定所(職員)	・ウクライナ情勢等の影響で物価上昇が続けば景気が減退する可能性があり、予断を許さない。
	職業安定所(職員)	・有効求人数は前月と比べて1.2%減少しているが、前年比では11.4%増加しており、6か月連続して前年同月を上回っている。前々年同月と比べると6.4%の減少であり、下げ幅は2か月前と比べて約10ポイント改善している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業には採用予定数に達しなくても良いといった楽観論がある。新型コロナウイルス禍、ウクライナ情勢に加え、円安の加速により、採用枠は縮小するかもしれない（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業の業績拡大が期待できるような顕著な改善は期待できそうもない（東京都）。
		求人情報製作会社（経営者）	・円安や株価の影響が徐々に始めている。中小零細企業は、原価の高騰を販売価格になかなか上乗せできない現状がある。そのため、賃金アップが進まず、消費も減退し、事業者の販管費コストも絞り気味になるのではないかと（東京都）。
		求人情報誌製作会社（所長）	・物価が上がり、政治がどのような対策を採るかによって、変わってくる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の影響はやや改善されたものの、円安、原材料高が企業の経済活動に負の影響を強めている。一部では採用活動を見合わせる動きも始まっている（東京都）。
	x	*	*

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)		コンビニ（経営者）	・暑い時期になると、飲料や食品等を買求める客の来店が増えてくる。
		高級レストラン（経営者）	・今まで控えていた宴会等も増えてくるとみている。
		観光型旅館（経営者）	・Withコロナが浸透してきている。新規感染者が出ていても、感染対策をしながら皆、旅行をするようになっていく。最近では小さめの団体も動き出し、まだ新型コロナウイルス発生以前にまでは届かないが、かなり近づいていくのではないかとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・企業関係の一般宴会が、徐々に増えてくるとみている。この2年間、宴会のキャンセルが毎週あったが、前週～今週末までは1件もない。徐々に新型コロナウイルス感染症に対する考え方が変わり、企業関係が一般宴会を開くようになっていく。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・相談があってから、数日～1か月くらいで、葬儀となることが多い。今月の相談が多かった分、葬儀も引き続き多くなるのではないかと。
		商店街（代表者）	・例年より早めの梅雨明けと新型コロナウイルス新規感染者数の減少で、マインドが変わってきている。ここに全国旅行支援が加われば、更に期待ができる。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・この先まだしばらくは猛暑が続くようなので、夏物商材の動きは非常に良くなる。ただし、商材不足が出ているので、その辺りが心配である。
		百貨店（店長）	・都内のように大きくとはいえないが、地方でも徐々に、高齢者を含め顧客が戻ってきていると実感できている。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、参議院議員選挙、夏のイベント、秋祭りと、新型コロナウイルス前の状態に戻りつつある。
		乗用車販売店（経営者）	・新車納期の長期化は変わらないものの、半年以上前の受注分の納車が徐々に増えてきている。点検整備需要も合わせて売上増加が見込まれる。
		自動車備品販売店（従業員）	・更なる物価上昇の懸念は強いものの、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたこともあり、外出機会や遠出が増えるため、やや良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・まだまだだとは思いますが、いろいろな行動制限が緩和されるようになってきている。
	スナック（経営者）	・全国的に新型コロナウイルスもかなり落ち着いてきて、客も以前よりは出てきてくれるようになってきている。ただし、新型コロナウイルス禍の間に肝心のスタッフが抜けてしまっていて、人数をなかなか補填できず、たまに来客対応ができない状況がある。まずそちらを頑張らないことには、今後の売上にはなかなかつながらない。確実に客は戻ってきていると肌で感じており、期待している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・ブロック割により、個人客の利用増加が続いており、今後の全国旅行支援の話題もあるため、予約は順調に伸ばしている。法人、団体利用も、件数は増加傾向にあるものの、新型コロナウイルス禍前の利用人数には及ばないことや原材料費の高騰について懸念している。しかし、現在の予約状況からすれば確実に良い方向に向かっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・来客数が伸びている。
		タクシー運転手	・昼の動きがやや回復しており、夜も飲みに出掛ける人が多少増えたような気がする。このまま、前年比107～108%と、1割強くらいで増えることを期待している。
		観光名所（職員）	・食材や原材料等の値上がりはつらいが、売上は戻ってきている。国内観光客の増加と、少数ではあるがインバウンドのツアーも入り始めている。
		遊園地（職員）	・引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるものの、感染対策を徹底し万全な受入体制を整え、積極的に集客施策や情報発信を実施することで、多くの客の来園を期待する。
		設計事務所（職員）	・大規模な計画の依頼も増えてきているため、計画が進みだせば、忙しくなってくる。
		商店街（代表者）	・盛り上がる要素が全くない。
		商店街（代表者）	・昔のように、街に出て買物を楽しむというような気持ちはなく、どうしても必要な物だけを買うという形なので、しばらくは現状が続く。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・猛暑が続き、季節商材の動きが現状のまま続いていけば、必要な消費も増えて全体的に物が動き始める。ただし、物価がどこまで上昇していくのか不透明な部分が多く、先の見えないところである。
		コンビニ（経営者）	・いろいろな商材価格が上がっているのでも、やや売上の伸びは厳しいが、段々と安い物は買い求める傾向が出てきているので、それほど状況は悪化しないと考えている。
		コンビニ（店長）	・市場の動きは大分、活発になってきた気はするが、当地は天候の関係以外は余り大きな変化はない気がする。今は新型コロナウイルスの感染状況よりも、天候等の影響の方が大きいのではないかと。今後も気温が高くなっていく予報なので、暑くなれば飲料や細かい商材が中心となるが、固形物は売れなくなるので、総じて余り変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・衣食住のなかで、食住の優先順位は高いが、衣に関する関心は低く、補助金等もない。
		家電量販店（店長）	・半導体不足による商材供給の低迷が考えられる。
		その他専門店〔酒〕（店長）	・今月は非常に販売が伸びている。飲食店は動きが良く、ホテルからもいろいろな話があり、動いている実感はある。2～3か月後も現状のような推移でいくのではないかと。その先のことになると分からない。
		一般レストラン（経営者）	・今と同じような傾向で、急激に良くなるとは思えない。猛暑続きがどこまで影響するか次第で、余り期待はできなさそうである。プラス材料としては、当市独自の景気対策で飲食業向けのキャンペーンが始まることであり、期待を寄せている。
		スナック（経営者）	・イベントによる集客で、6月までは良かったが、イベントも終了し、どうなるかは読めない。宴会はまだ余り動き出してないし、ランチタイムも在宅勤務になった人たちが戻らず落ち込んだままなので、まだしばらくは時間が掛かりそうである。
		スナック（経営者）	・本当に良くなる要素が1つも見つからない。これ以上悪くならないようにという願いを込めて、変わらないとしている。
		通信会社（経営者）	・相変わらず、物価上昇に加え高温などの影響もあり、より一層の節約志向が高まれば、他社への移行が進む可能性がある。
		通信会社（社員）	・インターネット需要はほぼ飽和状態で、新サービスの創造がないと、売上が頭打ちになる可能性がある。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況、世界情勢、物価や光熱費の上昇等、マイナスの要因はたくさんあるが、夏休みになって、にぎわいが戻ってくることを願っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔クリーニング〕（経営者）	・戦争も長期化しそうだということで、原油だけではなく、ガス等、いろいろな物価が相変わらず高く、非常に困窮している。しばらくこの状況が続くのかと思うと本当に困る。
		一般小売店〔薬〕（経営者）	・売上がやや減少しており、今後も減少傾向とみている。
		百貨店（営業担当）	・ガソリンを始めとして、このところ食料品等の値上がりも続いている。特に、電気代は既にかかなり上がっており、物価高騰で消費が抑えられているような気がする。
		スーパー（経営者）	・価格上昇に個人消費がどこまで耐えられるか、疑問である。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されて、ゴールデンウィークなどには人も少し動くようになったが、物価が軒並み上がってきているので、客のお金の使い方がシビアになる。
		コンビニ（経営者）	・盛夏を迎え、やや良くなると思うが、電気代高騰で家計の節約が進んで、下降傾向となるのではないかと。
		旅行代理店（副支店長）	・天候不順や世界情勢、円安による影響が、今後、旅行にも大きく出てくるのではないかと。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、企業の旅行等は自粛されている。先に行くほど個人にも影響が出ている。現在、夏休みに向けた旅行受注は増加傾向だが、9月以降の動きは鈍く、財布のひもを固く締め直している。景気が下方に向かう要因が多い。
		ゴルフ場（経営者）	・当ゴルフ場は標高の高いコースとはいえ、猛暑が続き、平日は高齢のプレーヤーが多いので、熱中症対策を強化している。また、ゴルフが健康寿命を延ばすことにつながるというキャンペーンのダイレクトメールを続けている。単価については、売店への食材納入価格上昇分を売価に転嫁している。取扱商材を増やしたこともあり、客単価は上昇したものの、来場者数は前年比98%となっている。
		ゴルフ場（経営者）	・世界情勢を考慮して、状況が悪くなることを前提にビジネスを進めていく必要性を感じている。
		住宅販売会社（経営者）	・人手不足や燃料費の高騰等から経営環境は厳しさを増しており、赤字転落の懸念もある。
	×	*	*
企業 動向 関連 (甲信越)		金属製品製造業（総務担当）	・半導体需要で、当社は好調である。
		食料品製造業（営業統括）	・これから夏の猛暑に向かって他の飲料に左右されるものの、売上は3年前の実績に近付いている。また、諸物価の値上がりが影響して、利益は大幅に落ち込むとみている。
		食料品製造業（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、経済が回り始めれば、やや良くなるのではないかと。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・生産量が徐々に増加している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・夏休み向けの体験ワークショップの展開をしており、来店者への期待感はある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・原材料価格の上昇や物流費の高止まり、円安による輸入材の上昇等、コスト上昇分の転嫁が進んでいない。
		建設業（経営者）	・受注状況が改善したら、将来の利益も考えてみたい。
		金融業（調査担当）	・製造業は生産調整の影響があるものの、需要は底堅く推移する見込みである。非製造業では、仕入価格上昇分の価格転嫁がどの程度進むかが鍵となる。
		金融業（経営企画担当）	・新型コロナウイルス問題に加え、ウクライナ戦争が長期化していることで、景気は影響を受けている。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・景気回復の要因が見当たらない。7月には参議院議員選挙もあるが、大きく期待できるような政策は示されていない。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・ルートセールスは全くといってよいほど売れていない。在庫商材がかなり減ってきているが、材料価格高騰で、新作を作るに作れない。将来を考えて、メーカーや問屋は数を売るB to BからB to Cへの志向を強めている。
	×	食料品製造業（製造担当）	・円安が進み、輸入品価格が上がる。大豆等は国産品と輸入品が同等の価格になりつつある。そうすると、国産品を買う大手が出てくるので国産品の価格が上がり、ますます零細企業は厳しくなる。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・部品の入荷や受注が確定しないため、先行きが見えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (甲信越)		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて、国内外からの往来が増えることにより、観光産業を中心として景気が上向くのではないが。
		職業安定所(職員)	・求人は増加傾向にある。新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着きを見せるなか、宿泊、サービス業の求人も前年同月比で増加に転じていることから、労働市場は好転している。ロシアのウクライナ侵攻により、原油価格や物価高騰の影響が懸念される。
		人材派遣会社(営業担当)	・賞与もなく給与も上がらずにいるためか、消費に回るところか借金の相談もある。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなってきていると思うが、円安や物価高の動向は不透明なところがあるので、状況が良くなるのか悪くなるのか、少し様子を見る必要がある。
		職業安定所(職員)	・世界的な半導体不足により、商材が入手しにくくなっている。また、小麦等の原材料費上昇で、生活用品が軒並み値上げになってきている。
	x	-	-

6. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)
(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)		一般小売店[土産] (経営者)	・ウィズコロナとなるなかで、どこまで共存しながら復旧できるかが決め手となる。
		百貨店(販売促進担当)	・今後も様々な規制が緩和され、買い控えの反動もあり購買意欲がますます高まっていくのではないが。
		観光型ホテル(経営者)	・2~3か月先の8~9月は、新型コロナウイルスの感染状況が収まり、全国旅行支援が始まれば、これまで2年半以上新型コロナウイルス感染症の影響で外出していなかった反動で、客が出掛けるとい希望もある。需要喚起策もあって外出需要は底固く、良くなると考える。もっとも、新型コロナウイルスの感染状況がこのままか、それほど増えないことを前提にしているため、予測し切れない余地もある。
		商店街(代表者)	・帰省期間に入ってくるため、何も縛りのない長期休暇は久々になる。広告やマスコミ関係もあおっている。
		百貨店(総務担当)	・ボーナス支給増加の見込みに加え猛暑もあり、夏物需要が大きく伸長することが想定される。物価高などの不安要素もあるが、高額需要による売上が物価高の影響を上回ると見込む。
		百貨店(営業担当)	・人が動き始めている。
		百貨店(営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が終息とまではいかないが、客のマインドが少しずつ変わってきているように感じる。イベント等の開催が戻りつつあり、外出も少しずつ増えることが予想され、それに伴い様々な需要が増えていくと予想される。
		百貨店(販売担当)	・ようやく新型コロナウイルス感染状況が落ち着いて、外出機会が増え来客も伸びてきている。新型コロナウイルス発生前の状況にすぐには戻らないが、ゆっくりと回復していく兆しがみえ始めている。
		スーパー(販売担当)	・乗客数も増加しているし、1品単価上昇の影響で客単価が上がっているため良くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・夏のピークでの売上は、この調子で進めば更にもう少し上積みも期待できる。特に、おにぎり、飲料やアイスなど夏商材の売上が高い実績で推移していることから、この商材を中心に売上の伸長が期待できる。
	コンビニ(エリア担当)	・人流が徐々に戻りつつあるという手応えがあるため、今後は旅行、帰省やインバウンド消費などに期待を持てる。	
	コンビニ(店員)	・今よりまだ気温が上がると思われ、涼みがてらで冷たい物の販売量が増える。	
	コンビニ(商品開発担当)	・例年より早い梅雨明けや異常気象ともいえる高い気温により、飲料、アイスや冷麺の販売が好調である。新型コロナウイルス発生前の水準回復もみえてきた。気候がこのままであれば、数値は短期的には明るいものになると予想する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（本部管理担当）	・6月は良かったが先々には懸念材料があるため、やや良くなる程度と見込む。ただし、小売業態についての楽観的な観点で先行きを推測すれば、梅雨明けが早いという情報だけでも大きなプラス材料になる。
		衣料品専門店（店長）	・地域経済のエンジン役は様ではないが、回り始めている感じがする。消費者の購買活動は増えてきているが節約志向は強まっており、余分な物は買わない傾向にある。
		衣料品専門店（売場担当）	・隣にも大型衣料品量販店があり立地条件が良く、集客も良いためグループ店内でも売上はかなり良い方である。目的なしに来店する客も多い。目的のある来店客は、ボーナスが入ると高単価の商品をよく購入する。客層も良く毎年のように購入があるため、これからは少し期待ができる。
		家電量販店（店員）	・単価が上がってきており、しばらく状況は良さそうである。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・季節要因のみになるが、猛暑でエアコン等の季節商材の販売量が例年より伸びる。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の納期遅延が少しずつ解消に向かう。
		乗用車販売店（従業員）	・全体的な良い流れはしばらく変わらない。景気が良いというわけではないため楽観はしていないが、全体的には緩やかに良くなっていくと思う。ガソリンの価格高騰などいろいろな懸念もあるが、人の動きをみている限りはそれほど悲観的ではない。
		住関連専門店（営業担当）	・リフォーム物件、新築物件共に見積り、引き合いが多くなっている。ただし、建築部材に使う資材の高騰で商品が間に合わなかったり値上げが頻繁に行われており、消費者の不信感が一部で出始めている。
		高級レストラン（経営企画）	・来店動機や来店人数に変化はあるものの、来客数としては、徐々に現状からの回復を見込む。一方で人手不足と物価高などが収益に重く押し掛かる。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		旅行代理店（経営者）	・経済施策による需要喚起に期待できる。
		旅行代理店（営業担当）	・秋にはGo To Travelが再開されると見込まれ、そうなれば旅行会社が取り扱う旅行商品は、法人・団体旅行も復活して劇的に回復すると予測する。政府も腹をくくって早く再開してもらいたい。旅行業界のカンフル剤は、全国旅行支援ではなくGo To Travelである。
		旅行代理店（営業担当）	・ゴールデンウィーク明け以降に受注した団体旅行で、新型コロナウイルス感染症が理由の取消しは1件もない。受注している分が全て催行されていけば、新型コロナウイルス発生前の6～7割くらいの収益は上がる計算となる。
		タクシー運転手	・前年はアルコール提供ができず7～8月頃のピヤガーデンもほとんど営業をしていなかったが、今年はこの暑さでピヤガーデンにも客がかなり戻ってくると思う。一番楽しみにしているのは全国旅行支援等で、かなりの数の客が利用して動いてくれると期待している。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルス感染症対策の緩和とともに、客の動きは良くなるのではないかと。
		レジャーランド（職員）	・全国旅行支援により、全国からの集客効果が期待できる。出入国条件は緩和されたが、インパウンドの効果を確認できるのはしばらく先になると予想している。逆に、アウトパウンドは燃料費高騰や円安の影響で、国内旅行にシフトするケースも少なくないと考えている。
		その他レジャー施設 〔鉄道会社〕（職員）	・依然新型コロナウイルス新規感染者数が一定数あるものの、周辺では落ち着いた対応をしているように見受けられる。今後の鉄道利用客の増加が期待できる。
		美顔美容室（経営者）	・毎年のことであるが、8月から新キャンペーンがスタートするため販売量が增加する。
		商店街（代表者）	・若年層の来客数は増えたが年配の来客数が増えてこないため、売上金額は余り伸びない。
		商店街（代表者）	・光熱費を含め生活に必要な物が軒並み値上げとなり、当店のようなし好品を扱う店舗では、そのような社会情勢になると非常に売上が厳しい。
		一般小売店〔結納品〕 （経営者）	・新型コロナウイルス感染状況の終息がない限り、景気は上向かない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・物価高が心配である。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・今が非常に良いため、これ以上良くなることは考えにくい。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今月下旬になって増加に転じリバウンドも考えられるなかで、まだしばらくは、飲食店での飲料の販売増加は見込めないと考える。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価の上昇等で生活は厳しくなっているが、景気は現状維持が続くと考える。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・コロナ禍は落ち着いても、もろもろの物価高で財布のひもはなかなか緩まない。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・物価高、円安、ウクライナ情勢など不安な要素が多すぎて先行きが見えない。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・引き続き円安が影響すると思われる。
		百貨店（企画担当）	・ウィズコロナが定着した感があり、来客数、売上共に大きく伸びている。今後は、インパウンド客の受入れ状況次第で大幅なプラスが期待できる反面、国内消費の面では、物価急騰により主力客である中間層の消費意欲の鈍化を懸念している。
		百貨店（経理担当）	・食品、ガソリンや生活用品など広範に及ぶ物価高は、今後も相当期間続く予想され、コロナ禍の自粛での反動によって拡大傾向にある個人消費に、ブレーキが掛かると考える。
		百貨店（販売担当）	・コロナ禍が落ち着いて来客数、売上共に回復しつつあったが、買上点数が伸びなくなった。商品の値上げで、買い控えが感じられる。
		百貨店（業績管理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せている一方で、物価高の影響がやや感じられ、総じて余り状況が好転するとは考えにくい。
		スーパー（販売担当）	・来客数、買上点数共に落ちている。買上単価は、商品の値上げによりやや上がっている。あと1品買ってもらえる方策を考える。
		スーパー（支店長）	・新型コロナウイルスの感染状況も一段落と言いたいところだが、新規感染者数が再び増えてきて余り良い方向には感じられない。ウクライナ紛争、円安、猛暑、食料品等の高騰により消費は冷え込む。決められた収入の中での消費の優先順位はおのずと生活必需品となるため、厳しくなると予測される。
		衣料品専門店（売場担当）	・しばらくの間は、現在の物価の上昇傾向が継続する。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・まだまだ、新型コロナウイルス発生以前には程遠い環境である。
		家電量販店（営業担当）	・円安及び物価の上昇において、変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、旅行や外食で消費は回復傾向だと思うが、過度な円安により輸入品を中心に値上げが続いており、景気回復の妨げになっている。
		乗用車販売店（経営者）	・年内は改善が見込めないとわれている。しばらくの間辛抱が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・部品不足や流通の遅れは相変わらずで、好転しそうな様子も見られないため、しばらくは変わらない状況が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・オイルの仕入価格も高くなり、当社でも値上げを検討している。ガソリンもだが、他にも値上げラッシュが止まらないため、客は出費を増やしたくない状況である。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の発売予定があるため新車販売は見込めるが、逆に納期が掛かるため生産がストップしている車種もあり、オーダーができない車が多々ある。
		乗用車販売店（従業員）	・通常ならば来月よりボーナス商戦に入るが、最近の傾向として、頭金なし・ボーナス払いなしのローンを組む客が増えてきている。生活費が増えた分をボーナスで補うようであれば、新車への買換え客がどれだけあるか分からず、現時点では、余り良い方向に向かうとは思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔雑貨〕 (店長)	・現状で安定すると思われる。コロナ禍とスマートフォンの普及等により、消費のスタイルが変わり、店頭で展示された商品ではなく、製造後の清潔な商品を買いたい人が増えている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(経理担当)	・売上は前年比マイナス5.7%、前々年比ではマイナス13.7%である。来客数は前年比マイナス2.6%で、前々年比ではマイナス14.9%である。当県では前々年の5月には緊急事態宣言が解除され、売上、来店客が戻っていた時期である。
		一般レストラン(経営者)	・現在の為替相場を考えると、特に経済全てが良くなるとは思えない。新型コロナウイルス感染症の第7波の心配がある。
		一般レストラン(従業員)	・物価が上がってきている分、消費を抑えると思われる。
		バー(経営者)	・このままの情勢では分からない。良くなることへの期待はある。
		都市型ホテル(従業員)	・予約数から、変わらないと見込む。
		都市型ホテル(営業担当)	・現状から更に良化するには、インバウンドの増加と新型コロナウイルス感染症の感染症法上で講じる措置の変更など、目に見えた変化が必要と思われる。
		都市型ホテル(総支配人)	・全国旅行支援が始まれば、宿泊は良くなる。新規感染者数の増加などで拡大できなければ、悪化する。食事付き宴会の受注状況は非常に悪い。宿泊、飲食共に価格が上げられるかが課題である。新型コロナウイルス発生以前と比較して、清掃費は50%、リネンは10%、食材その他消耗品も10%強の値上げとなっている。
		旅行代理店(経営者)	・外国人観光客の受入れが早急に回復しない限り、以前の来客数にはならない。
		旅行代理店(経営者)	・ようやく地元空港からも海外直行便が運航される話が出ているものの、夏休みの予約状況は、新型コロナウイルス発生前の水準には程遠い。海外からの入国制限の緩和と同様に帰国前PCR検査の緩和がもっと進まない、渡航先での負担が大きい。日本人向けの帰国前PCR検査代は4万円前後が相場で、日本人旅行者は最高のターゲットになっている。海外の負担があるなかで新型コロナウイルス発生前のように海外旅行者を回復するには、帰国前PCR検査用のキットを事前に渡して帰国時に申告できるなど、簡素化してほしい。Go To Travelのような支援は、10~12月までは平日に限るなど、早めの告知と長いスパンで再開してほしい。6~9月の予約は既に入っている、混乱は避けたい。
		旅行代理店(経営者)	・7月15日以降は県民割から全国旅行支援へと変化しそうで、その内容が分かるまでは判断のしようがない。
		通信会社(営業担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に向かい人流の規制も緩くなったが、また増えてきていることもあり、2~3か月では良くなるとは思えない。
		通信会社(営業担当)	・まだ機器不足が続くようである。
		通信会社(サービス担当)	・最近の傾向では速度より低価格のサービスを求めている客が多いため、今後、料金改定等をしていかなないと既存客が離れていくと思われる。
		テーマパーク(職員)	・インバウンドが増えない限り、今までのように回復するのはまだまだと感じる。
		ゴルフ場(支配人)	・8月の予約数は、前年同日を上回っている。当地域のゴルフ場入場者は、前々年末以降少しずつ増えている。前年のように雨天の日が多くならなければ、8~9月も好調に推移するとみている。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕(広告担当)	・大きな原因であるウクライナ情勢や円安などは、短期で解決するとは到底思えない。
		美容室(経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況は収まりつつあるが、物価がかなり上がっているため、客は金の使い方をいろいろ考えている。
		住宅販売会社(従業員)	・新規感染者数の減少はみられるが、足元の状況が続く。
		その他住宅〔室内装飾業〕(従業員)	・客からの引き合い数が少ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・物価高などで修繕費もかなり高額になってきており、発注を見送るケースが増加する可能性がある。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は横ばいかやや増加傾向にある。また、いろいろな物が値上がりしている。加えて、この暑さで外出を控えるようになり、余り良い状況ではない。
		商店街（代表者）	・電化製品を始め商品の値上がりが購入者の購買意欲を下げ、また、販売店にとっては適正利益が取りにくくなる。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・先行きはやや悪くなると判断するが、やや良くなる兆しもある。今は付き合いの幅が狭まって少し厳しい状況であるが、3か月くらい先になると、今まで自粛していた反動で少し広がりをみせて企業も個人も金を使うようになり、少しだけだが上がっていく可能性もある。
		百貨店（売場主任）	・来月1日からクリアランスセールが始まるが、対象商品は前から残っているキャリア品であったり、今回値下げする商品は余り在庫が残っていないため、厳しいと思われる。クリアランス目当てで来店する客にとっては、サイズがそろっていないことが多いと思われる。新作の納期も大分遅れているため、購買意欲のある客は来店するが商品が追いつかず、売上は厳しくなると見込む。
		百貨店（計画担当）	・現状の傾向はしばらく続くが、足元で値上げが相次いでおり、今後は買い控えが起こる可能性がある。
		スーパー（店長）	・お盆期間はゴールデンウィーク以上に外食や海外旅行を含む外出傾向がますます強くなり、来客数は減少すると思われる。雨不足による野菜の価格高騰や原料価格の上昇による商品値上げで買上点数の減少が予想され、今より更に厳しくなる。
		スーパー（店員）	・今後値上げの影響が落ち着くかは、まだ見通せない。
		スーパー（店員）	・電気、ガスや食品等あらゆる物が値上がりして、来店客の様子を見ると家計がひっ迫しているように感じる。これからの猛暑も考えると、良い点が1つも見当たらない。
		スーパー（総務）	・新型コロナウイルス感染症の影響は緩和されてきたが、世の中の物価が何もかも上がってきている。買い控えにより景気が悪くなりそうである。
		スーパー（営業企画）	・今後も、ロシア・ウクライナ戦争に起因する原料の値上がりに伴う食品の値上げは続く見込みであり、食料品の消費は停滞する。
		コンビニ（店長）	・食品などの値上げが続き、新型コロナウイルスの新規感染者数も下げ止まっており、猛暑も加わってマイナス要因が多く、先行き不透明である。
		コンビニ（店長）	・物価上昇の影響が出始め、少しずつ節約志向が高まる。
		コンビニ（商品企画担当）	・日用品等の値上げが相次いでおり、一旦は消費が冷え込むと予測する。
		衣料品専門店（経営者）	・消費が洋服に回るには、まだまだ時間が掛かりそうである。
		乗用車販売店（従業員）	・生活インフラに関わる物価上昇はこれからまだ続く。一方で客から賃金がアップしたから余裕が出てきたという話は、まだ耳に入っていない。現在の生活防衛のため、財布のひもはますます固くなってきていると感じる。この先の不安感から、事故や故障等で必要に迫られての買換えはあっても、差しあたっては、車の購入は考えられない。
		乗用車販売店（営業担当）	・納期が掛かる上に、値上げの予定がある。生産が回復しつつあっても、客足が遠のいてしまう。
		その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・現在は半導体使用製品もギリギリ供給されているが、今後、半導体使用製品の欠品や円安による価格高騰が発生し、販売が落ち込む可能性がある。小売業としては原価高騰のため値上げせざるを得ないが、どこまで低粗利率で持ちこたえられるかが、勝負の分かれ目になりそうである。
		一般レストラン（経営者）	・燃料費を始め仕入額等も値上がりしている。少し家計にも響くようになると思う。
		一般レストラン（経営者）	・更に全ての物に値上げの影響が出てくる。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・物価が上昇しているため、不安定要因が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・4～6月にかけて様々な商材の価格が上がった。これまでは消費者も覚悟の上といった様子であるが、光熱費の上昇や秋に更なる値上げが控えていることに警戒感を示す人が増えてきており、買い控えを予想している。
		通信会社（企画担当）	・好転する要素は中国でのロックダウン解除くらいで、これまでの経済環境や社会環境に加えて、夏場の高温やゲリラ豪雨など人の動きや食料品価格にも影響を与える要素が懸念され、悪化傾向が続く。
		テーマパーク職員（総務担当）	・物価が上昇しているにもかかわらず、給与には変化がみられない。
		パチンコ店（経営者）	・コロナ禍以降、業界全体で客離れが起きているため、回復の糸口が見えない。
		理美容室（経営者）	・客との話から、いろいろな物が値上がりしていて、段々と景気が悪くなっていくと思う。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が完全になくならない限り、景気回復は無理である。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・介護保険の福祉用具貸与では、価格が実質上げられない構造となっている。新機種を採用しても現行機種以上の価格は付けられず、調達原価も販管費も上がって、利益を削っていかなければならない。
		設計事務所（職員）	・客との会話は、政治、ウクライナ情勢や新型コロナウイルスの話で一杯で、景気の良くなる話は全く聞かない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・予算が潤沢な仕事はなく、利益を落としてまずは仕事を取っていくスタイルが続いている。この先多少なりとも経済的には制約が緩和されることを期待している。
	×	商店街（代表者）	・物価高が非常に厳しく、必要最低限の日用品しか売れなくなりそうである。必要性の低い商品は、全く売れない状況が続きそうである。
	×	スーパー（店長）	・商品値上げによる1品単価の上昇よりも、来客数と買上点数の減少の方が大きい数値で推移している。
	×	スーパー（店員）	・商品は高くなる一方、なかなか売上に結び付くほど買上点数が増えていかないため、更に厳しくなる。
	×	スーパー（販売担当）	・ロシアのウクライナ侵攻には収拾のめどが立たず、食糧への影響は避けられない状況である。円安の影響もあり、輸入品の購入や企業の業績への影響は必至と思われる。また、最近の天候が水不足を起こす恐れもあり、農産品への影響が懸念される。
	×	コンビニ（店長）	・仕入価格上昇分の売価への転嫁が追いつかない。利益が取れない上に、売上の減少も顕著である。
	×	コンビニ（店長）	・物価上昇が余りにも家計を苦しめている。自己防衛のため、消費活動を極端に控えて引き籠る人の増加も考えられる。政府の対策も乏しく、消費を喚起させるものはない。
	×	乗用車販売店（従業員）	・異常な気候、戦争、物価高など国民にとっては不安でしかない。この先、かなりどんどん悪くなっていくような気がする。
	×	乗用車販売店（販売担当）	・新型車にも半導体不足の影響が非常に出ており、生産が開始されなかつたりしている。とにかく車の在庫が全くなく、生産も全く追いついていない状態である。
	×	観光型ホテル（支配人）	・個人宿泊は徐々にではあるが今後も増えていくと見込むが、食堂利用は今後も伸び悩む。今一度、商品内容と価格設定の見直しを迫られることになる。一般宴会は、第2四半期に入る来月以降も、向こう3か月の予約状況は全てが30%前後であるため、大変な厳しさを強いられることに間違いはない。
	×	タクシー運転手	・物価高、燃料代高騰、エネルギー価格の高騰で電気代も上がって、原発を動かさないと、ますます悪くなり市民は大変である。
	×	美容室（経営者）	・今年の夏はととも暑くなるということで、客層が高齢化しているため外出が難しくなり、悪くなると思う。
	×	設計事務所（経営者）	・現時点で案件がないため、景気が良くなりようがない。
	×	住宅販売会社（従業員）	・建築業から転業する若い事業者が多くなってきた。
企業動向関連		化学工業（営業担当）	・全ての製品ではないが、値上げした価格で販売できるため、収益圧迫が緩和される。半導体向け需要は引き続き好調で、数量は横ばい若しくは増える見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東海)		窯業・土石製品製造業（社員）	・同業他社で当社と競合する製品の生産から撤退したところがあり、その代替のための見直し依頼が来ている。必要性の高い製品なので、受注できる可能性が高い。
		通信業（総務担当）	・物流に加えて、商流そしてインバウンドの人流も増えつつあり、それに連動して国内消費も増えると考えられる。ただし、物価上昇により今後買い控えが発生して、消費マインドに水を差して息切れする可能性がある。
		金融業（従業員）	・海外旅行客の受入れによるインバウンド需要が発生し、景気が回復傾向になる。
		会計事務所（職員）	・夏休みに旅行を検討して旅行会社に相談したところ、夏休みではもう締め切ったツアーもあるとのことであった。今まで我慢していた分、旅行や外食に支出しようということだと思ふ。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・いろいろな制約が解けて大きく好転し始める。物価、特に石油価格などは大きく下がっていき、その後いろいろな動きが湧き出してくると思う。当社の新製品には、活発な引き合いがある。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・現在の原材料価格の高騰からすると、取引先への価格転嫁はままならず、その他にも良くなる状況はみえてこないため、景気は今と余り変わらない。
		化学工業（総務秘書）	・2～3か月先なら、まだ景気は後退しない。我が国は良いモノやサービスがあふれており、円安のなかでインバウンドが戻れば、景気のプラス要因となる。ただし、賃金が上がり続けている外国人に日本が安く買われているということでもあるため、適正価格で外国人に販売していく取組が必要ではないか。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・円安は販売チャンスだが、物流費、材料費が高騰しているため、利益が出にくい状況がずっと続いている。電子部品が納入されてこないため製品が製造できず、納期が長くなっており、しばらくは好転する材料がない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・ウクライナでの戦争が終わるなど大きな変化がないと、傾向は変わらない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・我が国の経済全体での停滞感、不安感の一扫のためにも、思い切った経済政策を実施してほしいところである。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・完成車メーカーへの部品、半導体の供給がどの程度回復するかに懸かっているが、大手自動車メーカーでは7月は5万台減産と言っているため、今のような状態が2～3か月は続く。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・ロシア・ウクライナ紛争が終わっているいろいろな要素が安定しない限り、景気向上は見込めない。
		建設業（役員）	・先行きは、新型コロナウイルスの感染状況次第で景気状況が変わるため、客の動きも静観となるか活発に動くか見通せない。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の問題も少し落ち着いてきて、後は参議院選挙が終わり落ち着いてくればよいが、ウクライナ問題もあるため、もう少し世の中が落ち着かないと見通しが立たない。
		輸送業（経営者）	・軽油価格の高騰が長引くなかで、荷主も原料高で燃料サーチャージになかなか応じない。また、人手不足で派遣社員の多用が続き、人件費が高止まる。
		輸送業（従業員）	・我々の業界のみならず客先で話を聞いても、販売量は増えてもそれ以上に調達コストが上がってきている。正直な話、忙しくなっているだけでもうかかっていない状態である。この様々な価格上昇は世界的に当分続くと思われる。
		輸送業（エリア担当）	・変化する要因がないため、季節的変動のみである。
		通信業（法人営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻による原油、食料等の高騰がかなり物価を押し上げていると思う。先行きは不透明である。
		不動産業（経営者）	・物価上昇による様子見だが、ターミナル駅周辺などエリアによっては好状況を維持している。
	不動産業（経営者）	・今後も新型コロナウイルスの新規感染者数が減少する傾向が続き、外出や遠出をする人の増加傾向は当面継続すると予測している。今後も売上は徐々に回復していき、前年を上回る状況が継続していくと見込んでいる。	
	広告代理店（制作担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少してきたが、特に日用品類の値上げがこの先も続きそうであるため、広告の受注も余り期待できそうにない。	
	行政書士	・前年よりも今期決算の方が赤字という業者の声を聞く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・これから材料価格、電気料金やエネルギー価格が値上がりすることから、引き続き利益を圧迫すると考える。
		金属製品製造業（従業員）	・鋼材の仕入業者からも、単純な値上げ要請では市況も良くないなかで一方的に転嫁できるわけがなく、どのような売り方をすればよいのか思案に暮れているというような相談が多い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・仕入れたい物が手に入らない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・全ての物の価格が上昇するなかで、消費購買力等が減退する。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・部品、材料費がどんどん上がるなかで給料は上がらないため、会社のもうけと消費はどんどん減って、景気は悪くなる一方である。
		建設業（営業担当）	・仕事をこなしていけば利益は出るが、会社自体が存続していく上で掛かる燃料代や電気代も含めると、会社としてもうかっているという話にはならない。以前よりは経費が掛かっているため、部品が入らないなかで今以上の仕事をするのは無理があり、2～3か月では改善は難しい。
		輸送業（従業員）	・マスコミ等の影響で消費者マインドが低下する。
		輸送業（エリア担当）	・低単価商品は伸びているが、通常の荷物は減少している。表面上個数はあっても単価が安く、コストは減らないために苦しい状況になっている。
		通信業（法人営業担当）	・リモートワークを標準に推し進める動きが既に加速している。人が外に出ないのに、飲食を始めとしたサービス業が復調できるはずがない。
		金融業（従業員）	・社会情勢、長期化する円安への不安、新型コロナウイルス感染症の影響も若干残っていることから、景気はこの先も今一つ良くはならないという見方を持っている人が多い。
		金融業（企画担当）	・材料費高騰の影響は、当面はしのげるが継続していくようであれば企業業績に与える影響も大きく、特に中小企業は厳しくなり、従業員の給料への影響が出てくると見込まれる。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・新聞折込の受注量をみていると、依然として減少傾向が改善していない。
		公認会計士	・円安を解消するために利上げが行われた場合、新型コロナウイルス感染症対策で借入れを行った企業の返済負担が重くなり、返済困難になる企業が今後増えると考えられる。また、ウクライナ等の世界情勢の影響により、海外からスムーズに輸入できない状況がまだ続くと考えられ、企業側の供給と消費者側の需要のバランスが、今以上に悪化することが予想される。
		会計事務所（職員）	・新型コロナウイルス発生前と比較すると、売上は順調な回復がみられるが、このまま食料品、生活用品などあらゆる物が値上がりし続ければ、消費者の購買意欲が低下し、客単価の下落など、悪影響が出てくる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・暑くなり、エアコンの利用が増えてきており、ますます支出が増えるばかりである。
	×	食料品製造業（営業担当）	・原材料価格の高騰により、販売単価に上乗せすれば更に大きく販売数量が下がる。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症と物価高の影響である。物価高になっても給料は上がらないという状況で、景気が良くなるはずがない。
	×	鉄鋼業（経営者）	・鉄鋼メーカーの一方的な価格設定により、全く売れていないのに我々店売り製品のみ値上げばかりを繰り返している。これでは中小企業は立ち行かない。
	×	輸送業（エリア担当）	・欧州の戦争の影響が全世界に及んでいる。物価の上昇が生活のなかにじわじわと浸透し始めている。このような動きを背景に、経済活動が好転する要因が見当たらない。鬱屈とした雰囲気の世界経済のなかで感じる。明らかに景気減速の流れであろうと考える。
雇用関連		-	-
(東海)		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増加しなければ、良くなる。
		人材派遣会社（営業担当）	・年間で2番目に人材ニーズが高まる半期替わりに向けて、派遣募集が増え始める時期となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・現在は求人数が求職者を上回り有効求人倍率が上がっている。これから求職者数の転職意欲も高まっていくと考える。そのため、転職市場は活性化するのではないかと期待している。
		職業安定所（職員）	・人の動きも活発になってきており活気が出てきた感がある。IT関連企業や飲食関連企業も、仕事が増えてきたため求人を出しているが、応募者が集まらず人手不足で困惑している状態である。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・6月のボーナス支給を経て、秋口くらいの転職を検討する潜在層の動きが活性化してくる時期になる。
		人材派遣会社（経営企画）	・直面している具体的な兆候はないが、米国経済の悪化による影響を懸念している。
		人材派遣業（営業担当）	・良くなる兆しはなく、停滞又は下降すると予想する。
		人材派遣会社（営業担当）	・全体として求人数は増加傾向であるが、経済情勢により業種間での格差が拡大している。
		人材派遣会社（企画統括）	・物価上昇の広がりにより、企業が新規求人を抑制する動きにつながる可能性がある。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・新車販売台数も前年比マイナスが続き、自動車メーカーの生産計画も先送りになっている状況である。生産計画の先送りや自動車生産工場の稼働停止によって、人材供給先の雇用の不安定さが続く。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・海外の戦争長期化など景気が良くなる材料がない。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の感染状況は落ち着き始めているが、資源価格など物価高の影響が増大しており、楽観視できない。
		職業安定所（職員）	・原材料やエネルギーなどの高騰による影響を受けている事業所が多く見受けられる。新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢や円安などの先行きにも不透明さがある。
		職業安定所（職員）	・今後も原油価格の高止まりや更に円安が進み、原材料の仕入価格が上がることが予想される。
		職業安定所（職員）	・求人の改善傾向は続いているものの、新型コロナウイルスの感染拡大懸念が続くこと、ウクライナを始めとする海外情勢や円安の進行による物価の上昇は今後も一定期間続くと思われることから、景気が悪化する懸念は払拭されず、今後の景気の状態についてはどちらとも判断できない状況が続くと考える。
		職業安定所（職員）	・来年3月の新規学校卒業者を対象とした求人に関しては、前年同月と比べて、それほど改善した状況とはなっていない。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・現時点での見込みとして、例年夏場の求人動向は落ち着く傾向にあるため、年々平準化しているとはいえ、同様の傾向を予測している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・学部により若干の差異はあるが、前年同期と比べ内定状況は良い。特に医療系においては前年度の雇用控えも影響しているのか、内定率で比較すると1か月以上は早く決まっている。
		人材派遣会社（営業担当）	・すぐには給料は上がらないし、物価上昇も止まらないと考える。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・円安などの影響による日用品などの値上げはマイナス要素である。消費者の意識も、買い控え傾向になる。
	x	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		コンビニ（営業）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、天候も良くなることから、良くなるとみている。
		都市型ホテル（役員）	・全国旅行支援や訪日旅行者の受入れ開始により、7月以降は宿泊客数の増加による増収を期待している。一方で電気代や燃料費の高騰、求人難による人手不足が生じており、夏期のハイシーズンにおける施設運営への影響を懸念している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・外国人客も少しずつ増加しているが、免税金額の上限である5000円以上の買物までには至らない。来客数は増加傾向にあるが、日本人も含めて客の買上単価が伸び悩んでいる。7月から実施される全国旅行支援に期待している。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・客の購買意欲の高まりに期待している。
		百貨店（販売促進担当）	・前年の8月中旬にはまん延防止等重点措置が適用されていたが、今年は夏休みやお盆の帰省が新型コロナウイルス発生前の状態になると考えており、売上はプラスに転じると見込んでいる。ただし、アパレルを中心に夏～秋に向けての商品の確保と、物価高の影響がどの程度になるのか見通せない状況である。
		コンビニ（エリア担当）	・ウィズコロナの生活様式が定着し人流が増加すると見込んでいるが、その一方で物価高の影響を懸念している。
		衣料品専門店（経営者）	・期待をしてみているが、まだ実際の売上には顕著に表れていない。
		衣料品専門店（経営者）	・社会不安が薄れ、以前のような落ち着きを取り戻せば景気は良くなると思う。
		家電量販店（店長）	・商品の入荷状況が悪いことを見越して早期の購入を検討する客が多く、どうせならと高付加価値商品を選ぶ客が増えている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ゴールデンウィーク以降は週末を中心に来客数が回復しており、今後は夏休みやお盆などの長期休暇で広域からの来店客も見込んでいる。また、旅行や各種催物などが再開していることから、コト消費の拡大にも期待ができる。
		高級レストラン（スタッフ）	・人の動きは感じるが、物価高でゼイタクを控えるという声を聞いている。当店は元々単価が高い店舗のため、苦戦を見込んでいる。
		観光型旅館（経営者）	・7月中旬から開始される全国旅行支援により、予約が増加すると見込んでいる。
		観光型旅館（スタッフ）	・6～9月までの予約状況は前年同月比で200%を超え、2019年との比較では6月は60%、7～9月は85～90%と夏場は回復傾向である。県民割の期間延長と全国旅行支援による予約の増加を期待している。
		タクシー運転手	・この先夏に向かい、いろいろなイベントが実施されるようであり、売上が回復すると考える。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染は対策を採れば大丈夫であると、感染を恐れない人が多くなっている。
		通信会社（営業担当）	・夏休みに入り家族での来店が増えたとみられ、トータルの販売台数は伸びると見込んでいる。
		テーマパーク（役員）	・来月からは全国的な旅行需要喚起策である全国旅行支援のスタートが予定されており、個人客を中心に更に客の増加が期待できることから、やや良くなるとみている。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数がなかなか100人以下にならないが、ほとんどの感染者が無症状や軽症ということで、外出や遠出をする機会が増えている。
		商店街（代表者）	・景気が良くなる雰囲気が出てくれば物価高などの影響は薄れると思うが、購買意欲の回復を取り払うのは難しいと考える。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も増えてきていて何ともいえないが、肉の需要は現状のまま横ばいで推移するとみている。
		百貨店（売場主任）	・夏休みは、今まで自粛していた国内旅行や海外旅行への需要が旺盛となり、関連商材の購買が好調に推移すると見込んでいる。
		百貨店（販売担当）	・新型コロナウイルスの影響よりも燃料費や水道光熱費、各種商品価格の上昇により消費が慎重になると考える。店舗では市場よりも割安な商材やディスカウント商材の扱いを拡大することで利幅が減少し、収益を悪化させる可能性がある。一方、新型コロナウイルスの拡大で止まっていたトラベル需要が、全国旅行支援などによって復活することを期待しており、旅行関連は値上げがあっても消費が減少しにくいとみている。以上の状況からプラスマイナスゼロでしばらくは現状維持を見込んでいる。
		コンビニ（店舗管理）	・新型コロナウイルス禍による悪影響が減っても各種キャンペーンが落ち着けば相殺されて、景気は変わらないと考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・発表された新型車を目的に来る乗客数が、以前よりかなり少なくなっている。Webでの検索はある程度あるが、購入には慎重な様子が見られる。
		乗用車販売店（従業員）	・新車納期の長期化など、状況は変わらない。
		自動車備品販売店（役員）	・新車の納入遅れやガソリン価格の高騰が続き、さらに、今後も様々な分野で値上げが続くと考えられ、明るい兆しが全くない状況である。
		一般レストラン（店長）	・現在は県民割のお買い得感が消費を喚起しており、次の全国旅行支援にも期待している。ただし、原材料の値上がりなどの不安要素も多い。
		一般レストラン（統括）	・6～8月は景気が良くなるとみているが、その反面、原材料の価格高騰が継続して物価が上昇すれば、夏休み後に人々の消費マインドが停滞若しくは低下し、消費意欲が一旦落ち着くと考える。
		スナック（経営者）	・先々の明るい様子が見えてこず、ただ今を一生懸命に過ごす日々である。
		通信会社（職員）	・あらゆる面で物価高がマイナスに作用している。
		通信会社（営業担当）	・ボーナス商戦に期待しているが、今のところ変わらずに推移しており、大きな変化を感じられない。
		通信会社（役員）	・解約数が少し増加している。また、経済的な理由による低額コースへの変更も若干増加している。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅価格の上昇だけでなく借入金利の上昇も加われば需要は減少すると思うが、金利が多少上昇してもまだ低金利であり、需要はまだ衰えないと考える。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローンの低金利や、こどもらい住宅支援事業の延長などの追い風はあるが、円安や新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢などの問題で先が見通せず、客の動きがつかめないう状況である。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・7月以降も紙製品やPET商材など多種の値上げが控えており、現状よりも更に悪くなりそうである。
		スーパー（仕入担当）	・今後も商品の価格改定が予定されており、販促強化などは様子見の状態が続くため、来客数や販売量に影響が出るとみている。
		スーパー（店舗管理）	・商圏内人口が減少しているなかで店舗数が増加しているため、買いだめ需要が期待できない。商品の値上げは更に継続するため、価格に見合った品ぞろえと売場展開が重要である。
		スーパー（統括）	・原材料価格の更なる上昇や金融資本市場の変動、原油や天然ガス、穀物や半導体等の供給面における制約により、製品価格への転嫁や値上げなど、先行きは依然として不透明な状況が続くと考える。
		家電量販店（店長）	・巣籠り需要が多かった家電から、旅行などの外出へと消費がシフトしていると考ええる。
		家電量販店（本部）	・季節関連商材以外は厳しい状況が続いており、この先の物価高の影響も懸念される。
		乗用車販売店（役員）	・ウクライナ紛争や円安の影響により、電気やガソリンなどの販売価格の高騰が続き、消費が縮小して景気が減退すると考える。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・全てのものが値上がりしており、年内は更に値上げが続くという大変苦しい状況である。消費者の財布のひもが固くなり、悪循環が始まると考える。
		旅行代理店（従業員）	・7月から全国旅行支援がスタートするが、具体的な内容が全く不明な状態であり、その内容が旅行代理店に良い効果をもたらすかが判然としていないため、期待はしていない。
		通信会社（役員）	・現状が変化する兆しはみえない。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・地元の同業者が廃業したという情報を聞いているが、新型コロナウイルス感染症の影響で入ってくるものは少なく、施設の老朽化への対応や経費の増加などで出ていくものだけが確実に増えている状況では、企業の体力が限界なのはどこも同じである。夏のボーナスの金額が増えていると聞か、どこの企業の話だろうか。
		住宅販売会社（従業員）	・建築資材価格の値上げが続く状況で、景気が良くなるとは考えられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	商店街（代表者）	・7月から値上げする商品が多く、更なる買い控えを予想している。値上げて売れなければ値段を下げざるを得ず、最終的なしわ寄せは小売店にくると考える。
	×	スーパー（店長）	・今後も商材全般の更なる値上げが確定しており、買上点数は落ち込むと考える。また、猛暑が続く間は来店頻度も落ちると見込んでいる。
	×	コンビニ（店長）	・物価上昇で買上単価が上がっているなか、商品の値上げで買いたい物が自由に買えない、購入する商品の量が減った、コンビニは高いからスーパーに行けと家族から言われているなど、常連客からはネガティブな話を多数聞いている。客の利用頻度が減少しており、中長期的にみれば景気は最悪の状態となりかねない大変に危険な状況だと考える。
	×	住関連専門店（役員）	・食料品や生活用品、ガソリンなどの値上げに加え、取り扱っている商品の仕入価格の上昇もあり、消費マインドの大きな低下につながっている。
	×	住宅販売会社（営業）	・原材料価格高騰の終息が全く見通せないことから、生活への影響も顕著になっており、消費行動を大きく阻害する要因になるとみている。
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	-
		精密機械器具製造業（財務担当）	・受注状況が上向き傾向にある。
		輸送業（管理会計担当）	・新型コロナウイルス感染症により制約を受けていた経済活動が正常化に向けた動きを見せるなか、企業間物量が回復すると見込んでいる。また、早い梅雨明けと猛暑により関連商品の物量が増加することも見込まれる。
		税理士（所長）	・取引先からは景気が徐々に回復しているという話を聞いており、それが数字にも表れている。円安が追い風となる業界もあるため、この先が悪くなることはないかと期待している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展や行動制限の緩和等、経済活動の正常化に向けた取組が進められる一方で、ウクライナ情勢の混迷により食料品や日用品を始めとした商品の値上げが相次いでおり、個人消費は当面本格的に回復しないと考える。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・オートバイ用部品の受注が引き続き堅調なものの、資源価格の高騰が企業業績を押し下げている。生産しても利益が出ないにもかかわらず、直ちに価格転嫁するのが難しい状況である。消費者の購買力が低下し、需要に影響を与えるという悪循環に入りつつあるのではないかと危惧している。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・円安の進行など為替の状況や参議院選挙の動向など、この先が読みにくい要素がある。
		通信業（営業）	・新型コロナウイルス禍の影響は落ち着いているが、ガソリン価格の高騰や各種商品の値上げによる買い控えなど、下向きの材料はあるが上向きの材料はないため、景気は現状維持若しくは悪くなると考える。政府の抜本的な支援で、景気が上向きになることを期待したい。
		金融業（融資担当）	・円安の進行や原材料価格の高騰が急速に進んでおり、価格転嫁の成否で企業収益に変化が出始めている。新型コロナウイルスの新規感染者数は横ばいで推移し、観光業や飲食業は改善の傾向にあるが、新型コロナウイルス発生前の水準には回復していない。
		不動産業（経営者）	・多少期待はしているが、個人客からの問合せの動きは少なく法人客の動きも鈍っている。
		司法書士	・北陸新幹線関連による積極的な不動産取引の動きが見られる一方で、負の不動産相続問題などで県全体の地価は下落傾向が続いている。
		食料品製造業（経営企画）	・今年の春に販売価格の値上げを実施したが材料費の上昇が収益を圧迫し続けており、更なる値上げに踏み切ることになりそうな状況である。売上が維持できるかどうか鍵になると考える。
		繊維工業（総括）	・ウクライナ情勢や円安により、原材料価格の高騰が長期化するのを懸念している。
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の状況から、やや悪くなると見込んでいる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・ロシアのウクライナ軍事侵攻が続き食料や燃料の輸入が滞っているが、この状況が今後数か月は続くと考え。アスファルトプラントの材料や燃料、重機や車両のガソリン代、軽油代の値上がりは建設資材の価格調査に反映されるまでにタイムラグがあり、収益の減少を見込んでいる。
		建設業（役員）	・建築資材価格の高騰により、単価が上昇基調にあるなかで原価も厳しい状態になり、先行きの利益確保が難しくなるとみている。
		金融業（融資担当）	・多くの取引先で売上の回復が進まず、経費の高止まりも続くという見通しを立てている。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		人材派遣会社（社員）	・求人と求職がうまくマッチングして新規契約が増加し、景気が良くなると考える。
		職業安定所（職員）	・間もなく夏休み期間に入るが、旅行やレジャー、飲食業関連で、前年からの回復が見込まれる。
		職業安定所（職員）	・求人数は前年同月と比べて増加が続いており、特に製造業や宿泊業の求人数が増加している。
		民間職業紹介機関（経営者）	・新型コロナウイルス感染症対策で中止や延期となった催しや行事、旅行などが復活しつつある。今後の経済効果を大いに期待している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人の動きに大きな変化がない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ウクライナ侵攻の影響があり、活気を取り戻してきた業界とそうではない業界がはっきり分かれているように見える。観光産業などでは、旅行関係の広告掲載も戻り回復基調であると感じる反面、自動車ディーラーなどでは製造部品の供給が不安定な影響で、売上の回復に4～5年は掛かるとい話も聞いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人の状況が変化する気配や、そのための要素が見受けられない。
		人材派遣会社（役員）	・原材料が入ってこないため生産ができない派遣先企業や、原材料価格の高騰を人件費の削減によって補おうとする派遣先企業が増えてくるのではないかと懸念している。
		職業安定所（職員）	・これから夏に向かい人の動きは多くなるが、2～3か月後の景気は少し後退すると考える。
	x	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		百貨店（企画担当）	・インバウンド客の増加に期待している。
		百貨店（外商担当）	・パーティーなどのイベントの復活で、高級婦人服やバッグなどを買って控えていた客による、購買意欲の高まりを感じる。
		百貨店（マネージャー）	・人流が活発となるなか、国内消費は旅行やビジネス、遊び、趣味関連の購買が活発になる。全体的には生鮮食品以外は好調を維持すると予想されるほか、インバウンド需要もまだ緩やかであるものの、今後は復活が期待できる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続くかもしれないが、医学によって抑えられているため、徐々に安定してくる。また、人の流れも出てくるため、経済も活発になってくる。
		コンビニ（店員）	・人の流れや様子を見てみると、通常の生活に戻りつつあると感じるため、これからは更に活気が出てくる。観光客も多く、近隣の施設やホテルへの道順を聞かれることも増えている。
		家電量販店（店員）	・エアコンの動きが良くなるため、売上は好調になる。ただし、2～3か月後はこの動きが止まり、例年並みに戻る。
		都市型ホテル（管理担当）	・外国人観光客の入国が再開されたため、今後のインバウンド需要に期待できそうである。
		タクシー運転手	・まだまだコロナ禍の厳しい時期と比べれば、上向き傾向にある。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・海外からの入国者数が増加している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔菓子〕 (営業担当)	・前年と比べると販売の動きは活発であり、このままの勢いでお中元商戦を乗り切りたい。
		百貨店(サービス担当)	・来月からは、北海道の物産催事やサマーセール開催で来客数の増加が期待できるため、前年の実績は確保できそうである。また、海外からの観光客の規制緩和によるインバウンド効果の復活に期待している。
		百貨店(販促担当)	・非常に見通しが不透明な世界情勢のなか、コロナ禍は落ち着く一方、物価の上昇は進む見込みである。夏から秋にかけて、外出に関する需要は期待できるが、食品を中心とした日用品の需要は減少が懸念される。販売量の増加が期待しにくいなか、良い商品を一定以上の価格帯で販売することが重要となる。
		百貨店(外商担当)	・インバウンドの入国緩和により、今後の売上増加が見込まれる。さらに、外商客を中心とした、富裕層の高額品の購入も続く。
		百貨店(販売推進担当)	・夏休みに消費喚起のキャンペーンが実施されれば、物価上昇で抑制気味であった消費も活発化する。ただし、商品供給面での不安もあり、V字回復まではなかなか望めない。
		百貨店(特選品担当)	・円安が進むなかで、今後はインバウンドの免税売上が予想以上に増えそうである。富裕層の消費も、価格の上昇による影響がさほど感じられないため、好調が続くと予想される。
		百貨店(マネージャー)	・国内外からの観光客の増加が期待できる。また、ウクライナ危機やコロナ禍のほか、上海のロックダウンによる影響が和らぎ、生産や物流の機能が回復に向かう。
		スーパー(店長)	・新型コロナウイルスの感染再拡大や、物価の上昇といったマイナス材料はあるが、政府の景気対策や過去2年間の我慢の反動で、人の動きは更に活発になってくる。
		コンビニ(経営者)	・各地でイベントが活発になってきたため、期待できそうである。
		コンビニ(経営者)	・大企業では今後も在宅勤務が一部定着するようであるが、中小企業では社員の出社が再開すると予想される。また、旅行や出張が増えてくれば、近隣のホテルの客室稼働率も上昇するため、来客数の増加が期待できる。
		コンビニ(店員)	・観光客が少し増えてきたように感じるため、夏期休暇などの売上増加が期待できる。
		衣料品専門店(店長)	・コロナ禍の影響が少し落ち着き、人出も回復しており、3か月後もこの動きは続きそうである。ウクライナ危機などによる物価の上昇もあり、来客数は増加していないが、全体的には少し上向くと期待している。
		衣料品専門店(販売担当)	・円安などの影響で物価が上がり、購入意欲がますます低下したと感じる。ただし、外国人観光客が旅行に来てくれれば、少しは上向いてくる。
		家電量販店(店員)	・家電の販売は夏が繁忙期であるほか、今年は梅雨明けも早いため、エアコンの需要が増える。半導体不足のニュースもあり、例年よりも早めの買換えを検討する客が増えるなど、先行きには期待できる。
		家電量販店(人事担当)	・梅雨明けが早まって猛暑が続くと予想されており、これまで販売が振るわなかったエアコンの販売が増えそうである。ただし、半導体不足の影響で、十分な商品在庫が確保できるかどうか不安である。
		乗用車販売店(経営者)	・ウクライナ危機や中国のロックダウンによる影響は大きいですが、国内消費は戻ってきていると感じる。インバウンド需要も入国基準の緩和で活気が出てきた。参議院選挙の結果がどうなるかは不透明であるが、景気はコロナ禍の収束を見据えて回復が進むと予想される。
		乗用車販売店(販売担当)	・7月以降は新車の入荷が見込まれる。入荷台数がある程度伸びれば、販売台数、利益共に増加が期待される。
		その他専門店〔ドラッグストア〕(店員)	・日常生活に戻りつつある傾向がみられる。これまでお金を余り使えなかった反動で、購買意欲も高まっている。マスク生活を脱するための準備として、化粧品の売行きも期待できそうである。
		高級レストラン(企画)	・Go To Travelに代わる県民割を全国に拡大した全国旅行支援の開始や、企業による宴会の回復が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（企画）	・コロナ禍やウクライナ危機、インフレといったマイナス材料はあるが、行動規制の緩和によって外食需要は増加傾向が続く。ただし、円安によるエネルギー価格や原材料価格の高騰は懸念材料である。
		一般レストラン（店員）	・夏休みや帰省など、外食する機会が増える。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・海外からの観光客がそろそろ入国してくるため、良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・Go To Travelのようなインパクトはないが、全国旅行支援が開始されるため、客の動きは更に活発になると期待している。
		観光型旅館（経営者）	・良くなることは予想されるが、見込みが立たない。
		都市型ホテル（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況は収束には至らないものの、横ばいが続いている。購買意欲も下向きではないため、先行きはやや良くなると予想している。ただし、物価上昇の影響も否めないことから、やや楽観的な見通しと言わざるを得ない。
		都市型ホテル（客室担当）	・府民割の延長などで、観光需要が回復傾向にある。リモートワークが定着しているが、平日のビジネス出張の利用も復活している。3年ぶりの祭りの開催も好材料である。
		旅行代理店（店長）	・全国旅行支援が始まれば、一時的には予約が増える。ただし、海外への渡航規制がもっと緩和され、海外旅行の需要が戻らなければ、大幅な回復にはつながらない。
		旅行代理店（役員）	・全国旅行支援の実施が予想され、更なる需要の拡大が期待できる。
		タクシー運転手	・時期的な要素もあるが、暑くなってきた影響で客の動きが増え、これから徐々に伸びてくると感じる。全国旅行支援も開始予定で、いろいろな所に行きたい人が増えてくる。今まで我慢してきた分、人の動きが増えることを期待している。
		観光名所（経理担当）	・今もコロナ禍の影響が少し残っているが、徐々に小さくなっている。
		観光名所（企画担当）	・まだまだ通常の状態には程遠いが、このまま夏休み期間も増加が続くことを期待している。
		遊園地（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた状態で夏休みを迎えることができそうで、安どしている。ただし、マスク着用などの感染対策による心理的な影響は大きく、安全意識が高いファミリー層は、他の客よりも回復が鈍いように感じる。バランスが難しいところではあるが、感染予防策の緩和が、人の動きを更に活発化させる重要な要素になる。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・物価の上昇が懸念されるが、しばらくはコロナ禍による外出自粛からの解放で、経済活動が活発化すると予想される。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・このまま新型コロナウイルスの感染対策の緩和が続けば、リベンジ消費が出てくると期待している。
		美容室（店員）	・コロナ禍で減っていた結婚式の予約が増え始め、披露宴の列席者への制限もなくなりつつある。
		住宅販売会社（経営者）	・コロナ禍からの回復の動きが、そろそろ顕著になってくる。
		商店街（代表者）	・良くなったり悪くなったりという動きが続くと予想される。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・光熱費などの値上げがあり、経費の面でも負担が大きくなっていく。まだまだ販売量も伸び悩み、回復するまでには時間が掛かる。今年の猛暑が販売商品にどう影響するかも分からず、先行きが不安である。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・コロナ禍による外出の自粛が少し緩和されたかと思えば、次は熱中症予防のために外出の自粛が求められるという、厳しいニュースが増えていく。現実的にも異例な梅雨明けの早さで、人出は更に厳しくなる。今夏に関しては、路面店は大きなハンデを背負うことになる。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・飲食や観光など、コロナ禍で最も影響を受けた部分は、以前のような動きに戻ると予想される。ただし、ビジネス関連での支出や、ガソリンや材料価格の値上げで影響を受ける部分は、厳しい状況が続く。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・受注予約の状況は、今のところほとんどない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔野菜〕 (店長)	・物価が上がってきている。このまま物価の上昇が続けば、個人消費は冷え込む。
		一般小売店〔呉服〕 (店員)	・コロナ禍で買物を控えている客が多かったが、必要な物は徐々に購入するようになってきた。ただし、呉服はそのなかに含まれていないと感じる。
		百貨店(売場主任)	・コロナ禍による売上の減少は緩和が進むが、物価の上昇や円安等による客の購買意欲の減退が懸念される。一部の高額所得者を除き、支出を抑える傾向は強まると予想され、景気が回復するとは考えにくい。
		百貨店(売場マネージャー)	・人流は増加傾向にある一方、原油価格や原料価格の上昇は今後も続きそうである。さらに、百貨店では売上に占める比率の高い60代以上の客が減少しており、消費動向は更に厳しくなると予想される。
		百貨店(宣伝担当)	・入国制限の緩和で、インバウンド需要に多少期待しているが、秋冬商戦の中心素材となる革やカシミア、ウールの価格上昇の悪影響が懸念される。新型コロナウイルス発生前の水準への回復は、まだ先となりそうである。
		百貨店(営業推進担当)	・原材料価格の高騰に加えて、水不足の影響から、悪化傾向は今後も続く。
		スーパー(経営者)	・当店が扱う生活必需品の価格上昇は、これから先も続く。これに所得の上昇が追い付きそうになく、客の節約志向はますます強まると予想される。それと同時に、輸送費や燃料費、光熱費の上昇が利益を圧迫する。
		スーパー(店長)	・物価が上がるという意識が強く、値上げ前の一時的な買物の増加とその後の減少など、予測が難しい状況が続く。また、今年は梅雨が短かったことで、農作物などへの影響も懸念される。
		スーパー(店長)	・外出関連の需要の増加は実感しているが、生活必需品の値上げがあり、景気にどの程度の影響が出るのかが問題になってくる。日々の買物で節約志向が強くなれば、短期的に景気が上向くことはない。
		スーパー(社員)	・客の節約志向が強まっている影響で、これまで店頭で多かったまとめ買いが減っている。必要な物だけを買う少量買いが増えており、この傾向は値上げの動きが一段落するまで続きそうである。
		コンビニ(店長)	・夏場に向けて、人の動きは活発になっていくが、物価の上昇で財布のひもが固くなると予想される。
		コンビニ(店員)	・店の近くにある高速道路の入口が工事で閉鎖され、車の流れが変わったため、来客数が減っている。工事は3年間続くため、先行きが不安である。
		コンビニ(店員)	・商品の値上げが続き、買い控えや客離れなどの影響が出ないか心配である。
		衣料品専門店(経営者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の下げ止まりが顕著である。治療薬の開発も遅れている。強毒性の新型コロナウイルス変異株が発生した場合は、景気は一気に冷え込むと予想される。一方、世界保健機関がサル痘への警戒も強めており、参議院選挙以降の秋物商戦が消えてしまう可能性も出てきている。
		家電量販店(経営者)	・まだ納期や物流面の改善が進む要素はないと聞いており、年内は厳しい状況が続く。
		家電量販店(営業担当)	・コロナ禍が続くなかでも、経済は動き出したが、上向くまでは期待できない。
		家電量販店(企画担当)	・リフォーム関連商品は、こどもみらい住宅支援の影響で水まわり商品を中心に好調となっている。また、電気自動車にためた電気を住宅で使う、V2Hへの問合せが補助金の影響で急増している。ただし、半導体不足や中国のロックダウンによる影響が懸念されるため、先行きは不透明である。
		乗用車販売店(営業担当)	・ロシアのウクライナ侵攻による半導体不足や原材料価格の上昇で、生産が遅れ、売上の増加につながらない。
		その他専門店〔宝石〕 (経営者)	・物価の上昇がこのまま続けば、家庭には大きな負担になるため、どこまで続くのかが心配である。ウクライナ危機の行方も気掛かりであり、その影響も含めて、家庭にはダブルパンチとなっている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経理担当)	・これからの夏商戦は、全国旅行支援もあり、景気は上向きになりそうである。ただし、今後の物価上昇による家計への影響は不透明な部分も多く、景気は横ばいとなる可能性もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・食料品を始めとする物価の上昇が続き、景気の回復に大きな重しとなる。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・中国からの商品が入ってこない販売ができない。例年の状態に戻るまでには時間が掛かる。
		高級レストラン（スタッフ）	・今の時点で、ある程度は以前の水準に戻りつつあるため、今後も改善傾向が続く。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・販売の増加傾向が再び進んでいるが、以前のような増減の変化というよりも、消費者の考え方が変わったように感じる。また、食品価格や電気代の値上げといった購買意欲の低下要素が、いろいろな方向から出てきている。
		観光型ホテル（客室担当）	・宴会の動きが戻っておらず、大きな宴会場を持っているホテルはまだ厳しい。
		都市型ホテル（管理担当）	・インバウンド向けの規制緩和が限定的であるため、国内旅行の需要への対応が中心となるが、予約は間際化が進んでおり、単価も低下気味である。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・客室稼働率や料飲売上は今年の3月からほとんど変わらない。府民割の効果は期待ほどではなく、7月14日まで延長されたものの、予約は入り込んでいない。今後は夏休みもあり、ふだんは稼働率が上がる時期だけに、施策の効果が出ることを期待したい。
		旅行代理店（支店長）	・新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症のほか、地政学リスクを客が敏感に受け止める傾向がみられる。需要は良くなったり、悪くなったりを繰り返しつつ、底上げが進むように感じる。
		タクシー運転手	・コロナ禍に対する慣れがやや定着したと感じる。ただし、人の流れは増えているものの、営業収入の大幅な増加にはつながっていない。
		タクシー運転手	・桜の季節は終わったが、修学旅行生が全国から来るため、忙しくなる。
		通信会社（社員）	・割引制度が変わらない限り、状況は難しい。端末のみの販売で、利益提供額が規制の上限を超えるケースもあるが、その分は代理店の持ち出しとなる。販売台数は増えても利益は上がらない一方、割引をしなければ他の代理店に負ける。なかなか対策が難しい。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・参議院選挙の結果やウクライナ危機、資源相場の上昇など、問題が山積している。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・まだ多くの新型コロナウイルスの新規感染者数が発生しているが、プロ野球の試合には多くの客が来場し、コンサートの開催日数も増えつつあるなど、以前のにぎわいが戻ってきている。なお、3か月後の状況は不透明なため、現状と変わらないと考えている。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・アロマオイルマッサージで服を脱ぐため、冬よりも夏の方が来客数は多いが、今年は暑過ぎるため、来客数が減少する可能性もある。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・通常は3か月待ちであった部品の入荷が、半年待ち以上となり、機会損失はかなりの額に上ると考えられる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・物価の上昇を口にする消費者が多く、買い控えの傾向が感じられる。今の世界や社会の情勢を考えると、景気が上がる要素は見当たらない。むしろ、更に景気が悪化することへの不安がある。
		百貨店（売場主任）	・基本的には、新型コロナウイルス発生前の2019年に近い動きが予想されるが、燃料費や食材価格などの値上げによる買い控えが懸念される。
		百貨店（売場マネージャー）	・世界情勢の変化による物価の上昇が、家計に与える影響は大きい。
		百貨店（マネージャー）	・夏休み期間中の国内観光客やインバウンドの来店は期待できるが、酷暑の影響で全体的な客足は鈍くなる。また、値上げが続くことで、中間層は財布のひもが固くなることが予想される。
		スーパー（店長）	・原材料価格の高騰による商品価格の上昇と、それに伴う買い控えや節約の増加が予想される。
		スーパー（店員）	・まだまだ値上がりが続けば、かなり厳しい。野菜は天候の影響ですぐに値上がりするため、暑い日が続くと影響が心配される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・乗客数の減少に加え、それ以上の売上の減少傾向が続くと予想される。
		スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスではなく、物価の上昇がワイドショーでトップニュースになるなど、消費者の物価に対する感度が高まっている。高品質な商品への需要が定着する一方、低価格品を中心とした価格競争の激化が懸念される。価格据置き一辺倒ではなく、消費者の理解を得られる方法で価格転嫁を進めなければ、適正利益の確保が厳しくなる。
		スーパー（販売促進担当）	・コロナ禍の影響が薄れつつあり、内食から外食への戻りもみられる。ウクライナ危機も終息が見通せないなか、しばらくは今の傾向が続くと予想される。
		スーパー（開発担当）	・ウクライナ危機による原油高や、中国のロックダウンもあり、景気が良くなることはない。新車の納車や電子部品の入荷も遅れており、購入意欲があっても購入ができない。これでは経済が回らない。
		コンビニ（経営者）	・生活に直結する部分では、物価の変化は余り大きくならない可能性はある。ただし、所得が上がらないため、コロナ禍で抑えられていた消費の反動があったとしても、景気が良くなる見込みは薄い。
		家電量販店（店員）	・まずはメーカーからの適正な供給が求められる。需要と供給のバランスが安定しない状況では、ふだんでは考えられないような価格競争が発生する。特に、給湯器といった代替の効かない商品については、早く供給が回復してほしい。
		乗用車販売店（経営者）	・物価の上昇によるマイナス面が出てくると予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・油脂類を中心に、仕入価格が徐々に上がっている。今は価格に転嫁していないが、苦しくなるのは目に見えている。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体不足で新車の納期が遅れ、受注はできても登録ができない状況が続いている。
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・客の購入の仕方が変わったことで、従来の方法では商店街に未来はない。
		一般レストラン（経営者）	・物価の上昇が止まるめどが立たないため、消費者の給与が上がらなければ、消費は上向かない。外食は生活の一部ではあるものの、後回しにされる部分もあるため、まだまだ厳しい経営が続きそうである。
		旅行代理店（従業員）	・何もしない政府を、マスコミが批判しない理由が分からない。
		通信会社（経営者）	・円安の進行による原料価格への影響が懸念される。
		通信会社（社員）	・ケーブルテレビの多チャンネルサービスの商品力が落ちてきている。また、インターネットサービスも他社との競争が激化し、非常に厳しい状況にある。社会全体でインターネットサービスの加入率がかなり上がっており、未加入の客は存在しないに等しい。
		テーマパーク（職員）	・参議院選挙後には増税の話が出てくると予想されるなど、景気の回復を目指すつもりがない政権という見方が先に立つ。劇的に動いている世界情勢に対応するでもなく、何の期待もできそうにない。
		ゴルフ場（支配人）	・屋外のスポーツ施設のため、猛暑による影響は大きい。既に来客数は減少気味で、今後もやや悪くなりそうである。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・コロナ禍は少し落ち着いたが、今度は相次ぐ生活品の値上げが、家計に打撃を与え始めている。
		住宅販売会社（経営者）	・原価が高騰している一方、販売価格には転嫁できない。
		住宅販売会社（従業員）	・この半年で工事費が10%程度増えており、販売価格を上げざるを得ないマンションが増える。既に住宅価格は上昇しており、これ以上の上昇は契約率の低下につながると予想される。
		住宅販売会社（総務担当）	・資材価格の上昇に伴う、販売価格への転嫁を考えると、受注の悪化が心配される。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・ウクライナ危機により、今まで以上に物価の上昇が進む。実質賃金が下がることで、景気は悪くなる。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・ウクライナ危機などによる建築資材価格の上昇は顕著で、ハウスメーカー各社は今後値上げを余儀なくされ、販売も減少傾向となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅[情報誌] (編集者)	・不動産価格の高騰が続く見込みであり、市場が悪化する懸念が高まっている。
	×	一般小売店[雑貨] (経営者)	・価格の上昇がひどく、悪影響が懸念される。
	×	スーパー(店長)	・原油価格の高騰に伴い、電気や燃料、食品、日用品に至るまで値上がりしており、消費は下向きとなっている。インバウンド需要もまだ限定的である。
	×	スーパー(店員)	・毎月売上が落ちているほか、値上げ商品が一気に増えたことで、買い控えを行っている客が多い。猛烈な暑さが続いていることで、来店を控える客が増えることも考えられる。
	×	衣料品専門店(経営者)	・買物へ出掛ける楽しさや、お金を使う楽しさを、消費者がもう一度思い出すような起爆剤が必要になってくる。
	×	住関連専門店(店長)	・全ての仕入原価の高騰や、多くの経費の上昇に歯止めが掛からない。
	×	住関連専門店(店員)	・良くなる理由が見当たらない。
	×	その他専門店[宝飾品] (販売担当)	・ウクライナ危機や円安の影響によるコストアップが激しく、値上げの幅も大きくせざるを得ない。円安になる前に注文した商品も、納品時には当初の販売予定価格が跳ね上がっており、売れるかどうか分らない。
	×	一般レストラン(経営者)	・秋には更なる物価の上昇で来客が減少し、ますます悪くなる。
	×	競輪場(職員)	・様々な商品の価格が値上がりし、今後も値上げが予定されている。物価の上昇に賃金や年金がついていけないほか、かなり下火になりつつあるが、コロナ禍の動きも油断できず、先が見通せない。
企業 動向 関連 (近畿)		その他非製造業[衣服卸] (経営者)	・緊急事態宣言が出ていた前年7～8月を考えると、今年は正常に近い状態で動くため、前年と比べると大きく販売が伸びると予想される。
		繊維工業(団体職員)	・コロナ禍の状況次第であるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増えなければ、景気は回復していくと予想される。
		化学工業(経営者)	・問合せも増えており、徐々に良くなると予想される。
		金属製品製造業(開発担当)	・繁忙期に差し掛かってくる。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・大型案件が受注できたため、今後は景気が上向くことを期待している。
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・引き合い件数が増えており、納期は先であるが、受注も増えている。
		建設業(経営者)	・今後も引き合いの増加が予想されるが、材料価格の上昇もあり、増加ペースは緩やかなものとなる。
		輸送業(経営者)	・資材の入荷遅れで工事が延期になっているが、入荷が12か月遅れの予定であったのが、9か月遅れに改善してきた。特に、今月からは輸入資材が少し入り始めるなど、これ以上の悪化はないことから、3か月先には多少の改善が予想される。
		広告代理店(営業担当)	・今年になって、Web媒体、紙媒体共に、広告売上が前年を上回る状態が続いている。
		木材木製品製造業(経営者)	・昨今の円安の進行や海上運賃の急上昇は、収益の悪化に直結するため、非常に厳しい状況にある。利益が圧迫され、当初の目標には届いていない。為替も海上運賃もこちらの努力では対応できず、様子を見ることしかできない。この先も、当分は不安定な状況が続くと予想される。
		パルプ・紙・紙加工品 製造業(経営者)	・今後良くなる情報がない。
		化学工業(管理担当)	・自動車部品向けの出荷量の減少が続くと予想される。また、化学品の原材料の大幅な値上げが続いており、製品価格への転嫁が追い付かないため、利益が大幅に減少する。
		電気機械器具製造業 (宣伝担当)	・例年になく早期の梅雨明けで、来月はエアコンを中心に販売の増加が見込まれるが、2～3か月先は例年と大差ない動きとなりそうである。ただし、政府の節電ポイントが8月から導入されれば、これに伴う需要の増加が少なからず期待できる。
		建設業(経営者)	・ウクライナ危機やロシアへの経済制裁、中国のロックダウンによる影響のほか、円安などによる建設資材の高騰、納期の遅延などが今後も続き、先行きは不透明である。
		輸送業(営業担当)	・商品が通常どおり入荷しなければ、売上は上がらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業〔投資運用業〕 (代表)	・コロナ禍が完全に収束し、円安が一段落し、ウクライナ危機が終息するという3つの条件がそろわない限り、景気の回復はない。
		広告代理店(営業担当)	・しばらくは大きな変化がなさそうである。
		司法書士	・各種の制限が解除されて、人の心も明るさを取り戻しつつあると感じるが、様々な値上げにより、消費の大幅な増加は難しい。
		経営コンサルタント	・商店街の取引先と話していると、具体的な売上回復策が出てきたように感じる。その効果に期待したいが、原材料の値上げや新電力の契約解除など、売上悪化につながる話も多い。
		その他サービス〔自動車修理〕(経営者)	・これまでと同様に、余り変わる要素はない。
		その他非製造業〔会社〕(営業担当)	・製品の納期が半年と長いため、ここ2~3か月では変わらない。
		繊維工業(総務担当)	・コストの上昇分を販売価格に転嫁できる状況ではなく、商品不足が価格の上昇につながることを期待している。今のところ、売上の前年比は一定の水準で推移している。
		出版・印刷・同関連産業(企画営業担当)	・コロナ禍が収束したわけではなく、感染者の自宅待機などの対応策も変わっていない。今後、新規感染者数が増えれば、また以前のような自粛の動きに戻る事が予想される。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・現状を維持しながら代替案件を立ち上げるまでには、少し時間が掛かる。
		窯業・土石製品製造業(管理担当)	・円安基調はしばらく続くと予想される。また、ウクライナ危機も長引くことから、秋頃には一層の物価上昇も否定できない。明るい話題に乏しいため、身の回りの景気はやや悪くなる。
		一般機械器具製造業(設計担当)	・物価の上昇に、収入の増加が追いつかない。
		電気機械器具製造業(経営者)	・売上の30%以上は海外企業向けが占めているが、Web経由の通信だけでは意思疎通が十分に図れず、効率が悪い。しばらくは業績が悪化せざるを得ない。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・売る物がないため、どうしようもない。
		建設業(経営者)	・物価の上昇や円安のニュースがあふれ、投資を先送りする客が増えると予想される。
		輸送業(営業担当)	・インターネットオークション関連の荷物がかかなり増えている。新たに物が生産されているわけではなく、運賃も安い。
		金融業(営業担当)	・ウクライナ危機や円安傾向の終息で、生活の改善につながるかどうかは不透明である。何かにつけて、輸入に頼る我が国にとって、資源相場や為替の動向は切実な問題である。
		その他サービス業〔店舗開発〕(従業員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数は下げ止まったとはいえ、依然として1日に1000人超と決して収まっておらず、人流の増加による感染拡大が懸念される。さらに、猛暑による熱中症への警戒から、日中の出控えなどの影響も出ると予想される。
	×	食料品製造業(従業員)	・今後は製品の値上げ交渉に臨む予定であり、受注は冷え込んでくると予想される。一方、原料価格や資材価格については、今までなかったような高値での交渉となっている。
	×	繊維工業(総務担当)	・原材料や輸入商品、エネルギー価格などの高騰が今後も続く予想される。
	×	化学工業(企画担当)	・原材料価格の高騰に終わりがみられない。
	×	金属製品製造業(経営者)	・自動車関連業界の工場稼働率が急激に低下している。荷動きが悪く、回復までには時間が掛かる。
	×	金属製品製造業(営業担当)	・原材料の鉄鋼を始めとして、あらゆる仕入品の価格が値上がりするなか、大手取引先ではいまだに価格転嫁を認めようとしないケースが大多数である。このままでは中小企業は倒産してしまい、ものづくりは崩壊する。購買担当者は価格転嫁を理解してくれるが、経営トップの決断が遅れている。
	×	その他製造業〔履物〕(団体職員)	・資源価格の上昇や、円安の影響でコストが増えている。靴は最終消費財であり、個人の可処分所得や消費マインドに大きく左右されるため、現在よりも状況が良くなる可能性は低い。
	×	通信業(管理担当)	・円安による影響で更に悪化が進む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	不動産業（営業担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、人が街に戻ってきているが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきたことが気掛かりである。また、円安の影響で消費者物価もかなり上がっている。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・コロナ禍やウクライナ危機により、身動きがとれない。特に、今後のインフレや金融政策の見通しが不透明である。
雇用 関連 (近畿)		人材派遣会社（営業担当）	・引き続き、若年層向けの求人は活発である。派遣で契約する年齢層も幅広くなっており、働く人が増えている。
		人材派遣会社（役員）	・参議院選挙後のコロナ禍対応の正常化といった、政策の実施に期待している。
		人材派遣会社（支店長）	・下期に向けて、求人数が増えると予想される。
		人材派遣会社（営業担当）	・観光業が活気を取り戻しつつある。円安により国内客の海外旅行は抑制されるが、インバウンドの観光需要は増えるため、景気全体への好影響を期待したい。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況は心配されるが、ウイルス慣れしてきた部分もあるため、景気はこれ以上悪くならない。
		人材派遣会社（経営者）	・今月に入って、企業からのオーダーはかなり増えており、マッチングにつながるケースも多い。景気は良い方向に向かっているが、関西の企業はかなり慎重で3か月単位のオーダーが多い。コロナ禍やウクライナ危機にいつでも対応できるように、6か月や1年といった長期の依頼はほとんどない。
		人材派遣会社（営業担当）	・米国で急増する大規模離職の影響が、どの程度出てくるかが気になる。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・ウクライナ危機や円安によるインフレ懸念、中国の新型コロナウイルス新規感染者数のゼロ政策など、国内外に不安材料が山積している。どの問題も互いに関連しており、景気がどちらに向かうのかを判断するのは難しい。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・コロナ禍の収束傾向といった良いニュースもあり、このままの推移が続けば、新聞広告は直近3か月並みの売上が予想される。
		職業安定所（職員）	・コロナ禍の拡大が一旦落ち着き、社会経済活動の回復に向けた期待が大きいこともあり、求職者数の増加につながっている。ただし、求人数は持ち直しの傾向にあるが、コロナ禍による雇用への影響は引き続き注視する必要がある。
		職業安定所（職員）	・高校の卒業予定者に対する新規の求人受付が6月1日から始まったが、1～13日の状況では、京都府全体で前年よりも1割程度増えている。ただし、40%近く増えているハローワークもあれば、小規模なハローワークではマイナスとなるケースもある。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・2023年卒の新卒採用の追加募集では、夏と秋の採用が想定されるが、大幅に増えるとは考えにくい。その一方、3か月後の秋以降は、2024年卒向けのインターンシップや説明会の動きが活性化すると予想される。これらの動きは、今夏のインターンシップの参加状況などで変動するため、まだ予測が難しい。
		学校〔大学〕（就職担当）	・コロナ禍が収束することを願うばかりである。
		その他雇用の動向を把握できる者	・依然として企業の人手不足感は強く、採用意欲も落ち込んでいない。ただし、コロナ禍の影響が薄まりつつある一方、原材料価格や物価の上昇による悪影響のほか、部品不足や円安等などの懸念材料を不安視する声が多いことから、当面は急激な回復が考えにくい。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻や円安などの不安要素が多い状況で、今の政府が有効な対策を打っているとは思えない。
	職業安定所（職員）	・ウクライナ危機の長期化による材料価格の高止まりと、コロナ禍による半導体不足で値上げが進み、状況は悪くなる。	
	民間職業紹介機関（職員）	・原材料費や輸送費などのコストアップに歯止めが掛からない状況では、人件費をなるべく増やしたくないという企業の意識が強くなるため、求人数は増えないと予想される。	
	民間職業紹介機関（営業担当）	・一旦、コロナ禍による特需案件は落ち着きそうである。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・物価の上昇が景気に悪影響を及ぼす。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職担当）	・物価は上昇しているが、給料が据置きが減少となるスタグフレーションの下では、景気は良くなりにくい。
	×	民間職業紹介機関（支社長）	・世界情勢や日本の金融政策などからは、上向く要素が見いだせない。

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (中国)		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響が徐々に少なくなり、客は物価上昇前に買物をする。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・全国旅行支援により、夏休み期間は更に多くの客の利用が期待できる。
		観光型ホテル（副支配人）	・全国旅行支援が開始されると、宿泊予約はまだ増加してくる。また、夏から秋にかけての宴会利用の問合せも増加していることから、今後、景気は良くなる。
		通信会社（工事担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため、今後、景気は良くなる。
		テーマパーク（業務担当）	・個々が感染症対策を講じながら、新型コロナウイルス発生前の生活に戻っていくため、景気は良くなる。
		観光名所（館長）	・夏休みに入れば人の動きが出てくる。
		商店街（代表者）	・新規出店が予定されており、今後のにぎわい創出に寄与する。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響が弱まっているため、景気はやや良くなる。
		百貨店（営業担当）	・会合など人の集まる機会が増加し、夏休みが始まれば、外出機会も増加するため、客の衣料品や服飾雑貨などの購買意欲が高まる。
		百貨店（営業担当）	・全国旅行支援などが実施され、観光などで客が外出する機会が増えれば、衣料品などの需要も増加してくる。これからのセール時期とも重なり、客の購買意欲も高まる。
		百貨店（外商担当）	・食料品の値上げなどはあるが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、客が少しずつ日常を取り戻すため、消費は徐々に増加する。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・移動制限が緩和されたり、企業がテレワークから脱却したりする動きに加え、インバウンドも回復すれば来客数の増加が期待できる。また、猛暑による関連商品の販売拡大も大いに期待できる。
		コンビニ（支店長）	・値上げの影響が発生することが懸念される。
		衣料品専門店（経営者）	・着物を作って出掛けたいと思う客が少しずつ増加しているため、景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（店長）	・今までは新型コロナウイルスで先行きが不透明な状況であったが、客の車を購入することに対する不安がなくなりつつあるため、景気はやや良くなる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、景気回復が期待できる。
		一般レストラン（店長）	・6月からインバウンドが徐々に解禁となり、予約の問合せも入ってきている。この状態が続けば景気は良くなっていく。
		バー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため、今後、景気はやや良くなる。
		観光型ホテル（営業担当）	・県民割からブロック割へ、そして全国旅行支援に範囲を拡大すれば景気は回復する。
		都市型ホテル（企画担当）	・全国旅行支援が開始すると、人の動きが更に活発化する。
	都市型ホテル（総支配人）	・7月中旬以降のGo To Travelキャンペーンに代わる県民割を全国に拡大した全国旅行支援に期待する。	
	旅行代理店（経営者）	・今後、全国旅行支援が実施されれば客の動きが活発になる。	
	旅行代理店（支店長）	・全国旅行支援が確定し、実施されることで、旅行需要は確実に回復していく。	
	タクシー運転手	・昼夜関係なく人の動きが良くなっているため、今後、景気はやや良くなる。	
	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、夜もにぎわいを取り戻すため売上が増加する。	
	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響が緩和すれば、景気はやや良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きつつあり、全国旅行支援の効果が見込まれるため、景気はやや良くなる。
		ゴルフ場（営業担当）	・今後、全国旅行支援やインバウンド需要が期待できるため、景気はやや良くなる。
		競艇場（企画営業担当）	・8月に開催するお盆レース等で売上が見込まれるため、景気はやや良くなる。
		美容室（経営者）	・閑散としていた商店街の人も増加しているため、今後、景気はやや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの感染急拡大の懸念はあるが、ノーマスクへ向けたゴールが近づいている。
		商店街（理事）	・ウクライナ問題の影響による値上げラッシュへの対応に客が慣れてきているが、景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・国民感情が変わらない限り、この国の新型コロナウイルスへの対応は変わらず、景気も変化しない。
		商店街（代表者）	・売上が回復していない状況で、仕入先から値上げの話が出てきたため、今後、売上が減少する懸念がある。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・観光客は動き始めているが、まだまだ先行きは不安である。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・観光やレジャーへの客の関心は深まるが、消費にはつながらない。
		百貨店（経理担当）	・県内では月末にかけて新型コロナウイルスの感染が拡大するなど日常生活に不安な要素がある。また、商品の値上げも続いているため、今後も景気は回復しない。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が続き、物価も上昇傾向にあるため、景気は良くならない。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの感染状況は改善しつつあるが、日用品を含め、商品の値上げが続いており、今後の景気回復にはマイナスとなる。
		百貨店（売場担当）	・買物客が県外都市へ流出しており、今後もその動きがますます加速していく可能性が高い。
		スーパー（店長）	・前年にコロナ禍で業績を伸ばしたディスカウント業界は、その反動で現在は厳しい状況にある。今後も脱コロナの生活様式が定着してくるため、厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・商品価格の上昇により販売数量が伸びない状況が続く。
		スーパー（店長）	・夏休みやお盆など行楽関連の商材の販売は好転する。しかし、値上げがネックとなり、客の節約志向が更に高まることから買上点数が減少する。
		スーパー（営業システム担当）	・新型コロナウイルスに対する警戒がなくなり、外食需要が増加するため、値上げの続くスーパーでの買物は控えめになる。
		スーパー（販売担当）	・世界情勢等により商品欠品が多く、父の日商材も低調で動きが鈍かった。順次商品値上げの話があり、落ち着くまでもう少し時間が掛かる。
		スーパー（販売担当）	・ウクライナ侵攻の影響で、農産物の生産コストや生活用品の価格が上昇する。価格の上昇に加え、客の給与の減少で買い控えが進むと景気は回復しない。
		コンビニ（エリア担当）	・観光客など人の動きが良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・景気が良くなる要素がない。
		衣料品専門店（代表）	・客の購買意欲が高まらず、ウクライナ情勢や値上げラッシュにより、財布のひもは固いままとなる。
		家電量販店（企画担当）	・国の大胆な政策が実施されない限り、景気は良くなるらない。
		乗用車販売店（店長）	・海外工場での部品の製造停止が発生している。景気の好転材料が見当たらず、厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・納期が長く、販売台数も増加しないため、景気回復は期待できない。
		乗用車販売店（営業担当）	・今年度は新車の納期が定まらないため現状が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・慢性的な半導体不足や中国ロックダウンの影響による新車の納期遅れが深刻で、注文があっても売ることができず、厳しい経営状況が続く。納期が掛かることを理解し、早めに動く客が多くなっている。また、物価上昇の影響で、車に関係する費用を少しでも安くしたいと考える客が多い。
		乗用車販売店（統括）	・当面、生産は厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（業務担当）	・受注があっても商品が入ってこないのので売上が立たない状況が続く。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・ガソリンや食品の値上げの影響で、客が消費に対してすごく慎重になっているため、景気は良くならない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・ボーナスシーズンに入るが、電気料金や食費の高騰で客の節約志向が続く。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しないため、景気は回復しない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・円安やウクライナ情勢が安定していないこともあり、現時点では客が将来を見通せない。円安の影響で外国人観光客が増加する可能性があるが、先の話である。景気上昇の兆しが少しでもあれば、客の財布のひもも緩くなる。
		一般レストラン（経営者）	・生活品価格の上昇が続いているため、今後は客の節約志向が高まり、外食を控える。
		一般レストラン（経営者）	・全国旅行支援やプレミアム付商品券で夏休みの需要の喚起を目指しても、食品など生活必需品や電気、ガス、ガソリンの値上げで客は節約志向に向かう。6月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、夏休みやお盆の人の移動により、新型コロナウイルスの感染再拡大が懸念される。
		通信会社（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いており、しばらくは現状が続く。
		通信会社（営業担当）	・景気に変化する要因がないため、景気は変わらない。
		観光名所（管理担当）	・新型コロナウイルスの影響で減少していた来客数は元に戻りつつあるが、物価高による消費の先行きは不透明である。
		美容室（経営者）	・2～3か月では現在の生活スタイルからの変化はなく、物価も上昇しているため、景気は良くならない。
		設計事務所（経営者）	・物価高の影響が建築資材にも及ぶことが予想され、現時点では建築関係で良い話が見当たらないため、景気は良くならない。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が終息に向かってはいるようだが、今後、参議院選挙があり、また、ウクライナ情勢も長引きそうのため、景気の先行きは不透明である。
		商店街（代表者）	・商品を見るだけで、購入しない客が増加しており、ベビー服や子供服の売上は今後も厳しくなる。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・原材料の値上げによる諸物価の上昇で景気は回復しない。
		百貨店（広報担当）	・物価高が続き、客の消費意欲が減退する。
		スーパー（店長）	・物価の上昇で客の購買力が低下するため、景気はやや悪くなる。
		スーパー（店長）	・電気料金や商品価格の値上げで客の生活防衛意識は今以上に強くなり、消費は落ち込む。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響が弱まり、客が遠方まで買物に出掛けるようになったことや、商品の値上げで客が買い控えをすることなどから、景気はやや悪くなる。
		スーパー（総務担当）	・気温の上昇で野菜価格に影響が出てくる。
		スーパー（業務開発担当）	・値上げで客単価は上がっているものの、買上点数が減少し、来店頻度も落ちているため、今後、景気はやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・商品価格の値上げで、客が安い商品や必要な商品しか購入しなくなってきたこともあり、今月に入って客単価の低下が顕著となっている。このまま物価上昇が続けば、来客数や売上は厳しい状況になる。
		コンビニ（エリア担当）	・原材料や燃料等の価格上昇により、まだまだ値上げが続くため、客の買い控えが増加する。
		家電量販店（店長）	・円安や物価上昇の影響で製品の仕入価格が上昇するため、景気はやや悪くなる。
		家電量販店（店長）	・この半年間、景気は改善傾向にない。夏のエアコン需要がなくなれば家電販売はかなり低迷する。
		乗用車販売店（営業担当）	・サービス入庫の客が減少傾向にある状況で、3か月後は今よりも販売できる車が減少し、客の購買意欲も低下するため、景気はやや悪くなる。
		自動車備品販売店（経営者）	・物価高がより進むと、原価率がますます高くなり、利益が減少する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・ウクライナ情勢、円安、物価高、電気料金、参議院選挙の状況次第ではあるが、景気の先行きが不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況やウクライナ情勢が落ち着かないと、景気は元に戻らない。
		都市型ホテル（企画担当）	・新型コロナウイルスの影響が続いていることから、需要の長期的な予測は難しい。また、世界的なインフレ傾向の影響で客の消費マインドが低下しているため、全国旅行支援に期待したい。
		通信会社（企画担当）	・商材の部品であるICチップの調達が厳しくなっており、下期以降は見通しが立っておらず、大きな懸念事項となる。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・物価の上昇の影響が心配される。
		テーマパーク（管理担当）	・物価が高騰している状況で減税措置等を行わず、大企業に対する優遇措置を継続し続けているため、景気は良くならない。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は落ち着いてきたが、物価上昇が客の消費傾向を少しずつ変化させているため、景気はやや悪くなる。
		設計事務所（経営者）	・客の低価格志向が進めば、消費の動きが鈍化し、景気はなかなか回復しない。
		住宅販売会社（営業所長）	・経済状況を見ると、海外事業への依存度が高い企業は利上げによる影響が出始める。価格高騰の波と現実生活を営むバランスが崩れる恐れを感じる。
		住宅販売会社（営業担当）	・物価高などが更に進むことが懸念される。
	×	百貨店（販売計画担当）	・物価の上昇や個人所得の伸び悩みで客の動きは悪くなる。
	×	スーパー（財務担当）	・新型コロナウイルスの常態化で中食需要が低下し、物価上昇により客の節約が進むため、売上が減少する。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・今年2回目のメーカー値上げが9月にあるため、販売量や売上金額が前年より悪くなる。最低賃金の目標を1500円にしている政党もあるが、助成金も補助金もなく、人件費だけ高騰すると中小企業としては死活問題となる。
	×	住関連専門店（営業担当）	・家具の値上げが止まらない状況が続いているため、先行きが不透明である。
	×	通信会社（広報担当）	・物価上昇が落ち着かないと、客の購買意欲が改善しないため、景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (中国)		輸送業	・受注が増加しているため、今後、景気は良くなる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・部品等の値上げや供給等に懸念はあるものの、受注量が増加しているため、景気はやや良くなる。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・主要客からの受注内示量は増加する予定である。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注が増加傾向にあるため、今後、景気はやや良くなる。
		輸送業（総務・人事担当）	・アフターコロナを見据えた引き合いがあり、景気は上向く可能性がある。
		農林水産業（従業員）	・景気が好転する要因がないため、景気は良くならない。
		食料品製造業（総務担当）	・世界的なインフレが続く、賃金上昇が少ないため、値上げ等の対応をすると、今後、客の買い控えが懸念される。
		繊維工業（財務担当）	・原材料の値上げや運賃、燃料費の高騰により、利益確保が難しくなる。
		化学工業（総務担当）	・原燃料価格の先行きが不透明である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼向け大型案件の生産が完了するまでは、現在の多忙な状態が継続する。
		鉄鋼業（総務担当）	・景気は多少良くなるが、大幅に上向くことはない。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・生産計画や生産状況に大きな変化はないが、今後は物価高の影響を受ける懸念がある。
		建設業（経営者）	・観光関連の建築や改修工事の新規案件の引き合いが増加してきているため、今後、景気は良くなる。
		建設業（総務担当）	・今回の物価高や資材不足が短期的なものではないため、今後も景気は良くならない。
		輸送業（業務推進担当）	・世界情勢がまだ不安定で、原材料の高騰等の影響もあって荷動きは鈍い状況が続く。
		通信業（営業企画担当）	・ICT関連の機器更新時期に合わせて動きが活発になるが、半導体不足の状態もあり、計画をずらすなど工夫をしている。今後は客の計画に合わせた引き合いが見込まれる。
		金融業（貸付担当）	・しばらくは原材料費や輸送費などのコストの高止まりや円安状況が続くため、企業の収益力向上は余り期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（融資企画担当）	・当面、地元完成車メーカーの国内生産が低水準で推移するため、系列の地元部品メーカーの多くは低調な受注が継続する。
		不動産業（総務担当）	・例年どおり、賃貸住宅需要は落ち着く。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないため、受注量が増加しない。
		会計事務所（経営者）	・コロナ禍からの脱却は進みそうだが、原材料高騰の影響でアウトソーシング等サービス消費への投資は弱くなる。
		食料品製造業（経営者）	・春に値上げして以降、一段と円安が進み、原材料が高騰したことから、再度値上げをすることになったため、今後、経営危機に陥る恐れがある。
		木材木製品製造業（経理担当）	・ロシアのウクライナ侵攻が長期化する懸念があるため、景気はやや悪くなる。
		鉄鋼業（総務担当）	・直近の受注予測では先行きの受注動向にやや陰りが差しているため、景気はやや悪くなる。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・燃料や工業薬品の値上がりが続くため、収益は一段と厳しくなる。
		金属製品製造業（総務担当）	・足元のスクラップ相場は下降しているが、一時的なものと考えており、上昇傾向に戻ると見込んでいる。製鉄会社からの鉄購入価格の大幅な値上げは、採算面への影響が不可避である。また、電気料金の上昇も採算面に影響を与える。
	x	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きから判断すると、景気回復は難しい。
雇用 関連		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・外国人の入国制限が緩和されたことで、技能実習生の受入れを前向きに検討する企業が増加しており、受入れの増加が景気回復に大きく影響する。
(中国)		求人情報誌製作会社（HR担当）	・ウィズコロナが加速し、消費が活発化しているため、景気はやや良くなる。
		民間職業紹介機関（職員）	・物価の上昇を仕入価格に転嫁することができる状況が出てくると、企業収益の回復が見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・コロナ禍の状況はプラス要因だが、物価高や海外の状況等マイナス要因もあるため、景気は変わらない。
		人材派遣会社（支社長）	・求人数は増加する一方であるが、人材不足が顕著になっているため、結局採用に至らない。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	・サプライチェーンが滞っており、製造業の設備稼働がいつ上がってくるのか、いつ改善傾向となるのか、依然として不透明感がある。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・企業の今後3か月以内の中途採用活動実施予定率は環境・エネルギー、IT・通信、医療・福祉・介護で高くなっている。中途採用実施の最大の理由は、退職者の補填や年齢など人員構成の適正化である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気に急激な変化はなく、2～3か月は現状のまま推移する。求人数や企業の採用意欲に変化はないが、求職者数は減少傾向である。
		職業安定所（事業所担当）	・雇用調整助成金の申請件数が大幅に減少しているものの、卸・小売業、宿泊・飲食サービス業からの求人数が増加していないこと、求人全体の動きが一進一退の様相であること、ウクライナ情勢等による値上げが続いていることなどから、しばらく景気は上向いてこない。
		職業安定所（雇用関連担当）	・宿泊・飲食業の求人数が増加していく可能性は高いが、応募する求職者数が少なく、需要に対応できるかが課題となる。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・新型コロナウイルス対策の緩和によるプラスの影響と世界情勢等によるマイナスの影響が相反し、景気は現状維持の状況が続く。
		その他雇用の動向を把握できる者	・ウクライナ情勢の影響による円安や物価上昇により経済は先行き不透明な状況であるが、企業は人手不足である。
		人材派遣会社（副支店長）	・物価高などによる景気の悪化が懸念される。
		職業安定所（所長）	・飲食サービス業のうち仕出業では小規模な予約ばかりで、新型コロナウイルス発生前には戻らない。また、食材費、ガソリン価格、電気料金の高騰が予想を超えているものの、商品価格に転嫁できず、多くの業種で先行き不透明感が増していることから、景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が収束傾向にあり、今後景気は必ず良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・景気の更なる悪化となればもちこたえられない。
(四国)		商店街（事務局長）	・6月以降新型コロナウイルス新規感染者数が減少し、リベンジ消費を期待している。ただし、このところの物価の上昇や猛暑による出控えがブレーキとなり、手放して喜べる消費環境ではない。
		商店街（代表者）	・ブロック割の影響で、観光客は増加している。一方、夜の街の人出はコロナ禍前の水準までは回復しておらず、状況は以前と大きく変わらない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・今年は商店街の夏の夜市も再開する予定であり、集客に期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・賃上げや今夏ボーナス支給額が良いとの情報を聞くため、売上増加につながればよいと期待している。
		衣料品専門店（営業責任者）	・7月以降の全国旅行支援により心理的なイメージは改善され、直接的な影響はないが、消費意欲も上向くのではないかと期待している。
		家電量販店（副店長）	・梅雨明けが早く、猛暑の予報が出ており、夏物商材を中心とした売上が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・上海の状況によると、今後のメーカー生産台数は徐々に改善される。
		乗用車販売店（役員）	・世界的に新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和もあり、年後半に向けて生産が回復してくる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・2～3か月先はお中元の時期となり、ビール等の飲料の売上増加が期待されるため、景気は少し良くなっていくと予想する。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの影響も落ち着き、明るい兆しである。問題は客のお財布事情だけかと思う。
		旅行代理店（営業担当）	・全国旅行支援により旅行需要は増加する。
		通信会社（営業担当）	・コロナ禍は継続しつつも、客の動きが出てきており、少しずつ改善傾向にある。
		観光遊園地（職員）	・観光需要が増加する。
		美容室（経営者）	・このまま、新型コロナウイルス、インフルエンザの影響がなければ良いと思われる。ただし、物価高の影響が心配である。
		設計事務所（所長）	・休日に関しては来客が増加傾向にある。また、商店街に新たな出店も増加している。
		商店街（代表者）	・ロシアによるウクライナ侵攻により物流の停滞と価格高騰が多少なりとも影響し、必要以上に経費が上昇している。それに加え円安が追い打ちをかけており難しい局面が続いている。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・今年に入り事態に大きな変化はない。新型コロナウイルスの新規感染者数は当地では幾分減少傾向にあり、その点は期待しているが、大きく影響するものではないと思われるため、当面、現在の状況が継続する。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・コロナ禍であり依然として気を緩められない状況のなか、物価上昇により家計がひっ迫し、消費者の買い渋りは継続する。	
	百貨店（企画担当）	・猛暑は来客数に大きな影響を与えるため、今後の見通しが立たない。	
	百貨店（販売促進）	・新型コロナウイルス感染症の早期収束は見込めないとともに、国際情勢や値上げの影響を受け、購買意欲は上がってこない。	
	スーパー（企画担当）	・今後も値上げの予定は続いており、事前のまとめ買いは続くと思われる。食品以外の値上げも続いていることから、見通しが立たない。ボーナスの支給状況により今後の動きが大きく変わると予想する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス発生前の生活に戻る人は今以上に増加することはない。生活スタイルが二極化している状況がしばらくは続く。
		コンビニ（店長）	・多数の商品が値上がりするなか、相変わらず消費は厳しく、財布のひもは固い。夜の人の動きは依然として少なく、2～3か月先が良くなるとは言えない。
		家電量販店（店員）	・ボーナス商戦に期待するが、値上げラッシュで例年よりもシビアになっている客が多い。
		乗用車販売業（営業担当）	・半導体不足は解消される見込みがないことから、当面は厳しい。
		乗用車販売店（従業員）	・新車受注は順調だが、半導体不足などによる長納期化が改善されない限り良くはならない。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束傾向にあることに加え、県民割の効果もあり、人流が回復傾向にある。
		都市型ホテル（経営者）	・物価上昇やエネルギー問題、人手不足等の課題が山積しており、景気の先行きについて判断することが難しい。
		タクシー運転手	・当県においては、新型コロナウイルス新規感染者数が100人前後で推移し、人口比率で全国8番目前後となっており、以前のような人出は見込めないことから、現状維持と予想する。
		タクシー運転手	・例年夏季になれば遍路客の仕事は全くなくなるが、猛暑が続けばタクシー利用客は増加することから、現在と同じ推移で継続する。
		通信会社（支店長）	・物価上昇のトレンドが落ち着く兆候がみられない。
		美容室（経営者）	・周囲に余り変化はない。
		スーパー（財務担当）	・外食産業への移行に加え、食品単価の値上がりで消費者の節約志向が強まる。
		コンビニ（総務）	・物価上昇の先行きが不透明であり、消費者は買物に慎重となり景気に徐々に影響していくと予想する。
		コンビニ（商品担当）	・原材料価格の上昇や物価の高騰、円安などによる影響を受ける。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・燃料費の高騰や物価高が進んでおり、今後、消費マインドが冷え込むリスクが大きいように感じている。
		通信会社（営業部長）	・度重なる値上げにより客の購入意欲は薄れると思う。
		競輪競馬（マネージャー）	・新型コロナウイルス感染症が更に収束すれば、人々の行動が様々な遊興に向いていくと予想する。
	×	商店街（代表者）	・低価格や良質志向の消費者の拡大や少子高齢化が景気悪化に拍車をかける。ウクライナ情勢が終息し、復興特需により経済にプラスになることを期待したい。
	×	スーパー（店長）	・度重なる値上げにより景気は悪化すると予想する。
	×	衣料品専門店（経営者）	・物価上昇が購買力を減退させる。
企業動向関連 (四国)		-	-
		食料品製造業（商品統括）	・食品の値上げが既成事実化され、ニュースとしての重要性が下がってきている。より適正価格へと進む雰囲気となっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品等の材料の入荷が遅れており、それに代わる代替品の開発に注力している。開発が順調に進み、製品の製造サイクルが正常に戻ると景気は上向く。
		輸送業（経営者）	・ウクライナ情勢が気になるが、おおむね堅調に推移すると思う。今までの我慢の反動があるように感じている。
		通信業（企画・売上管理）	・目先の7月の売上見込みは良好である。8月以降もレジャー、イベント系の広告出稿を期待したい。
		通信業（総務担当）	・このまま社外イベントや社会貢献活動等の再開が続けば、新型コロナウイルス発生前の状況に近づいていくと考えられる。
		金融業（副支店長）	・仕入価格の上昇分を、順次販売価格へ転嫁できつつあることや、新型コロナウイルス感染症の影響も薄らぎつつあることから、アフターコロナに向けた経済環境になりつつある。
		広告代理店（経営者）	・原材料価格の高騰により客先に影響が出ておりマイナス要因もあるが、イベント等が規模を縮小して再開される計画もあり、総合的にはやや良くなる見込みである。また景気回復に伴い採用関係の受注もやや増加すると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		繊維工業（経営者）	・売上に関しては、今後訪日外国人観光客の受入再開により全国の観光地が潤い消費は増加する。原材料等の値上がりは、一部投機的な要素もあり、今後落ち着くものもあると思うが、全てが元どおりになるわけではなく、採算は厳しくなる。ものづくり、販売方法等様々な分野で、従来のやり方は異なる新しい取組をしないと生き残れない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・ウェットクリーナーとキッチンペーパーの工場を新設したが、思った以上に売上が伸びていない。需要はあるが供給もあるからだと思われる。外出の機会が増え、インバウンドが再開することにより売上は伸びると予想する。
		電気機械器具製造業（経理）	・ロシアによるウクライナ侵攻の長期化及び円安基調による物価高に伴い、ウイズコロナによる経済や社会活動の改善が打ち消されてしまっており、景気動向としては変わらないと推察する。
		建設業（経営者）	・公共事業は堅調に推移すると思われるが、新型コロナウイルス感染症や物価高、特にガソリンや電気などのエネルギー料金、電力需給状況の逼迫の懸念、さらにはウクライナ問題など、不確実な事象が山積している。特に、今後数か月間は注視が必要と思われ、景況感は現状維持が精一杯と考える。
		建設業（経営者）	・民間工事の受注状況が気がかりである。
		輸送業（経理）	・客からの輸送計画上也大きな変化はない。
		木材木製品製造業（営業部長）	・大手住宅メーカーの受注棟数が伸びていないことから、今後の受注はダウンすると予測される。政府の景気刺激策に期待する。
		化学工業（所長）	・今後も原油やナフサの価格動向が不透明な状況に変化はないものの、原油価格の高騰も一旦夏場がピークという予測が一部あることからやや悪くなると予想する。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大防止策や各種政策の効果により、持ち直しの動きが続くことが期待されるものの、ウクライナ問題、原材料価格の上昇、調達環境の制約、各国の金融政策等不透明な状況が深まっている。
		輸送業（営業）	・取扱物量が減少傾向にあり、物価上昇による消費財の値上げを要因とした消費者の購買低迷が影響していると感じる。
	×	農林水産業（職員）	・青果物の価格は、出荷者が決められないことから、生産費を反映させた価格がつかない。また、加工食品などは値上げが続いており、量販店は客寄せのため青果物を安価に販売する傾向がみられる。量販店の販売シェアが高いなかでは市場原理を働かせることは至難の業である。国の農政を根本から変えない限り、農業従事者の所得減少に歯止めがきかない。食料安保政策に懸かっている。コロナ禍の影響も続いていることも大きい。
	×	食料品製造業（経営者）	・ウクライナ情勢、円安により原材料の仕入価格が急激に高騰しているが、しばらくは改善されず、製品のコストアップを全て販売価格に転嫁できず、利益率は悪化する。
	×	税理士事務所	・新型コロナウイルスの感染が収束せず、ロシアのウクライナ侵攻や円安の影響で物価高が止まらず、経費が大幅に増加する可能性がある。
雇用 関連 (四国)		-	-
		求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期に入り求人数の増加が予想される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・人の動きが少し活発になってきている。
		人材派遣会社（営業）	・夏休みシーズンとなり、前年度自粛していた旅行など県をまたいだ移動の増加に伴い、各公共施設、公共交通の利用者は増えそうだが、物価高や例年になほどの猛暑で人流がどう動くかが景気の動向に影響すると予想する。
		求人情報誌（営業）	・人材採用面で見ると、どの企業も充足のめどが立っておらずこのまま人材不足が続いていくと予想する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・物価の上昇などによる個人消費の落ち込みが企業の広報活動にも影響している。
		職業安定所（求人開発）	・夏場で新型コロナウイルスの新規感染者数は減少することが予想され、求人数は増加するが、原油価格の高騰が悪影響を及ぼす。
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣依頼企業の数が増え続けており派遣業の景気を不安視する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)		コンビニ（経営者）	・今後、全国旅行支援もあり、国内旅行の活性化や大規模イベントの開催、また、海外旅行者の呼び込みなど、各種景気対策の効果が期待される。
		衣料品専門店（店員）	・今後は、旅行や外出需要が増加すると予想される。
		一般レストラン（経営者）	・県民割等にも限界があり、今後は国内に加え海外の往来も緩和され円安に便乗したインバウンド需要を期待する。インフレで大変苦慮しているが、国の政策で景気回復を願っている。
		一般レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染が終わったかのように、皆出歩くことを気にしなくなっている。
		観光名所（従業員）	・繁忙期に入り、客からの問合せ等が多くなっているが、景気は行動範囲によって変わり、また、全国旅行支援の開始時期によっても変動していく。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いているが、今後の物価高や円安等が要因で、景気が落ち込む可能性が高い。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・飲食店からの新規取引の問合せが増加している。
		百貨店（企画担当）	・イベントや旅行需要の増加で来客数が増えたと予想される。また、暑い夏になるとの予報から、夏物商戦は衣料品を中心に回復し、リベンジ消費を期待しているが、コストプッシュインフレの進行が懸念材料である。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの影響も和らぎ、来客数が増加している。今まで苦戦していた飲食の売上が元に戻りつつあり、スイーツの動きも良くなっている。客の消費行動が、若干ではあるが回復傾向にある。
		百貨店（販売促進担当）	・行動規制も緩和され、来客数は更に増加傾向にある。また、高額商品の動きも良く、景気は更に良くなることが予測される。
		コンビニ（経営者）	・来店があれば対策も立てやすいが、新型コロナウイルスの感染が拡大すると、経済の動きが止まり、客単価では補うことができない。加えて、値上げ商品が増えつつあり、消費マインドに影響することが危惧される。まだ値上げ商品は一部であるが、過度にマスコミ等が取り上げることで、消費意欲を低下させてしまうことになるため、新型コロナウイルスの感染がこのまま収束することを願っている。
		コンビニ（経営者）	・物価上昇や新型コロナウイルスの感染再拡大の不安材料はあるが、人の動きは新型コロナウイルス発生前に戻っている。複数人数での来店頻度が更に高まり、ドリンクや米飯類のまとめ買いも増加していく。
		コンビニ（エリア担当）	・全国旅行支援もあり、外出頻度が多くなることが予想される。
		コンビニ（店長）	・今後の景気は、自粛制限が緩和されても、社会情勢により先行き不透明である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・商品の値上げにより、前年より売上が伸びており、来客数も若干増加している。このまま晴天が継続すると夏を乗り切れると考えている。
		家電量販店（店員）	・今年の夏は猛暑だと取り沙汰され、加えて、エアコンディショナーの品不足もあり、来客数は多くなると予想している。品不足でも、若干景気は良くなる。
	家電量販店（従業員）	・暑くなり冷房器具の需要が増えるため、景気は良くなる。	
	家電量販店（従業員）	・節電効果を訴求する商品やサービスの需要、旅行等の外出に伴う消費の高まりが感じられるため、景気は徐々に良くなる。	
	乗用車販売店（従業員）	・営業努力により、納期が長期化しても、販売量を増強していけることが分かってきた。	
	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・お中元シーズンとなるが、この業界ではコーヒー豆もさることながら、液体の加工品需要も多く売上有る。また、新規の客が増加しており、前年売上の110%を見込む。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（経営者）	・当地では、テーブルあたりの人数制限が認定店に限って解除され、人の流れを良くする効果を狙っているが、先行き不安定であるため危惧しており、今後を注視したい。
		居酒屋（経営者）	・国内外からの観光需要が増えると期待している。
		観光旅館組合（職員）	・全国旅行支援が予定どおりスタートし、梅雨も早く明けるとすれば、例年より客の動きは良くなると期待している。
		観光型ホテル（総務）	・県民割が全国旅行支援に拡大されることで、運営するホテルの宿泊客やレストランの客が増えることが見込まれる。
		観光型ホテル（専務）	・全国旅行支援が始まり増客することを期待している。しかし、夏の旅行計画は既に決まっていると予想されるため、早めのキャンペーン発表を望んでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・インバウンド需要が早く戻れば、更に景気回復に期待ができる。
		旅行代理店（職員）	・県民割がブロック割から全国旅行支援に拡大するため、販売増加を期待している。
		通信会社（企画担当）	・Web会議が定着し、見込み客や取引先との営業活動がスムーズになり、客先からの引き合いを含め順調である。
		ゴルフ場（従業員）	・新型コロナウイルス対策の規制が緩和され、国内や海外からの来場者数の増加が期待できる。
		ゴルフ場（営業）	・新型コロナウイルス対策が各場所で徹底され、また、新規感染者数が減少しており、人々が活動的になっている。
		理容室（経営者）	・梅雨明けが早く暑い夏となるため、来客数サイクルが早くなれば、収入も多くなり、やや景気は良くなる。
		美容室（経営者）	・2～3か月先は真夏となる。季節に応じたファッションの需要があるため、客の動きも出て景気が良くなってくる。
		美容室（店長）	・インバウンドが多くなると購買も増加し、景気が良くなると考えられるが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により、まん延防止等重点措置が再び適用されることを危惧している。
		商店街（代表者）	・今年の梅雨明けは早いと予想されるため、夏物衣類等の需要が多いと考えられる。
		商店街（代表者）	・4月は、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、旅行もできるようになり、自粛からの開放感から売上が上昇したが、現在は物価が上昇し始め、購買に対し慎重になっている。
		商店街（代表者）	・まだまだ商店街全店による営業ができないため、イベントで商店街を盛り上げよう対策を考えている。
		商店街（代表者）	・今年の夏は、6月から真夏日となり、外出も減少する。その上、大型ショッピングセンターで涼を取りながら買物する人が多くなるため、商店街は厳しい夏になり、売上が悪い状態は変わらないと予想される。新型コロナウイルス感染症の早い収束を願っている。
		商店街（代表者）	・電気やガス、生活必需品等の物価上昇により、消費行動が鈍くなると考えられる。
		商店街（代表者）	・生活必需品の値上げで景気は変わらず、客に販売促進し売上増加を目指す。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・記録的な梅雨の短さであるが、この猛暑が8～10月まで続く予想され、野菜の出来高が悪く、価格高騰で販売が難しくなると考えている。
		一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	・値上げラッシュの勢いは止まらず、メーカーからの値上げ通達の連絡が途絶えることがない。新型コロナウイルスの影響が落ちてきたタイミングに水を差す格好となっており、販売先である外食産業への影響は大きい。
		百貨店（企画担当）	・円安や物価高など新型コロナウイルス以外の要因も含めて不透明な要素が大きく、景気は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・サテライトショップやギフトショップ、ネット受注、お中元通信販売は堅調に推移しており、夏の贈物や官民一体のキャンペーンで、周辺地域を含めにぎわいが期待できる。店頭の購買客単価や商品単価も依然堅調であり、自家需要やし好性の高い舶来雑貨・時計・リビング用品・和洋酒はギフト需要が加わり期待できる。
		スーパー（店長）	・現状トレンドは横ばいで推移すると予測しており、物価上昇が今後も継続される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（総務担当）	・食品を始めとした値上げで、消費者の節約志向はより高まっていく。そのため、ディスカウントストア等との価格競争では、今までと同じ数量を販売していると収益は減少するため危惧している。
		コンビニ（経営者）	・気温上昇によりアイスクリームや飲料水の売上増加で前年を上回ることを期待しているが、新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		衣料品専門店（店長）	・季節的にも需要が伸びる時期であるが、低調な状態であり、若干は良くなると期待している。
		衣料品専門店（取締役）	・家計に余裕がある客は、購入の仕方に変化がないが、野菜や原油の値上げ、猛暑などの不安材料により、今後高額衣料品を購入する気持ちになれるか懸念している。
		家電量販店（店長）	・業界では商品の供給が不安定な状況にあり、売りたい商品がない状態が続く。
		家電量販店（店員）	・半導体不足や海外のロックダウン等で家電製品の製造停止が続く、供給が間に合っていない。客も理解しており強い要求はないが、商品がある物から売れている状態で、商品に余裕があれば、売上が増加したのが実情である。3か月では好転しないと予想している。
		乗用車販売店（総務担当）	・余計なコストが発生し、大変厳しい状況が当分の間続くため、メーカーの新車生産が改善する見込みがない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（企画担当）	・インバウンド客の姿が見え始めているが、業績全体を押し上げる効果が出るにはまだ時間が掛かる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・この1～2か月はゴールデンウィーク前後から続く自粛の緩みが継続しており、加えてシネマも順調に推移している点が好影響をもたらしている。物価高などの報道次第では、現在の推移が変わるため、今と同水準程度と見込んでいる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・インバウンドの回復に期待している。国内観光客も全国旅行支援で改善が期待できるが、物価高と円安が悪影響を及ぼし、相殺されるのではないかと懸念している。
		タクシー運転手	・ウクライナ情勢による原油やガスの高騰や物価高、また、新型コロナウイルスの感染再拡大、加えてインフルエンザの流行も報道されており、不安要素が多い。
		タクシー運転手	・様々な地域共通クーポンが出ているが、まだ利用者が少ないため、景気は変わらない。
		通信会社（統括者）	・携帯電話販売の業界では、事業者間の乗換え競争となっており、当分継続すると予想している。携帯電話の買換えは、同じ機種を使い続ける期間が以前よりも長くなりつつある。
		競馬場（職員）	・新型コロナウイルス対策の規制緩和で人出は戻っているものの、インフレや円安で家計が圧迫される影響が出てくる。
		美容室（経営者）	・先行き不透明で、動きが取りにくく不安が続く。
		設計事務所（所長）	・受注状況に大きな変化がないため、景気は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスやロシアによるウクライナ侵襲による世界的経済の景気低迷、また円安などで物価が上昇し、非常に影響を受けると予想していたが、現状では余り問題にはならないとみている。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いてくると、経済も良くなると期待をしていたが、値上げやウクライナ情勢、気候の変動に影響され、今後どのように経済が変化をしていくか不安材料が多い。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・来月は土用の丑の日があり、売上に少し期待している。しかし、ウナギの価格は高く、どのような動きになるか不安である。漁業業界だけでなく、国全体として資源について考えなければ、漁業がなくなりがねない状況である。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・現在は開店祝い用の波も収まり、夏はお盆に需要がある程度となるため、しばらく売上が落ち込むと予想される。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新型コロナウイルスの影響とウクライナ情勢の緊迫化で、今後の売上也予想が付かず期待できない。例年と比較すると売上が低く、これ以上悪くならないことを願っている。
		百貨店（総務担当）	・物価上昇により景気は悪くなる。
		百貨店（企画担当）	・物価上昇の傾向は変わらず、大きな購入の動機がない限り、買い控えが予想される。
		百貨店（業務担当）	・先の見えない物価上昇や電気代の値上げ等で客の防衛意識はより強くなっており、購買意欲は低下する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経営企画担当）	・物価上昇や猛暑による電力使用量の増加で、物販消費への節約志向が高まる懸念がある。
		スーパー（経理担当）	・コストプッシュインフレが進行しているため、ガソリンや電気代、食品等の値上げに対して、節約が行われる。
		コンビニ（店長）	・今後の物価高などで、景気は悪くなる。
		家電量販店（店長）	・商品供給面で、海外のロックダウンの影響をまともに受けている。主力商品が欠品しており、売上が減少している。ロックダウン解除後も正常な状態に戻るには時間が掛かると予想されるため、数か月で回復するのは難しい。
		乗用車販売店（従業員）	・海外のロックダウン等の影響は続いており、商品生産への大きな影響が継続する。
		住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルス対策の規制緩和が進み、消費が多くなっているが、すでに巣籠り需要で家具などの買換えをした消費者は、買い控えをしている。旅行関係の業界以外では、物価高などもあり景気回復は厳しい。
		住関連専門店（従業員）	・酷暑が予想されており、来客数にネガティブな影響が出る事が予想される。
		スナック（経営者）	・物価上昇の影響で、消費者心理が外食や娯楽費を節約志向にさせている。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・原材料や原油価格、電気代の値上げの影響で、原価と経費が大幅に上昇することが見込まれている。販売価格に全て転嫁できるかどうか未確定であり、景気はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・参議院選挙が始まっているが、若干大きなうねりがあると予想され、経済が良い方向に進むことを期待している。
		通信会社（企画担当）	・光回線提供エリアの拡大が一段落し、販売件数の増加が見込めない。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・円安や原油高の影響が大きい。客は輸出中心の企業であり、適度な円安は歓迎であるが、現在の為替レートでは厳しく、購入品等に跳ね返っている。原油高による燃料費の高騰はそれにもまして影響を受けてくる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・ガソリン代や電気代、紙製品等の値上がりによるコストが前年度より増加し、今期の損益に継続的な影響を与える可能性がある。
		設計事務所（代表）	・物価の上昇で、景気は悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・今年は猛暑が予想されており、客の動きにも影響が出てくる。
	x	商店街（代表者）	・キャンペーンや割引等ができる体力はなく、企業では経費使用上限が設けられている。販売促進につながる企画が現段階では思い付かず、売手、買手は共に保守的である。
	x	スーパー（店長）	・円安による物価上昇がダイレクトに生活へ影響し、客の財布のひもは固くなっている。限られた収入からの支出増加は考えにくい。
	x	スーパー（企画担当）	・人流が回復しても、物価上昇の影響が大きく、景気が良くなる要素が見当たらない。
	x	乗用車販売店（代表）	・今後の新型コロナウイルスの影響や物価高などの影響が表れてくる。
	x	高級レストラン（経営者）	・会社関係の利用が多い当店では、7月の参議院選挙までは動きがないため景気は悪い。
	x	設計事務所（所長）	・世界情勢にも左右されるが、材料単価や製品単価の上昇が続くが、収入は増加しないため景気が悪くなる。
企業 動向 関連 (九州)		*	*
		食料品製造業（経営者）	・受注が回復傾向にあるが、原料農作物の価格高騰や天候等による収量減少は不安材料である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・2～3か月先には、売上の数字が上昇しない要因が解消されていくと予想している。一番の懸念は、円安の状況による輸出量の動きである。取引先は、その点を考慮しながら生産計画を立てていると考えられるが、期待はしている。
		電気機械器具製造業（取締役）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着き、海外企業の動向等状況が良くなる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・客からの生産見込みは、半導体関連を中心に好調が継続する。
		建設業（社員）	・地方の民間工事は期待できず、依存する官公庁の発注に期待するしかないのが現状である。
		輸送業（従業員）	・海外からの引き合いが多く、円安で利益が増加する海外向けに注力していく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（従業員）	・食料品やガソリン等の価格が上昇しているが、百貨店やスーパーマーケットの売上は回復傾向で、住宅販売も持ち直している。また、旅行者や飲食店の売上もおおむね順調に回復している。
		金融業（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況によるが、現状の景気が継続すれば、政府の景気政策が功を奏し、全業種の売上が、ここ2～3年より増加することが見込まれる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、通常の生活に戻り始める兆しはあるが、まだ新型コロナウイルスの新規感染者数は増えており、夏の感染状況が不安であるが、徐々に景気は良くなっていく。
		農林水産業（経営者）	・今年の梅雨明けは例年になく早く、7～8月は暑い夏が予想される。ビールに合わせた商品が、居酒屋やスーパーマーケットを中心に出荷されると考えられ、自粛をしていた消費者も動きが出て、消費拡大につながるとみている。しかし、経営では、地代の値上げが大きな負担となり、秋口には優劣の差がはっきりする。今後、人手不足に加え、コストの上昇が大きな負担となり、厳しい状況が続く。
		家具製造業（従業員）	・材料資材や原油価格の高騰に歯止めがきかない以上、景気回復までの道のりは険しい。また、円安の影響もあり輸入経費がかなり圧迫している。
		化学工業（総務担当）	・本年度は前年並みの売上を見込んでいる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・原材料である陶土や燃料のガス等ほとんどが値上がりし、商品の価格が上がれば受注が減少することになり、難しい状況になっていく。
		金属製品製造業（事業統括）	・客の工程延期の原因は資材高騰や納期遅延の影響が大きく、ウクライナ情勢が不安定な状況であり、また、中国の新型コロナウイルス対策でも左右される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の引き合い状況などから、当面今の受注量は続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・引き続き受注に大きな落ち込みはないと考えられる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・部品供給不足の影響は、しばらく継続する見通しで、内示数も減少している。
		建設業（従業員）	・大型受注や官公庁の受注が難しく、景気が上向かない。現状は管工事が中心のため、売上が厳しい。
		輸送業（従業員）	・物価上昇が続いているが、従業員の賃金はあがらない。時間外労働も上限があり、可処分所得の増加が見込めない。
		輸送業（総務担当）	・世界的な食糧・資源の不足となっており、鉄鋼材などの価格上昇がじわじわと経済を圧迫してくる。企業にとって先行きが見通せない状況であるため、設備投資にも慎重にならざるを得ない。コロナ禍のように即刻経済が悪くなることはないが、好材料となる情報も余りない。
		通信業（職員）	・官庁が施主の営業案件数と受注予想額が伸びず、受注目標に対して厳しい状況となっている。
		通信業（経理担当）	・業績は堅調に推移していくが、大きく好転する要素は見当たらない。
		金融業（営業）	・経済活動の再開は今後も広がっていく。サービス業の景気は上向くと思われるが、商品不足解消等のめどはなく、幅広い分野で景気拡大の足かせとなる。総合すると現状維持である。
		金融業（調査担当）	・インバウンドの入国緩和など、人流の増加に伴い、サービス業の回復が期待される。ただし、製造業における材料不足が解消されるには、時間を要するため、景気全体としては、変わらない。
		不動産業（従業員）	・賃貸オフィスの入居率は、横ばいに推移している。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・旅行広告は増えているものの、通販広告の減少を補うことができない。
		広告代理店（役員）	・今後景気は上向きになると予想していたが、東京本社の収益が伸び悩んできており、その影響が少し遅れて表れる可能性が高い。
		経営コンサルタント（社員）	・新型コロナウイルス対策の効果で明るい兆しが見えてきたが、まだ収束には程遠く、活発な動きが出る状況ではない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・Webのアクセス数、問合せ件数に大きな変化がない。
		その他サービス業〔物産リース〕（職員）	・円安による物価上昇が、今後の経済へ与える影響が分からないため、現状では変化はないと考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		繊維工業（営業担当）	・人材不足が影響している。機械関係も部品調達できないなど、先行き不透明で危惧している。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・取引先で、6月から増産予定で進めていた案件が増産中止となり、更に金属相場が大幅下落で落ち込んでいる。7月に動きが出ることに期待したいが、不安要素が多い。
		金融業（調査担当）	・物価上昇基調が当面続くことが見込まれ、昇給が期待できず、購買力低下による景気の下振れ懸念が強まっている。
		不動産業（経営者）	・先行き不透明で、状況が回復しない。
		広告代理店（従業員）	・景気に対する不安から、当面このままの状態が推移する。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・当県の市町村の予算書では、まだ新型コロナウイルス対策の支援金関係等に当てられており、今後も調査や建設コンサルタント向け業務の発注数が減少することが予想される。このため、更に景気が悪くなる。
	x	-	-
雇用 関連 (九州)		求人情報誌製作会社（編集者）	・夏休みから秋口にかけて需要に期待するが、今のところ目立った動きはない。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少せず、派遣中のスタッフによる転職相談等も増えつつある。企業の採用では問合せが増えており、景気は良くなると期待している。
		人材派遣会社（社員）	・求人数が増加傾向である。各社新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されており、出張や対面会議の開催頻度が高くなり、残業時間の増加に伴う採用がみられる。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・夏休み向けの旅行商品だけでなく、秋以降の旅行の募集や旅行広告の掲載も目立っており、新聞広告の状況をみる限りでは、現状の好調さは今後も続く予想される。景気の先行きの目安である求人広告で、5月に実施した求人広告特集は、前年以上の掲載となっている。当地区における新型コロナウイルスの新規感染者数が、直近数日で微増傾向にあり、若干懸念している。今後再び爆発的な新規感染者数となれば、状況が変わり得る。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・参議院選挙が終われば、新型コロナウイルス感染症に対する緩和策が出てくると予想される。円安であるが、海外観光など外需が増えれば景気は良くなる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の前年比は、増加が継続しており、また、新型コロナウイルスの影響による休業相談及び雇用調整助成金の申請件数は減少が続いている。
		人材派遣会社（社員）	・以前注文があった企業へ現状確認をするが、人手が必要な企業はなく、現在契約中の企業からも追加の注文はない。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しており、売上は伸びないと予想される。
		職業安定所（職員）	・卸売業や小売業で求人数が増加しているが、求職者数が減少しており、労働力不足は解消されていない。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているが、人の動きが活発になっているため、景気回復が見込まれる。しかし、同時に原油高や原材料の価格高騰によるコスト高により、収益悪化も懸念される。一方で、新幹線開業や新たな設備投資の予定もあり、全体としては景気の変動が少なく現状維持で推移する。
		民間職業紹介機関（職員）	・更に就職率が良くなるためには、インバウンド需要が戻り、流通やサービス業、旅行、ホテル、空運等が回復する必要がある。外国人観光客が新型コロナウイルス発生前のように来日することは当面期待できず、現状維持がしばらく続くと考えられる。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・新型コロナウイルスの防疫と経済活動の両立が進み、日本経済には明るい兆しもみえてきたが、依然ウクライナ情勢の長期化や今後も物価高が続く見通しで、日本経済への影響も大きくなっている。この状況はしばらく続くと思われる、今後の企業の求人数にも影響を及ぼすことになると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)		コンビニ(代表者)	・Go To Travelに代表されるような政策の実行により人流は一層盛んになり、景気は回復していくと判断している。
		コンビニ(副店長)	・7月からの全国旅行支援を始め本格的な夏を迎え、またクルーズ船も来航する動きがあり今後にかなり期待を寄せる。
		家電量販店(営業担当)	・新型コロナウイルス感染症の影響が弱まる。観光客の増加が予想される。
		百貨店(店舗企画)	・今後、夏場に向け、観光客の増加に期待している。空港の国際線の復活も明るい兆しとみている。
		コンビニ(経営者)	・観光客が徐々に増えてくると各種イベントの再開などで売上が期待できる。
		その他専門店[陶器](製造)	・夏は観光客が戻ってくると予想している。
		観光型ホテル(代表取締役)	・7～8月の宿泊予約の動きがここ数か月前と比べて良くなっている。全国旅行支援の施策が動くことで更に増えると予想している。飲食宴会は徐々に予約が増えている。
		旅行代理店(マネージャー)	・急にストップが掛からなければ徐々に回復傾向であるとみている。
		通信会社(営業担当)	・沖縄県は観光が盛り上がりないと市場全体が落ち着いてしまう。この先新型コロナウイルスの感染状況も収まり国内外からの観光客が戻れば、市場も全体的に活気付き、客足も伸びるのではないかと期待している。
		その他サービス[レンタカー](営業)	・先行きの予約状況は2019年度と同水準まで回復している。県民割などの施策効果で、特に旅行代理店経由の予約回復幅は堅調である。しかし、今年は車両調達が厳しいことで保有台数が限られているため、夏季繁忙期は既に満車日が多い状況である。
		スーパー(企画担当)	・消費者の節約志向が今後ますます強くなると予想されることから、現状のような厳しい状況が続くとみられる。
		乗用車販売店(経理担当)	・商品の供給不足が続き、更に生産が落ち込む見込みである。
		住宅販売会社(代表取締役)	・住宅用地価の高止まり、資材の高騰など良い材料が見当たらない。
		住宅販売会社(役員)	・新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着き、県外からの客も増えるとみられるが、物価高や金利上昇懸念から住宅購入に対し慎重な姿勢になるのではないかと。
			商店街(代表者)
		衣料品専門店(経営者)	・今のように円安、原油高、物価上昇が続くとすると到底良くなるとは考えられない。逆に悪い状況が改善されれば、持ち直すかもしれない。
		観光型ホテル(企画担当)	・ホテルの6月の販売室数が前年比152%増加なのに対し、6月末時点での9月の予約室数は前年比20%増加と、プラス幅が小さくなっている。
	x	その他飲食[居酒屋](経営者)	・客の動きは活発になりつつあるが、食材が大幅に値上がりしている。また、求人募集に応募が全くなく、必要な人数のスタッフがいないため、店休日を入れないとシフトが回らなくなっており、機会を損失している。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-
		*	*
		食料品製造業(役員)	・しばらくは現状が続くとみている。今後、販売価格への転嫁が進み収益状況が少し改善されていくことを期待している。
		建設業(経営者)	・見込み度の高い客の相談件数が減少している。
		輸送業(経営企画室)	・継続して値上がりが続くと予想されるため、特に景気は変わらないと予測される。
		広告代理店(営業担当)	・外国人観光客受入れ再開などで景気回復を期待する声がある一方で、先行きの景気を見通せず、販促費を抑える傾向もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		窯業土石業（取締役）	・原材料価格高騰の影響を受け収益悪化しているが、価格転嫁に苦慮している。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、官需部門では石垣島の陸上自衛隊関連工事が順調に進み、民需部門では宮古島のホテル等で回復がみられ、軽石問題は軽減されたが、新型コロナウイルス感染症の影響はまだ強い。ウクライナ問題で端を発した、燃料や食料等の物価高などの影響が懸念される。
	x	-	-
雇用 関連		-	-
(沖縄)		求人情報誌製作会社（営業担当）	・沖縄県内の全体的な求人数が増加する。
		求人情報誌製作会社（営業）	・秋口から年末に掛けた社員系中途採用求人数が活発になる時期であり、前年度においても緊急事態宣言下ながら9月の6月比は約130%となっていた。前年度のような上がり幅は期待できないものの、今月よりは増加すると予測している。
		職業安定所（職員）	・観光業界は夏に向けて経済活動が復調する。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・これまで海外でやっていた業務が、円安の影響で国内に移行されている可能性が高い。設備投資が余り必要のないBPO企業を中心に業務が増え、求人数や採用数の増加が見込める。
		人材派遣会社（総務担当）	・物価上昇、新型コロナウイルス感染者数の横ばい等で、なかなか景気は良くならないとみられる。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・新型コロナウイルス感染症による不景気が、世界情勢など一部悪化によってさらに強まる懸念がある。
	x	-	-